

これを連體言とし、重文とする時は理窟の上には不合理なからむが、感情の集注といふものな  
くなり、甚しく散文化すべし。これは眼前の景を見て感懐を起す所なれば、花サクとよみて一  
段落とせざるべからず。「屋前をヤド」とよむことは上にいへり。

○時者經去「トキハヘヌ」とよむこと異論なし。意明かなり。

○吾泣涙未干爾「ワガナクナミダイマダヒナクニ」とよむこと異議なし。これと同じ語は卷五  
七九六に「伊毛何美斯阿布知乃波那波知利奴倍斯和何那久那美多伊摩陀飛那久爾」あり。吾が  
泣く涙も未だ干ぬに、時は經ぬといふべきを反轉法によりて斯くせるなり。

○一首の意 妹が我と共に見たる宿に昔の如く花咲きたり。亡せにし人を戀ひて吾が泣く涙  
のいまだ乾きもせぬには、やくも時は經過したるよとなり。力强くよき歌なり。

### 悲緒未息更作歌五首

○悲緒 この熟字は謝靈運の長歌行に「覽物起悲緒、願已謝憂端」とある如く、悲哀を感ずる端緒の  
義なれど、緒をコトの意にとりなして悲しみのことの義とするなり。

○未息 「イマダヤマズシテ」とよむ。上によめる三首の短歌及び長歌並に反歌三首をよみても  
なほ悲しみの心やまずして事にふれて悲を感ずるなれば、更に作れる歌なりとなり。

如是耳有家留物乎、妹毛吾毛、如千歲、憑有來。

(四七〇)

○如是耳 舊訓「カクシノミ」とよめるを代匠記に「カクノミニ」とよめり。これは上四五五の「如是  
耳有家留物乎」と同じ語なれば、そのこと同じくよむべし。

○有家留物乎 「アリケルモノヲ」とよむ。この語の例上にあぐ。

○妹毛吾毛 「イモモワレモ」とよむ。この語遣の例はこの卷四三七に「妹毛吾毛清之河乃河岸之  
云々」卷四五〇八に「妹毛吾母甚戀名相因乎奈美」などあり。意明かなり。

○如千歲 舊訓「チトセノゴトク」とよみたるを考に「チトセノゴトモ」とよめり。按ずるに「如は、ゴ  
トク」とも「ゴトモ」ともよみうべきが「ゴトモ」といへる例は卷九一八〇七に「昨日霜將見我、碁登母  
所念可聞」一八〇九に「新裳之如毛、哭泣鶴鴨」とあるが、下は「カモ」といふ歎息の語遣となれり。こ  
こはそれと語遣一致すべきにあらねば、尋常に「ゴトク」とよみてあるべし。かく「千歳の如く」と  
いへる例は卷十一二三三七に「今日如千歲有與鴨」又二三八一に「是二夜千歲如吾戀哉」とあり。  
この意は千歳も共に眞幸くてあらむが如くに思ひたりとなり。

○憑有來 舊訓「タノミタリケル」とよめるを童蒙抄に「タノミタリケリ」とよめり。按ずるに「ケル」  
ととぢむる時は普通は上に「ゾ」「ナモ」「ヤ」「カ」の係助詞あるべし。これらなくして「ケル」ととぢむ  
ることは萬葉集時代にては極めて異例なり。然れども、卷二十四四九六に「宇良賣之久伎美波  
母安流加夜度乃烏梅能知利須具流麻泥美之米受安利家流」の如きもの全くなきにもあらず。  
今、この處は感懐を寓する所なれば「ケル」とよみたる方よかるべし。この故に舊訓に隨ふ。「有  
を」タリにあつること「來」を「ケリ」にあつることは上に屢例ありたれば今いはず。



○一首の意　かくの如く短き契のみにてありけるものを、女も我も、千歳も共に眞幸くてあらむが如くに思ひ憑みてありたることよとはかなき世間の無常をかこちたるなり。

(四七一)

離家伊麻須吾妹乎停不得山隱都禮情神毛奈思

○離家　舊訓「イヘサカリ」とよみたるを童蒙抄に「イヘサハナレ」とよめり。「イヘサカリイマス」といへる例は卷五七九四に「加多良比斯許呂曾牟伊弊社可利伊麻須」あり。さればわざと字餘りによむべきにあらず。舊訓のまゝにてよしとす。家を遠ざかりての意なり。

○伊麻須吾妹乎　イマスワギモヲとよむ。さてこの「イマス」を槻落葉に「往ます也」といひ、古義に「は行座」といふが如しといひ、攷證に「往ますといふ也」といひたり。然れども「います」といふ語に「行く往ヌ」といふ意の存することの説明なし。こは如何に考へても「行く往ぬ」といふ語と同じ意の語とは信じ難し。若し「イ」といふを一の用言と見るにか。然らばこれは如何に活用する語なるか。かゝる語、古にも見ず、今も聞かざるものなり。されば上の諸説皆非なりとすべし。これは上の「家離り」にて、家を離れて或る所に行きたるを既に示せるものなれば、特に「行く往ぬ」といはずしても明かなるものなり。されば「います」はたゞの「います」にて意不十分ならざるものなりとす。「吾妹」は上に屢いへり。

○停不得　寛永本の假名不十分なれど、拾穂抄に見る如く「トバメカネ」とよめりしものと思はる。童蒙抄は「トバメエズ」とよめり。槻落葉は「トバミカネ」とよみ、攷證古義之に同じ。かくてこの

よみ方は「停」のよみ方と「不得」のよみ方とに分ちて研究する要あり。停は今普通には下二段活用なれば「トバメ」とあるは當然といふべし。然るに既に諸家の論ずる如くに、卷五八〇四に「等伎能佐迦利乎等々尾迦禰周具斯野利都禮」又八〇五に「等尾可禰都母」又八七四に「由久布禰乎布利等騰尾加禰」といふはみなこの訓み方の例とする所のものなり。又卷九一七八〇に「夕鹽之滿乃登等美爾」とあるは「トバム」の連用形の居體言となれるものなり。然する時はこの「トバミ」といふ用言はマ行四段活用をなすものの如く見ゆ。されどその活用としてはこの「トバミ」のみなればかく斷言すること困難なりとす。これにつきては槻落葉古義は説明なく、攷證のみは「み」とめと音通へばとゞめといふに同じといへり。然らば「とゞめかね」といへる例無きかといふに、卷十九四一六〇に「爾波多豆美流滯等騰米可禰都母」卷十七四〇〇八に「奈氣可久乎等騰米毛可禰底」などあり。その他「等杼米且」卷十八四〇八五「留目六」卷四七〇八「等杼米且」(卷十五三六二七)等騰米之「卷二十四四〇八」留流「卷十一二六一七」等登牟流「卷十一二六一七」等登牟流「卷十八四〇三六」等あり。今これらの例を通じて見れば、これは「トバメ」の場合下二段活用なることは著しきものなれど、「トバミ」の場合には四段活用なりとすべき確證なきのみならず、諸家の説もただ「トバメ」の音の轉じて「ミ」となれるのみといふ如きなり。この説によらば、「トバミ」の方は雅言にあらずして一時的現象たる訛言なりといはざるべからず。次に「不得」は「エズ」ともよみうべきものにして、既に卷二二〇七の「聞而有不得者」二二〇二二三の「晋之不得者」の「不得者」を「エネバ」とよみ來れるが上に、しかよむ外あるまじく、又この卷にては、四六一の



「留不得壽爾之在者」の「不得」も「エヌ」とよむ外あるまじきものなり。この外「不得」を從來「エズ」「エヌ」とよめるもの多く、それらは皆その外によみ方あるまじき所なり。然るに一方には又「不得」をこの如く「カネ」と読みたる例少からず。それらのうちには「エズ」とよみて差支なきものも少からねど、又「カネ」とよまではあらぬ所もあることはこの巻の「三九七」の「根深目手結之情忘不得」の下にいへるが如し。されば、二者共にありうべきことにして意も大差なし。さらば、こゝはいかにすべきかといふに、上にいへる「トドメカネ」の例の多きにつれてこゝも「カネ」の方による方よからむと思はる。

○山隠都禮 舊訓「ヤマカクレツレ」とよみたるが、槻落葉は「ヤマカクシツレ」とよみ、略解は「ヤマガクリツレ」とよめり。槻落葉にはその理由を示さざれど、「吾妹乎」とあるに對するものとしたるならむ。されど、「吾妹乎」の「乎」は「停」にかゝりてその用をはたしたるものにして、こゝは「吾妹が山に隠れたれば」といふ意なるべければ、舊訓の方まされり。但し、古語には「カクル」は四段活用なりしこと既に説きたる如くなれば、略解のよみ方をよしとす。さてこの「都禮」の已然形はそれにて下に接続して條件を示すものにして後世の語法にては「つれば」といふべき所にしてこゝは古の語法の一格なりしこと上に屢いへる所なり。

○情神毛 舊訓「タマシヒモナシ」とよめり。玉の小琴は田中道麻呂の説として「コ、ロトモナシ」とよむべしとせり。「タマシヒ」といふ語も本集に例なきにあらねど、こゝにては、かくよみては意十分に通らず。「ココロドモナシ」とよむ語の例はこの巻「四五七」の「君師不座者心神毛奈思」の下

にいへる如くなれば、こゝもそれに同じ趣の意として「ココロドモナシ」とよむこととせり。その語意も「四五七」の下に説けるに同じ。

○一首の意 家を出で離れています妹をとどめむとしたれども停めかねて、妹が山に隠れはてたれば、その歎き愁へにまどひ、われは心のありどころも知らずとなり。

(四七二)

世間之常如此耳跡、可都知跡、痛情者、不忍都毛。

○世間之 舊訓「ヨノナカノ」とよみたるを略解に「ヨノナカシ」とよめり。これは「世間」シ「常如此耳」といふ關係になるものにして、「シ」といへる方感動を寓すること深きなり。

○常如此耳跡 「ツネカクノミト」とよむ。これは「世間」シ「常如此耳」有「ケル」などの語を略するかといふにて一の句をなすを「ト」にて受けたるものなり。世間といふものは常にかくはかなくのみあるものと云々の意なり。

○可都知跡 「カツシレド」とよむ。「カツ」の語の用例は卷八「一六二六」に「妹之形見跡可都毛思怒播」武卷四「五四三」に「安蘇蘇二破且者雖知」などあり。この語の意は攷證に「宣長云、かつはこの事をなしながらかの事をもし、あるは、この事のあるに、かの事もはじまるやうの所につかふ詞也云々」といはれつる如く、こゝは世の中をば、常にかくばかり、はかなきものなりとはしれどもといふ意也」といひ、略解は「さてしれど、かつと心得べし」といへり。

○痛情者 舊訓「イタムコ、ロハ」とよめり。童蒙抄は「イタキコ、ロハ」とよみ、槻落葉、略解、古義、攷



證等は皆しかよめり。按ずるに「痛」字は「イタキ」とも「イタム」ともよむべきが故に、そのみにて直ちに可否をいふべからねど、上にもいへる如く、心に對しては専ら「イタシ」といへるが故に、「イタキ」の方によるべし。卷二十四三〇七に「秋等伊弊波許已呂會伊多伎」四四八三に「許已呂伊多久牟可之能比等之於毛保由流加母」卷十七四〇〇六に「則許母倍婆許已呂志伊多思」卷八一五一三に「春日山黄葉家良思吾情痛之」卷十三三三一四に「會許思爾心之痛之」など皆その傍例たり。その意は上の長歌の「曾已所痛」の下にいへるに相同じ。

○不忍都毛 舊訓「シノビカネツモ」とよみ、考は「不」の下に「都」を加へて「シヌビカネツモ」とよめり。代匠記は「不」の字の下に「得」の字を脱せるか。或は忍不得なるべし。今のまゝにては義通せずといひ、次いで考が「得」の字を加へてより「楓落葉略解古義攷證等皆之に隨へり。然るに童蒙抄は「或抄得の字を脱したるかといへり。さもあるべきか」といひたるが、なほ別に「不」の字計にては「も此集中かねると讀めること多し」といひたり。然れども「楓落葉は「不忍」の二字のみにては「かね」とよむ字なし。故私に「得」の字を補つ」といへり。さて按ずるに、諸本一も文字に異同なければ漫に誤脱ありと論ずべからず。しかも亦「不」を「かぬ」とよむべき所は「不」の字義によりて不合理なりといされど、「不忍」の二字を義訓として「忍びかぬ」にあつることは「不」の字義によりて不合理なりといふべからず。さればここに「脱字あり」といふことは首肯すべからず。さて「シノビカ」か「シヌビカ」といふにこれは上に「屢いひ來れる如く、シヌビカネツモ」とよむべきなり。「シヌビ」の意は既に「屢いへり」。

○一首の意 世間といふものは常に老少不定無常迅速のはかなきものとは且つは知りながらも、しかも悲み歎きに痛き情は忍びがたきことなるよとなり。

佐保山爾多奈引霞每見妹乎思出不泣日者無

(四七三)

○佐保山爾 「サホヤマニ」なり。「サホ山は上四六〇にいふ佐保乃山なるが、次の歌によればそこに亡妾を葬りしなり。恐らくは大伴家の墓地ありしにあらざるか。

○多奈引霞 「タナビクカスミ」なり。代匠記に曰はく「霞を春秋に通して讀こと、第二に磐之媛の御歌に註せしが如し。霞はうるはしきに付てもはかなきに付ても思ひ出べし。古今にもかずく」に我を忘ぬ物ならば山の霞をあはれとは見よ」といへり。さる事なり。攷證に「こは霞を見て火葬の煙を思ひ出し也」といひ、略解古義等皆同じ説なれど、これは穿ち過ぎたる説にして特にさる事のことわれるは別としてその墓のある山にたなびく霞にて亡き人を思ひ出づるは自然の人情なり。必ず火葬の煙を思ひ出づといふべきにあらず。

○每見 「ミルゴトニ」とよむ。「毎」の字は卷二一三一以下に屢見ゆ。意明かなり。

○妹乎思出 舊訓「イモヲオモヒイデ」とよみ、たれど九字の一句は長きに過ぐ。童蒙抄には「イモヲオモヒデ」とし、考は「イモヲオモヒデテ」とし、略解は「イモヲオモヒデテ」とせり。これは日本書紀仁徳卷の御歌に「望苦弊破積瀾鳥於望臂泥須惠弊破伊暮鳥於望比泥」卷二十四三九八に「波呂波呂爾伊弊乎於毛比渥於比會箭乃會與等奈流麻渥奈氣吉都流香母」などの例によりて「オモヒ



デとよむべきものなり。意明かなり。

○不泣日者無 ナカヌヒハナシとよむ。意明かなり。

○一首の意 明かなり。佐保山にたなびく霞を見る毎に亡き妾を思ひ出でて泣かぬ日とは無しとなり。言簡易にして意甚だ深し。上乘の歌と評すべし。

(四七四)

昔許曾外爾毛見之加吾妹子之奥柳常念者波之吉佐寶山。

○昔許曾 「ムカシコソ」とよむ。意明かなるが、この昔は現在以前をいへるにて遠き昔の意にあらず。

○外爾毛見之加 「ヨソニモミシカ」とよむ。「外」を「ヨソ」とよむことは卷二「一七四」の外爾見之檀乃岡毛君座者常都御門跡侍宿爲鴨の下にいへり。「ヨソニミシ」の意も上の歌に准じて知るべし。以前は我に關はりなきものと見たりしとなり。「シカ」は「コソ」の係に對する終止たり。ここに一段落とす。

○吾妹子之 「ワギモコガ」とよむ。意明かなり。

○奥柳常念者 舊訓「オキツキトオモヘバ」とよめり。代匠記は奥柳をば袖中抄に「おくつき」とよめるをあげて「袖中抄のよみ日本紀に叶へり」といへり。これを槻落葉は「オクツキ」とよみ、略解攷證、古義は「オクツキ」とよめり。日本紀に「オクツキ」といふ語の假名書の例あることはなければ、この語の事は既に上の「四三一」に論じたる所なり。さればここも「オクツキ」とよむべきなり。

「オモヘバ」「モヘバ」いづれも不可なきが故に、舊訓を改むる必要なし。意明かなり。

○波之吉佐寶山 「ハシキサホヤマ」とよむこと論なし。「ハシキ」といふ語は卷二「一一三」の波思吉香聞「二二〇」の愛伎妻等者などの下に屢いへり。「サホヤマ」を「佐寶山」とかけるは、懷風藻に長屋王のサホなる宅を寶宅といひ、その樓を作寶樓とかけるなど、好みて「寶」の字を用るしものと見ゆ。

○一首の意 この歌二段落なり。第一段落は佐保山を以前は我に何のかゝはりもなく見たりしとなり。第二段落は然るに今は、吾妹子の墓所と思へば愛すべく、なつかしくうるはしき山と思ふとなり。表面、理窟にとらはれたるが如くにして、實は情緒の纏綿たる歌なり。佳作と評すべし。

十六年甲申春二月、安積皇子薨之時、内舍人大伴宿禰家持作歌六首

○十六年甲申春二月 これは天平十六年なり。槻落葉はこの上に「天平」の二字脱すとせり。されど、上の「十一年己卯云々」「四六二」の題詞「七年乙亥云々」「四六〇」の題詞「いづれも年號の字なし。而してそは「天平三年辛未秋七月云々」「四五四」の題詞の引きつゞきなること著しければ加ふるに及ばじ。さてこは安積皇子の薨去の時を示せるなるが、この皇子の薨去は續紀によるに、十六年閏正月のことなり。即ち閏正月朔は乙丑にして、その丁丑、十三日に薨ぜられしなり。然るに、ここに「二月」とあるは續紀と一致せず。これは續紀の誤か、この集の誤か。この集の誤と



しても、正月の寫誤とはいふべからず。或は當時の曆法不正確にして、閏正月を二月としたるを後に曆法を正して續紀に訂せるか。今の續日本紀の前半は二回の編輯を経たるものなれば、かゝる事なしとすべからず。三正綜覽によるにこの年の閏は唐曆にては二月にあり、然らば、續紀の閏正月は二月といふべきに似たり。されど、かゝる事は容易くいふべき事にあらず。かくて更に考ふるに、この二月を薨じ給ひし時とする時は次の作歌の二月三日と牴觸すべし。即ち閏正月十三日の薨去を二月十三日とせば、薨去前にこの歌をよめりとする不合理を生ず。この故に薨去は閏正月十三日なることは史の如く誤りなしとして、この歌をよみたるが、二月なる故に二月とかけりとせば、その不合理はかたづくべし。されど、然する時は後の三首は三月の作なれば、ここに又不合理を生ずる點あり。之を如何にすべきか。按ずるにこれはなほ閏正月の薨去にして先づこの歌をよみたるは二月にして、三月のは更に追加したるが故に、はじめのまゝに、二月としておきたるものなるべし。

○安積皇子　この御名「アサカ」とよむべし。この皇子は聖武天皇の御子にして、天平十六年閏正月乙丑朔丁丑の日に薨去せられし事續日本紀に見ゆ。その記事に曰はく、  
乙亥、天皇行幸難波宮(中略)是日安積親王緣脚病從櫻井頓宮還。丁丑薨。時年十七。遣從四位下大市王、紀朝臣飯麻呂等監護葬事。親王、天皇之皇子也。母、夫人正三位縣犬養宿禰廣刀自、從五位下唐之女也。  
と見ゆ。この皇子は皇太子にも立ちてましますべかりしを御母藤原氏ならざりしが故に立

ち得たまはず、藤原氏の出なる皇女阿部内親王孝謙天皇なり。天平十年皇太子に立ちたまふ。時に御年二十一皇太子に立ちましまし、なり。當時の時勢の變調なりしことを見るべく、家持のこの挽歌もその心して味ふべきものと思はる。ここにある櫻井頓宮は蓋し、河内國河内郡櫻井郷に在りしものにして、今、六萬寺といふが、その頓宮のありし所ならむといふ。

○内舍人　今、普通に「ウドネリ」といへど、ここは正しく「ウチノトネリ」とよむべし。この職は中務省に屬し定員九十人ありて大寶令には  
掌帶刀宿衛供奉雜使若駕行分衛前後  
とありて、専ら宮中にありて至尊の側近に奉仕警衛し奉るを任とせり。

○大伴宿禰　この人の事は今更にいはず。この内舍人なりしことは集中にはなほ卷六、卷八、卷十七に見えたるが、その年次を見るに、最も古きは天平十年(卷八、一五九一)にして最も新しきはここ天平十六年なり。而して天平十二年(卷六、一〇二九)天平十三年(卷十七、三九一三)天平十五年(卷六、一〇三七)にいづれも内舍人とあり。されば少くとも天平十年より十六年まで七ヶ年間は内舍人たりしなり。而して家持と安積親王との交は如何と見るに、卷六、天平十五年癸未の條中に

安積親王宴左少辨藤原八束朝臣家之日、内舍人大伴宿禰家持作歌一首  
久堅乃雨者零敷念子之屋戸爾今夜者明而將去。(一〇四〇)  
といふ歌あり。藤原八束朝臣は房前の子にして後に改めたる眞楯の名を以て知られたる人



なり。この歌にいふ「念子」は普通に、その宅の主人八束をさすとせり。この時八束は年廿八歳家持は上にいへる年齢として、二十六歳なり。而して安積親王は十六歳にましませり。念ふ子とは或はこの親王をさし奉るにあらざるか、そはとにかくにこの卷六の歌によりて家持が安積皇子に特に親しみ奉りし事實の存せしを見るべきなり。

○六首　これは二月三日に作れる長歌一首反歌二首と三月二十四日作れる長歌一首反歌二首を合せていへるものなるが、題詞にかく書けるは本集としては極めたる異例にして、卷一、卷二の常例による時は「作歌二首并短歌」とあるべきものなりとす。

(四七五)

掛卷母、綾爾恐之、言卷毛、齋忌志伎可物、吾王、御子乃命、萬代爾、食賜麻思、大日本、久邇乃、京者、打靡、春去、奴禮、婆、山邊、爾波、花咲乎、爲里、河湍、爾波、年魚小狹走、彌日、異榮、時爾、逆言之、狂言、登加聞、白細、爾舍人、裝束而、和豆、香山、御輿立之、而、久堅乃、天所知、奴禮、展轉、渥打、雖泣、將爲、須便、毛奈思。

○掛卷母 「カケマクモ」とよむ。この語は卷二、一九九の「挂文忌之伎鴨」の下にいへり。

○綾爾恐之 「アヤニカシコシ」とよむ。この語も卷二、一九九の「綾爾畏伎」の下にいへるに同じ。たゞ、ここはここにて終止せるを異なりとす。

○言卷毛 イハマクモ」とよむ。この語の用例は卷六、九四八に「決卷毛綾爾恐言卷毛湯湯敷有跡」とあるあり。イハムコトモの意なること、カケマクモの例におなじ。

○齋忌志伎可物 舊訓、イハ、シカモ」とよみたれど、かゝる語古今に例を知らねば随ひがたし。代匠記には「ゆゝしきかもと讀べし」といひ、童蒙抄以下これに随へり。ゆゆしきかもといへる語は卷二、一九九の「挂文忌之伎鴨」の下に委しくいへり。「齋忌」をユ、シ」とよむ意も彼處にいへるが、なほいはゞ、卷十五、三六〇三に「湯種時忌忌伎美爾故悲和多流香母」の「忌忌」を「ゆゝし」とよみ、卷十二、二八九三の「忌忌久毛吾者歎鶴鴨」の「忌忌久」を「ゆゝし」とよめるが如く、「齋」も「忌」も「イム」意なれば、二字をあはせてかくいへるなり。そはたとへば、「イハヒベ」を「齋戸」(卷三、三七九、四二〇等)と書き、「忌戸」(卷十三、二八八)とも書き、又「齋忌戸」(卷三、四四三)ともかくが如き關係なりとす。以上四句全篇の冒頭なるが、かの卷二、一九九の「挂文忌之伎鴨」を四句の形にしたる姿なり。

○吾王 舊訓「ワカオホキミノ」とよみたれど、考はただ「ワガオホキミ」とよめり。これは、卷一、以來頻繁に例ある語にして、ここは安積皇子をさし奉れるなり。

○御子乃命 舊訓「ミコノミコトノ」とよみたり。考に「ミコノミコト」とよみて「ノ」を加へず、これより後、槻落葉略解、古義等これに随へり。ここは、かの卷一、四五の「八隅知之吾大王高照日之皇子」と四句にせるを二句にていへるにて、文法上の格は同等なれば、考のよみ方に随ひて可なり。「みこのみこと」は「日雙斯皇子命」(卷一、四九)「卷二、一六七」の場合、皇太子の尊稱と見えたるが、ここは皇太子にはましまさざりしかど、家持の心には重く思ひ奉りしものと思はる。



○萬代爾 ヨロヅヨニとよむ。この語の例卷一八〇に既にありて、そこにいへるにて明かなり。  
○食賜麻思 舊訓メシタマハマシとよめり。代匠記に「チシタマハマシ」とよみ古義これに隨へり。按ずるに「食」を「袁須」とよむことは日本書紀の自注にあれば誤とすべからず。又本集卷十六「三八五三」の「夏瘦爾吉跡云物會武奈伎取食」の「食」に自ら注して「賣世反也」とあれば、本集の「食」を「メス」とよむも誤にあらず。かくてここは天下を聞食す意の所なれば、その方面よりして「メス」よきか「メス」よきかを決せざるべからず。さて「賜フ」につゞくる語例を見るに「チシ賜フ」とよむべき例は一も無く「メシタマフ」といへるは卷一五〇の「食國乎賣之賜牟登」五二の「壇安乃堤上爾在立之見之賜者」等の下に説ける如く例少からず。かくて「メス」とよむを適當とすべきを見る。その意は卷一の諸例の下にいへるにおなじ。「メシタマハマシ」の「マシ」は連體形にして、直ちに大日本久邇乃京につゞくものにして、その關係は卷一一七一の「高光我日皇子乃萬代爾國所知麻之島宮婆母」の「麻之」におなじ。

○大日本 オホヤマトとよむ。オホヤマトといふ時は、わが皇國の總稱ともなり、又今の奈良縣なる大和國をもさすことあれど、次の久邇乃京は山城國なれば、ここは皇國の義の「オホヤマト」なり。さてかく「大日本」といふ文字を用ゐて皇國をさせるは、これや初見なるべき。

○久邇乃京者 クニノミヤコハとよむ。これは今の山城國相樂郡木津村の地に營まれし舊都なり。この都は天平十二年十二月に遽かに遷られし宮城にして、翌十三年正月この宮にて朝を受けたまひしが、當時宮垣未だ成らず、繞らすに帷帳を以てせられし由續日本紀に見え、なほ

同年十一月の記事に曰はく

右大臣橘宿禰諸兄奏曰、此間朝廷以何名號傳於萬代天皇。勅曰、號爲大養德恭仁大宮也と見えたり。これ即ちここに「オホヤマトクニノミヤコ」といへる典據なりとす。かくて翌十四年正月には大極殿未だ成らざるを以て權に四阿殿をつくり、ここにて朝を受けましぬる由、これまた續日本紀に見ゆ。天平十六年正月には百官を會して、恭仁難波二京の何れを都と定むべきかを問はせ賜ひ、又市人にも問はせ賜ひしが、百官の説は可否略半し、市人は殆どすべて恭仁京を都とせむと願ひし由なるが、二月には遂に難波宮を皇都とせられ、天平十七年にはまた平城宮に還られ、十八年九月には恭仁宮の大極殿を國分寺に施入せられたれば、五年許の間、の帝都たりしなり。今、この歌は天平十六年二月なれば、聖武天皇は難波宮にましまし、恭仁宮には知太政官事鈴鹿王等が留守官たりし時なり。

○打靡 舊訓ウチナビキとよめるを代匠記に「ウチナビク」とよめるより諸家之に隨へり。按ずるにこれは枕詞にして、用言が枕詞たる時は終止形よりする例なれば、「ウチナビク」をよしとすべし。而してその假名書の例として卷五八二六に「有知奈毗久波流能也奈宜等」卷二十四三六〇に「宇知奈毗久春初波」卷二十にはなほ二例ありあるにて明かなり。これは春になれば、草木とも若くのびいで、なよ／＼とうちなびくものなれば、かくいひて枕詞とせりと思はる。

○春去奴禮婆 ハルサリヌレバとよむ。考は「奴」は「玖」の誤なりとして「ハルサリクレバ」とせり。然れど、さる字を書ける本一もなければ、隨ひ難く、卷十一八三六に「霞田榮引春去爾來」といふ例



もあれば、もとのまゝにてよきなり。「春サル」といふ語は卷一、一六の「春去來者」の下にいへるにおなじ。

○山邊爾波 ヤマベニハとよむ。楓落葉は「ヤマベニハ」とよみたれど、舊訓によるべし。この語も、卷二、一五七の「山邊眞蘇木綿」に例ありてここにいへるにおなじ。恭仁京の地は高からねど、四面に山近くめぐれる地なり。

○花咲乎爲里 舊訓「ハナサキチセリ」とよめるを考に、爲は鳥の誤として「ハナサキチ、リ」とよめり。この「チ、リ」といふ語は卷二、一九六の「打橋生乎爲禮流川藻毛叙云々」の「乎爲禮流」の基たる語にして、ここにて既に論ぜる如く、必ずしも爲を鳥の誤ともいひ難きが「チセリ」にあらずして「チ、リ」なることは勿論なり。その意は花のしげく咲ける形容たることと見ゆ。

○河湍爾波 カハセニハとよむ。「湍を」セとよむことは卷一、五四の「許湍乃春野乎」の「湍」におなじ。この「河セ」は古の泉河今いふ木津河の川瀬なり。

○年魚小狹走 アユコサバシリとよむ。考は「小字を」と改めたり。されど、さる本一もなし。子も國語にて「小」の意なるものなれば、畢竟同義なり、改むる必要なし。年魚を「アユ」とよむことはこの卷二七一の「年魚市方」の條にいへるが、ここは實際の魚なり。さて「アユコサバシル」といへる例は卷五、八五九に「加波度爾波阿由故佐婆斯留」卷十九、四一五六に「河瀬爾年魚兒狹走」といふあり。さてこの「子」は歌詞として加へしものか、又は實際の「鮎子」なるかの問題あり。先づ卷五の「阿由故佐婆斯留」とある歌は娘等更報歌三首の中なるが、その上の八五八の歌に「和可由都流」とあり、その上なる蓬客等更報歌三首の第三首、八五七には「和可由都流」とあり、さればこの「年魚子」は若鮎なること著し。又卷十九のはそのはじめに「春去者花耳爾保布云々」とありて、左注に「季春三月九日擬出舉之政行於舊江村道上屬目物花之詠并與中所作之歌」とありて、天平勝寶二年三月中の詠なりとす。されば、これらはいづれも春の詠にして若鮎をさせり。若鮎は春より初夏までの時期にして體小く、小動物を食とする時期にして、味も佳ならず、鮎は盛夏よりは成熟しては動物を食とせず、體また肥大す。その若鮎を「アユコ」といへるは自然のさまを知れる語にして當然なりとす。「さばしる」は上に例をあげたり。「さは接頭辭にして「はしる」といふ語に、鋭くこまかき感じを添ふる意あり。若鮎の勢鋭く水中を走るさまをよくいひあらはせる語と思はる。而して鮎は又木津川の名産なり。

○彌日異 イヤヒケニとよみて異説なし。この語の假名書の例は卷二十、四五〇四に「伊也比家爾伎末勢和我世古多由流日奈之爾」といふあり。又こゝと同じ書きさまなる例は卷十一、二七〇二に「彌日異戀乃増者在勝申自」などあり。この語は「ヒニケニ」といふ語と基を同じくして、それにより「イヤ」を冠して一語の如くにしたるものなり。「ヒニケニ」といふは卷十五、三六五九に「安伎可是波比爾家爾布伎」卷十三、三三二〇に「妾戀叙日爾異爾益」などの例にて知るべし。「異」の字を「ケニ」とよむことは卷十、二二九五「我屋戸之田葛葉日殊色付奴」卷十一、二五九六の「如是耳戀也」度月日殊の殊を「ケニ」とよむに同じく、この「ケニ」は元來卷二十四、三〇七の「秋等伊弊婆許已呂會伊多伎宇多」豆家爾花爾奈蘇倍豆見麻久保里香聞の家爾にして今の「コトニ」の意にして、卷十二、



一六六の浪間從鳥音異鳴秋過良之卷十二二九四九の得田價異心鬱悒卷十三三三二八の衣袖大分青馬之嘶音情有覺常從異鳴の異の字はその本義に用ゐたるものなり。ここはそのケニといふ異字をば、卷一六〇の氣長妹卷二八五の氣長成奴九〇の氣長久成奴この卷二六三の氣並而見氏毛和我歸志賀爾安良七國の氣即ち日數の經過の意のケに借り用ゐたるなり。かくて日に氣には日に日ににといふに近き意なるをその上に彌といふ副詞を冠せしめたるものにして、いやひにけにといふべきを口調の爲に約めて「イヤヒケニ」といへるなり。この「いや」といふ語は卷二二二の彌年放の下にいへる如く一の副詞にしてこの語の本意は榮ゆるにかかると思はれたり。即ちいよいよ日に氣に榮ゆる時といふ意なり。從來「イヤ」を「ヒケニ」に直ちにつづくとせるは誤れるものなり。

○榮時爾 サカユルトキニとよむ。彌々益々榮ゆる時といふなり。

○逆言之 舊訓「サカコトノ」とよめるを、考に「オヨヅレノ」とよみてより諸家皆之に隨へり。この語は上の四二一の「逆言之狂言等可聞の下に既に述べたる所なり。これもそれとおなじく「オヨヅレノ」とよむべく、意もそこにいへるにおなじ。

○狂言登加母 タハゴトトカモとよむ。この語上の四二一の「狂言等可聞」とあるに同じければ、そこを見るべし。而してこの「カモ」は疑問の助詞にして係り詞たるものなり。

○白細爾 シロタヘニとよむ。白細を「シロタヘ」とよむことは上四六〇の「白細之衣袖不干」の條にいへり。ここは白き裝束を舍人がつけたる由にいへるなれば、白き袴(織物の名の衣)とい

ふ意なり。

○舍人裝束而 トネリヨソヒテとよむ。舍人の事は卷二一七一等の題詞にいへり。ここは皇太子にましまさぬによりて、令制には舍人の文字を用ゐずして帳内の文字を用ゐる。されど、國語にては同じく「トネリ」といへり。軍防令によるに、帳内は一品に一百六十人、二品に一百四十人、三品に一百二十人、四品に一百人なり。安積皇子の品位明かならねば、その數いふを得ず。帳内は六位以下の子及び庶人をとりて充てらるゝ規定なり。「裝束をヨソヒ」とよむことは卷二一九九の「神宮爾裝束奉而」の條にいへり。舍人が白細の衣に裝束ひてといふにて、これは素服をつけたるにて葬事を營むことをいへるなり。

○和豆香山 「ワツカヤマ」とよむ。「ワツカ」は山城國相樂郡にありて後に和束柚郷興福寺官務牒といひ、後又和束莊ともいひて北野社領となれり。和束莊といふは、木屋、柚山、撰原、下鳴、南、釜塚、中門前湯船、原山、園、別所、白栖、石寺、田村、新田の諸村を含める由山城志にいへるが、その地は今、湯船、東和東、西和東、中和東の四村に分れたり。この地は久邇京の東北にあたる山中にありて、北は綴喜郡と近江の甲賀郡とに堺せり。ここに和豆香山とあるは、この山中に安積皇子の御墓を營みて葬り奉りし由なり。その御墓は今の西和束村大字白栖の東、大勘定にありて陸地測量部の五萬分一地圖にも之を標せり。その所在は古の恭仁京の北邊より和束川(一名布當川)を溯りて和束莊の山中に入りてその川より北の側の山中にあり。されど、歌にては一帯にこの山間に入りませる由にいへるものなるべし。



○御輿立之而 舊訓「ミコシタテシテ」とよみたり。考は「ミコシタタシテ」とよみたるが、それより後の諸家皆これによれり。舊訓による時は「ミコシタテ」といふことを「して」といふ意に解すべきが、みこしたてといふこと古今に聞く所なし。「ミコシタタシテ」といふ語は他に例なければ、卷一四九の「御獵立師斯時者來向」卷三二二九の「馬並而三獵立流云々」卷十九四一九〇に「和我勢故波宇河波多多佐禰」など、體言に直ちにつゞけたる例あれば、「ミコシタタシテ」とよむこと不合理ならざるのみならず、ここは「タチタマヒテ」の意なるべきによりて「タタシテ」とよむをよしとす。さて「御輿」といふはここは御葬儀の御輿なること明かなり。これを考に「葬車」といひ、略解に御葬の「くるまなり」といひ、攷證は日本書紀孝徳天皇卷に皇子以上には輜車を用ゐ、臣下には輿を用ゐる制あり、喪葬令にも親王大臣も輜車を用ゐらるゝ規定なるにここに輿とあるは、御身皇子におはしませど、臣下のなみに輿にて送り奉りしにてもあるべし」といへり。然れども、令のこの規定は支那の法文により定められしものなるべくして、古來の大葬には必ず輦を用ゐられしを見れば、こしの方古儀たるを見るべし。ことに和束の山中は車の通ふべき所にあらずるはいふまでもなし。次に「タタシテ」は攷證に在立之などいふ立と同じく、そこに立やすらふをいひて、ここは輿をとゞむる也。今も駕をとゞむるを立るといふに同じ」といへり。

○久堅乃 ヒサカタノとよみ天の枕詞なること上に屢いでたり。

○天所知奴禮 舊訓「アメシラヌレ」とよみたれど、槻落葉に「アメシラシヌレ」とよみ、後諸家皆之に同じ。所知を「シラス」とよむことは卷二一七一の「國所知麻之」等例多く、ここに似たる語は卷

二二〇〇の「久堅之天所知流君故爾日月毛不知戀渡鴨」といふ例あり。語の意はそこにもいへる如く、字義のまゝにいへば天を領したまへりと云ふ事なるが、事實は薨去即ち神去りまして天に止まり給ふといふ事なるべきなり。さてここに「奴禮」とあるは、已然形にしてこれにて條件を示して下に接續すること、後世ならば「ぬれば」といふべき所なり。この語格は上四七一の「山隱都禮」におなじ。

○展轉 舊訓「コヒマロビ」とかけるを代匠記に「コイマロビ」とし、童蒙抄に「フシマロビ」とせり。さてこの「展轉」といふ熟字は詩經周南關雎の章に「悠哉悠哉輾轉反側」の「輾轉」と同じき語にして毛詩鄭箋には「輾本亦作展」とあるなり。かくて詩經の道春點のよみ方は「フシマロビ」とよめり。童蒙抄の訓は蓋しこれに基づくものならむ。さて「マロブ」といふ語の假名書の例は本集には見えねど、催馬樂の總角に「まろびあひにけり」とあり、轉字は「マロブ」とよむべき字たることは類聚名義抄に「マロバスの訓あるにて知るべし。さては「フシマロビ」とよむべきかといふに「フス」といふ語に似たる語に「コユ」といふあり。これは卷十七三九六九に「宇知奈妣伎登許爾已伊布之」三九六二に「宇知奈妣伎等許爾許伊布之」卷十九四二一四に「玉藻成靡許伊伏」又卷五八八六に「等許自母能宇知許伊布志提」などあり。この「こい」は「こゆ」といふ上二段活用の語の連用形にして、この語は「臥す」といふことの古語と見ゆれど、「コイ」フシ」とつづけるを見れば、「ふし」と似て又別の意ある語なるべし。これは恐らくは反轉の意ありてたふれふす如き意ありと思ゆ。かくてここは、上の諸例によりて「コイマロビ」とよむべきものなるべし。舊訓の「コヒ」は假名遣の誤



たり。

○ 溼打雖泣 「溼」の字流布本「泥土」の二字とせり。されど、多くの古寫本及び活字無訓本に「溼」の一字とせり。流布本は蓋し、活字附訓本に二字とせるに基づくものならむ。「溼打」を「ヒヅチ」とよむことは卷二、一九四の「玉藻者溼打」によりて證すべく、「ヒヅチナケドモ」の例は卷十、三三二六に「展轉土打哭杼母」あり。「ヒヅチ」の意諸家の説はたとへば攷證に「ふしまろびて涙に衣をひたし泣ども云々」といへるが如き意とするものなれど、「ヒヅチ」は既にいへる如く、ただぬれ漬る事にあらざれば説明不十分なり。ここは既にいへる如く、泥打つの意に衣の濡れ汚るゝことなり。ここは勿論衣の濡れ汚るゝことなれど、「ひづち」といふ語の本意ことなれば、それより受くる感じも亦おのづから異なるべきものなり。

○ 將爲須便毛奈思 「セムスベモナシ」とよむこと及びその意は上、四六六の「將爲須辨毛奈思」におなじ。

○ 一首の意 心にかけて思ひ奉らむだにも思慮に絶して畏きことなるかな。語にて申し奉らむだにも思ひ憚るべく恐れ多きことなるかな。わが大君、安積皇子の命の萬代にわたりて知し食すべき大日本久邇の京は、春になりぬれば、四方の山邊には花咲き満ちて枝もしをるゝ許りに見え河の瀬には若鮎の勢よく走りて、その春の花の榮え、若鮎の勢盛んなるが如くわが皇子命も春秋に富みたまひ、日に日に彌々榮え坐す時に、如何なる惑ひ人のいふ凶言にてあるか、皇子の宮の舍人は白妙の裝束をつけて、皇子の御輿を和豆香山の中に導き申してそこに立

たせ給ひて、そこより天へ登りましぬといへば、われはそれをきくと共に倒れ臥し轉び衣を濡し汚して泣けども、その甲斐もなく永く皇子に別れ奉りけるよとなり。

反歌

(四七六)

吾王天所知牟登不思者於保爾曾見谿流和豆香蘇麻山。

○ 吾王 「ワガオホキミ」とよむ。安積皇子を親しみ奉りて申せること論なし。

○ 天所知牟登 舊訓「アメシラレムト」とよみたれど、考に「アメシラサムト」とよめるをよしとすること長歌の場合におなじ。その意も長歌の「天所知奴禮」に同じく、事實は薨去をいひ、ここはそこに葬られたまふことを下に含みたるなり。

○ 不思者 「オモハネバ」とよむこと論なく、意も明かなり。

○ 於保爾曾見谿流 「オホニゾミケル」とよむ。「谿」は音にて「ケ」に借りたるなるが、「谿流」の二字にて、その沿ひて溯り行く和束川を思ひたる自然の文字遣と見えたり。「オホニミル」といふ語は卷二、二一九の「天數凡津子之相日於保爾見敷者今叙悔」にその例ありて、おほよそになほざりにその和豆山を見たりける由なり。

○ 和豆香蘇麻山 「ワツカソマヤマ」とよむ。「ソマヤマ」は柚山なり。「ソマ」といふ語は卷七、一三五五に「眞木柱作蘇麻人」又卷十一、二六四五に「宮材引泉之追馬喚犬二立民乃云々」などの例ありて、和名鈔には「柚」の字に注して「功程式云甲賀柚田上柚柚讀會萬所出未詳。但功程式修理算師山



田福吉等弘仁十四年所撰上所也」とあり。狩谷椽齋の箋註に曰はく、按、曾萬蓋山中植樹木爲採造屋材之處云々」とあり。蓋し、古この山中一帯に柚山たりしならむ。太平記天正本には後醍醐天皇隱岐に行幸ありし後、光嚴院の元弘二年十二月に行はれたる大嘗會に營まれし大嘗宮の材木を和東山にて取られし由を記す。されば、この地後まで柚山たりしものと知られたり。今、中和東村の大字に柚田といふ地名あるは古の名残を止めたるものならむ。さて、わつかそま山といふは、わつか山の、柚山といふ義なるべし。

○一首の意 わが安積皇子の薨去ありて、この和東山に葬り奉ることあるべしとも思はざりしことなれば、今まではおほよそに見過し來りしことよとなり。かくて言外に今よりは忘れがたく親しく思はるゝといふ意を含めたり。

(四七七)

足檜木乃、山左倍光、咲花乃、散去如寸、吾王香聞。

○足檜木乃 「アシヒキノ」とよむ。「山の枕詞」たり。

○山佐倍光 舊訓「ヤマサヘテリテ」とよめり。槻落葉の「ヤマサヘヒカリ」とよみてより諸家しかよめり。按ずるに、「光はヒカル」とも「テル」とも讀みうべき文字なるが、かく草木の花紅葉につきていへる例を見るに、卷十五三七〇に「安之比奇能山下比可流毛美知葉能云々」とありて、「ヒカル」といふをよしとすべきに似たれど、又卷十一八六一の「能登河之水底并爾光及爾三笠之山者、咲來鴨」の「光」は必ず「テル」とよむべきものなり。かくてこれはいづれにてもよかるべきものなり。

るが、「光」を動詞の活用形のまゝ複語尾を加へぬものとするときは「ヒカリ」の方によるべし。攷證に曰はく、「こはいろいろの花の咲さかえて、山さへ色にほふばかりなるを皇子のさかえおはしましゝにたとへて云々」といへり。略かゝる意なるべし。

○咲花乃 「サクハナノ」とよむ。これはその花の「山さへ光り咲く」その花をさすなり。

○散去如寸 舊訓「チリユクゴトキ」とよめり。考は「チリニシコトキ」とし、略解之に隨ひ、槻落葉は「チリヌルゴトキ」とし古義之に隨へり。攷證は「去はつねにゆくとともにしともぬるとも訓る字にて、こゝもちりゆくとともに、ちりにしとも、ちりぬるとも、いづれによみても意きこゆればさだめがたし。さは舊訓に従ふのみ」といへり。されどここは「チリヌル」とよむ方意よくかなへりといふべし。

○吾王香聞 「ワガオホキミカモ」とよむ。この語遣は卷一三八の「神乃御代鴨」以下屢見ゆれば、今更に説かず。

○一首の意 山山が光る如くに美しく咲きたる花の散りたる如くに、青春の盛りにましゝて前途洋々の希望に満ちましし際に忽然としてこの世を去りたまひしわが皇子なるかなとなり。感慨無量まことに家持の青年時代の傑作と評すべし。

右三首、二月三日作歌

○右三首 これは長歌と反歌二首とを合せ算したるなり。



○二月三日作歌 安積皇子の薨去は閏正月十三日なりしなれば、それよりかぞへて閏正月は大なれば三十日なり二十一日目なり。この時既に和東山に葬り奉れるものと見えたり。

(四七八)

掛卷毛、文爾恐之、吾王、皇子之命、物乃負能、八十伴男乎、召集聚、率比賜比、朝獵爾、鹿猪踐起、暮獵爾、鶉雉履立、大御馬之、口抑駐、御心乎、見爲明米之、活道山、木立之繁爾、咲花毛、移爾氣里、世間者、如此耳、奈良之、大夫之心、振起、劔刀、腰爾取、佩梓弓、鞞取、負而、天地與、彌遠長爾、萬代爾、如此毛、欲得跡、憑有之、皇子乃御門乃、五月蠅成、驟騷舍人者、白栲爾、服取著而、常有之、咲比振麻比、彌日異、更經見者、悲呂可聞。

○掛卷毛文爾恐之 「カケモクモアヤニカシコシ」とよむ。「文」の「アヤ」に用ゐたるは卷二「一六一」「二四」に例あり。意上の歌におなじ。

○吾王皇子之命 「ワガオホキミ、ミコノミコト」とよむべし。舊訓下に「ノ」を加へたれど、ここは加へざるをよしとす。意上の歌におなじ。

○物乃負能 「モノノフノ」とよむ。ここに「負」を「フ」の假名に用ゐたり。かゝる例は卷六「一〇四七」の「物負之八十伴緒乃打經而里並敷者」又卷二十四「四四〇二」の「怒佐麻都里伊波負伊能知波意毛知

知我多米「四四〇〇」の「伊弊於毛負等伊乎禰受乎禮婆の負又卷五の詞書の筑前國怡土郡深江村子負原云々」とあるなり。これは音も「フ」なれど、恐らくは訓にて「大」を「ホ」に用ゐる如く「オ」の「フ」をとりて假名にしたるなるべし。これは「八十」の枕詞なることもあれど、ここは實義ある語なり。その意義は卷一「五〇」の「物乃布能八十氏河爾」の條にいへり。

○八十伴男乎 「ヤントモノヲ」とよむ。この語の例は少からぬが一、二をあげむ。卷四「五四三」に「物部乃八十伴雄與」卷十七「三九九一」に「物能乃敷能夜蘇等母乃乎」卷十九「四二五四」に「物乃布能八十友之雄乎」の如く、モノノフノといふ語につけるもあれど、又卷十七「四〇二三」に「賣比河波能波夜伎瀬其等爾可我里佐之夜蘇登毛乃乎波宇加波多知家里」卷十九「四二一四」の「宇都曾美能八十伴男者大王爾麻都呂布物跡」の如く、單に「八十伴男」といふことあり。又單に「トモノヲ」といへるあり。卷七「一〇八六」に「鞍懸流伴雄廣伎大伴爾」卷二十四「四四六六」に「安伎良氣伎名爾於布等毛能乎己許呂都刀米與」の例これなり。さてこの「トモノヲ」といふ語の義は古事記の「五伴緒の説明として古事記傳にいへるを参考とすべし。曰はく、

伴緒 凡て伴とは官職にまれ、何にまれ、一部ともなふを云、某伴、某伴と云是なり。(中略)緒は長の本語にて袁佐と云は長兄名の意なり。書紀に魁帥渠帥などを伊佐袁と訓するも勇長なり。然れば伴緒は其部屬の長を云稱なり。(師説に此處の文を引て此、五伴緒の中に二柱は女神なることを云、又祝詞に比禮懸伴緒と云るも女なれば、伴男など、書る男は皆借字にて男女にわたる稱なる由云れたるは信にさることなりかし。)さて緒と云意は師説に、一の



緒に數の玉を貫くに譬へて云なれば伴緒と書る、正字なり、貫首など云貫も意通へりと云れたるは然ることなれども今少し精しからず。其故は玉緒などを袁と云も、多の玉などを總縛る故の名又物の長を袁と云も、其徒を統帥る故の稱にて、本同言なり。然れども何方を本とも末とも定むべきに非れば、玉緒は例には引べけれども、其に譬へて云とは云べきに非ずなむ。(さて又右の師説の意は伴緒をたゞ其部類のこと、心得て云れたる物にして其長の意に云るには非ず。是も又精しからず。其故は次に云べし。)さて今右の五柱神を指して五伴緒と云るは石屋戸段に見えたる如くに此神たち各掌れる職ありて、其職々の部屬を帥る長神なればなり。(五神を指して五伴緒と云れば、一件緒は一神なり。然れば、伴緒とは其長を云て、其部類を云に非ること明けし。書紀に此を五部神と書れば、五伴緒はたゞ五部の意とも聞ゆるに似たれども、彼も五神を擧て云れば、其意に非ず。五部の長神といふことなり。)下卷遠飛鳥宮段に定賜天下之八十友緒氏姓(八十伴緒とは所有諸の伴緒を總云なり。さて是は長に限らず、部屬までにわたる如く聞ゆめれど、これらは朝廷に仕奉る官人たちを大凡に云る、其はいづれもほどに帥る部屬あれば、此も皆長なり。此外にも部字などを書いて、廣く其屬を云る如く聞ゆるも皆くはしくいへば、其長なり。又萬葉に多く(中略十九七二)に八十伴男者大王爾麻都呂布物跡定有官爾之在者云々(これに官とあるも長なるゆゑなり)などよめり。大殿祭祝詞、詞別に、皇御孫命、朝乃御膳、夕乃御膳、供奉流、比禮懸伴、緒、極懸伴、緒、大祓詞に、天皇朝廷爾仕奉留比禮挂伴男、手極挂伴男、鞍負伴男、劍佩伴男、伴男能八十伴男乎始且、官

爾仕奉留人等(中略)とある、是にて八十伴男乎始且と云るを以て、伴男は其長なることを思ひ定むべし。さて次に官々爾云々と云るぞ、其下に屬る部々の人等にはありける。

とあり。このうち長は長兄名の意なりといへるなど首肯し難き點なれど、その大旨はよくいはれたるなり。まことに部類は即ちトモにて、その部類を組織する各員がトモガラにして、その伴を統一する主腦者が伴緒たることは著しきなり。この緒が統一者をさすことは、日本書紀天智卷の歌に「多致播那播於能我曳多曳多那例々騰母陀麻爾農矩騰岐於野兒弘備農俱」とあるが如く、多くの玉が一の緒にて統べらるゝをいふ、命を緒といふも生るるより死ぬるまで一にて貫けるが故と思はる。ここにいふ八十伴男は古事記下卷允恭天皇の段にいふ「天下之八十友緒」といへるにおなじく、あらゆる諸の伴緒といへるなるが、その伴緒即ち部類の長をさせば、その部屬はもとより之に含まるればなり。かくてモノノフノヤソトモノヲは多くの諸臣僚といふこととなることいふまでもなし。

○召集聚 舊訓「メシアツメ」とよめり。代匠記は「めしつどへともよむべし」といひたるが、考槻落葉、略解、攷證、古義等皆しかよめり。この三字のうち「召はめし」とよむこと勿論なり。「集聚」の二字は一語をなすものなるが、家持の歌に殊にこの歌にかく熟字を用ゐること多し。この熟字は左傳昭十七年の「五鳩鳩民者也」の疏に「治民尙其集聚、惡其流散、故以鳩爲官名、欲聚叙其民也」とも見え、又易林に「鳳凰在左、麒麟在右、仁聖相遇、伊呂集聚、時無殃咎、福爲我母」とあり。かく漢語として用ゐるたるを使用したりと見ゆ。さて「アツム」といへる語の用例は本集に見えざるが、こ



れは或は當時歌詞にてあらざりしが故か。「集」をツドヒとよむ例は卷二「一六七」にあり。槻落葉に曰はく「古事記に訓集云、都度比」とあり。今は令集也。ハセの約めへなり」といへるが、この約音説は首肯せられず。これは集はする意にして下二段活用の語たるなり。

○率比賜比 舊訓「イサヨヒタマヒ」とよみたれど、率を「イサヨヒ」とよむべき理由なし。代匠記は「イサナヒタマヒ」とよみ、考は「アトモヒタマヒ」とよめり。ここはただ「イザナフ意にあらねば、アトモヒタマヒ」とよむべし。この語の意と例とは卷二「一九九」に「御軍士乎安騰毛比賜」とある下にいへり。

○朝獵爾 「アサガリニ」とよむ。この語の例及び「ユフカリニ」に對する例は卷一「三」の「朝獵爾今立須良思暮獵爾今他田渚良之」あり。それに照して意を知るべし。

○鹿猪踐起 「シシフミオコシ」とよみて異説なし。「鹿猪」の二字いづれも「しし」とよみうべきものなるが、それを一として「しし」にあてたりと見ゆるが、かゝる用例は今一つ、卷十二「三〇〇」に「小山田之鹿猪田禁如」といふあり。これは「しし」といふはたゞ一種の獸にあらねばなり。即狩獵の目的たる獸は皆「しし」といひしならむ。さてかくいへる例は卷六「九二六」に「朝獵爾十六履起之」あり。「ふみおこし」につきては童蒙抄に「朝つゆに伏したるししを踏みおこし也」といへり。さる事なるべし。但し、上の「朝獵」は對句の爲にいへるにて、獸狩を朝に限れりといふことにはあらざるべし。

○暮獵爾 「ユフガリニ」なり。意既にいへり。

○鶉雉履立 舊訓「トリフミタテ」といへり。されど考の「トリフミタテ」とよめるに隨ふべし。

この方力強く聞ゆればなり。「鶉雉」は鷹狩する時の獲物の著しきは鶉雉などなるが故にこの二字を以て代表として「トリ」とよませたるものなるべし。さてかくいへる例は卷六「九二六」に「夕狩爾十里踏立」あり。古義に曰はく「起立は伏たる鳥獸を驚かし起し立しむるを云」といへり。これも、鷹狩は暮に催したまふといふにあらざりて、暮獵は對句とする爲にいへるまでなり。

○大御馬之 舊訓「オホミウマノ」とよみたれど、童蒙抄の「オホミマノ」とよめるをよしとす。「御馬」を「ミマ」といへる例は卷五「八七七」に「美麻知可豆加婆和周良志奈牟迦」あり。「大御馬」とは安積皇子の騎りたまへる馬をほめて申したるなり。

○口抑駐 舊訓「クチオサヘトメ」とよめるを童蒙抄は「クチオシトメ」とよめるが、抑は「オサヘ」とよむべけれど、「オシ」といふべきにあらねば舊訓によるべし。卷六「一〇〇二」の「馬之歩抑止駐余」と字面相似たり。その「押」を舊訓「オシテ」とよみたるをも、代匠記には「オサヘ」とよめるなり。「駐」は「トドム」とよむこと論なし。攷證に「馬の口づらをおさへてとゞむる也」といへるにて意を知るべし。

○御心乎 「ミココロナ」とよむ。意は次の句に合せていふべし。

○見爲明米之 舊訓「ミセアキラメシ」とよめれど正しからず。考に「メシアキラメシ」とよみ、玉の小琴に「ミシアキラメシ」とよめり。「メシ」又は「ミシ」は「見る」の敬語として、サ行四段活用に再び活用せしめしものなるが、これには「メシ」といふ形のみありて、必ず「ミシ」とよむべきものと主張す



べき證は一も存せず。卷十八四〇九八に「許乃於保美夜爾安里我欲比賣之多麻布良之」卷二十四五〇九に「於保吉美能賣之思野邊爾波之米由布倍之母」又「メシアキラム」といふべき旁例は卷二十四三六〇に「賣之多麻比安伎良米多麻比」四四八五に「可久之許曾賣之安伎良米晚阿伎多都其等爾」などあり。「見爲」といへるは下の「活道山」を見たまふ意なり。「アキラメシ」は「御心を明めし」といふことにて卷十八四〇九四に「美知能久乃小田在山爾金有等麻宇之多麻徹禮御心乎安吉良米多麻比」卷十七三九九三に「可久之許曾美母安吉良米々」など皆同じ精神なり。即ち、残る所なく明らかに見たまふ意にて今の見はらしのよき所にて心ゆくばかり眺望する義なり。

○活道山 舊訓「イクメチャマ」とよみ、考は「クメチャマ」とよみたれど、玉の小琴に「イクチャマ」とよめるによるべし。これは反歌に「活道乃路」とよみ、又卷六一〇四二の詞書に「十六年甲申春正月」[同月十一日登活道岡集一株松下飲歌二首]とある、その活道岡と同じ所なり。上の二首の作は市原王とこの作者大伴家持となり。さてこの「イクチ山」又は活道岡はいづこなるか。この歌の作より僅に二ヶ月に足らぬ前に家持のここに遊びし所にして、安積皇子も亦賞美せられし所なれば、久邇京近き地なりしならむこと想像せらる。大日本地名辭書はこの皇子の御墓地即ちそれなるべしといへり。されど、確かなる證あるにあらず。「イクヂ」といふ地名は越中にも越後にもあれば、これは一種の地勢の名目より出でしならむが、その義を知らず。ただ久邇京近き山の狩獵に適する奥まりたる地にしてその一部の岡は見晴よき地にして著しき一本松の在りし所なりしことは明かなりといふべし。

○木立之繁爾 舊訓「コダチノシジニ」とよみ、楓落葉は「コダチノシゲニ」とよめり。「コダチ」といふ語は日本書紀舒明卷の歌に「于泥備椰摩虚多智于須家苔云々」本集卷五八六七に「志滿乃已太知母可牟佐飛仁家理」卷十七四〇二六に「今日見者許太知之氣思物」ありて今もいふ語なり。「繁」の字は「シゲ」とよむべけれど、この「シゲ」は「シゲル」の語幹にして、本集にてはこれを體言副詞としたる例を見ず。次に「繁をシジ」とよみうるかといふに、その例は既にこの卷三二四の「繁生有」三六八の「大船二眞梶繁貫」三七八の「竹玉乎繁爾貫垂」の條にいへるにて見るべし。即ちここは「シジニ」とよむべきこと論なし。

○咲花毛 「サクハナモ」なり。さてこの句と上の句との關係は木立の花の繁に咲く花といふことをかく簡易にいひたるものなり。諸家多くは「木立の繁」として「繁を」木立の繁きをいふとすれど、「シジ」といふ副詞を以て直ちに説述せしむることは不可能なる筈なりとす。ここに「繁爾咲花」といへるは上の長歌に「花咲乎爲里」といへるに該當せり。

○移爾家里 「ウツロヒニケリ」とよむ。卷五八〇四に「散久伴奈能宇都呂比爾家里」卷十五三七一六に「九月能毛美知能山毛宇都呂比爾家里」などその例なり。「ウツロフ」は「ウツル」が更に波行四段に再び活用したるにて、その作用の繼續するを示す。「移る」といふは上四五九の「黄葉乃移伊去者」の下にいへる如く、散り過ぐることをいふ。ここは美はしき盛の花の散り過ぎぬるをいひて、安積皇子の若くして薨じたまひしことを歎く情を寓せり。以上を一段落とす。

○世間者如此耳奈良之 「ヨノナカハカクノミナラシ」とよむ。「世間」を「ヨノナカ」とよむことは上



四七二「又その前にも度々いへり。如此耳も四七二にあり。奈良之の例は卷五八〇四一云に「余乃奈可伴可久乃末奈良之」卷十九四一六〇に「宇都勢美母如是能未奈良之」あり。この語は卷一五〇の「神隨爾有之」の下にいへり。世間といふものはかくあるのみのものなるらしと歎息したるなり。

○大夫之心振起「マスラヲノココロフリオコシ」とよむ。この語に似たる例はこの卷三六五に「大夫之弓上振起射都流矢乎」あるが同じ語の例は卷十七三九六二の「大夫之情布理於許之」卷二十「四三九八」に「大夫情布理於許之」などあり。こゝにますらをの心を振り起すは家持自らのことをいへるなり。安積皇子を頼み奉りて大に奮起したりしことをいへるなり。

○劔刀「ツルギタチ」とよむ。「ツルギ」は太刀の鋭利なるをほめていふ語。卷五八〇四に「都流岐多智許志爾刀利波枳云々」その他例多し。

○腰爾取佩「コシニトリハキ」とよむ。この語の例上にあげたるがなほ卷十八四〇九四に「劔大刀許之爾等里波伎」などあり。太刀は腰に取佩くなり。

○梓弓「アヅサユミ」これは卷一三に既にいへり。これは實際の弓をさす。

○鞞取負而「ユギトリオヒテ」とよむ。この語の例は卷九一八〇九に「白檀弓鞞取負而」又卷二十四三三二に「麻須良男能由伎等里於比旦」などあり。「鞞」は和名類聚鈔に「釋名云歩人所帶曰鞞初牙反由岐以箭又其中也」とありて、矢を盛る器にして之を背に負ふが故に取負而とはいへるなり。上四句は劔太刀を腰に佩き、梓弓を持ち、鞞を負ひてといへるにて、武人の征戰の具をとり

て武装したるなり。而して、これ古來大伴氏の世々奉仕し來れる職務によれる公の裝たりしなり。

○天地與彌遠長爾「アメツチトイヤトホナガニ」とよむ。この語は、卷二一九六に「天地之彌遠長久思將往云々」といへるに趣同じく、一七六に「天地與共將終登念乍奉仕之情違奴」と心かよへり。天地の永久に存在するが如く、それと共に彌々遠く長くといふなり。卷十八四〇〇八に「可久之許會都可倍麻都良米伊夜等保奈我邇」ともあり。

○萬代爾「ヨロゾヨニ」とよむ。この語卷一以下に多し。

○如此毛欲得跡「舊訓カクシモガナト」とよみたるを考に「カクシモガモト」とよみたり。さて「ガ」も冀望の終助詞なれど、この頃に用るざりしものなれば「ガモ」をよしとすること及び「欲得」を「ガモ」といふ語にあてたることは上の「四一九」の「石戸破手力毛欲得」の條にいへり。「カクシモガモ」といへる假名書の例は、卷五八〇五に「等伎波奈周迦久斯母(何母)等意母閉等母」あり。又卷十三三三二四に「萬歲如是霜欲得常大船之憑有時爾」もこの例と見らる。又卷六九二〇に「萬代爾如此霜願跡天地之神乎會禱恐有等毛」とある「願」はその意を以て「ガモ」にあてたるにて、この「欲得」の二字まさにこれと相當するものなり。「かくしもがも」とは「かくし」の下に略語ありてそれを「も」と「がも」にてうけて終止せるものなり。この「も」と「がも」とは卷一八一の「常丹毛冀名」に既に

出でたり。  
○憑有之「タノメリシ」とよむ。この語は卷二二〇九に例ありてそこにいへるにおなじ。



○皇子乃御門乃「ミコノミカドノ」とよむ。この語は卷二「一六八」「一九九」に例あるが、ここはその御宮殿をさせるなり。

○五月蠅成「サバヘナス」とよむ。「五月蠅」を「サバヘ」とよめるは五月の頃に蠅の多く生ずる由に古來いへり。古事記天石屋戸の段に「於是萬神之聲者狹蠅那須皆滿萬妖悉發」とあり、日本書紀卷二天孫降臨の前の記事に「晝者如五月蠅而沸騰之」とあり。これは枕詞にして、ここは次の「サワグ」を導くなり。

○騾騾舍人者「サワグトネリハ」とよむ。「騾」一字にても「サワグ」とよむべきことは卷二「一九九」の「弓波受乃騾」の下にいへり。次に「騾」字はもとより「さわぐ」とよみ來れる字なれば「騾騾」二字にて「サワグ」とよむことは勿論なり。但し、その例はここに一所のみなるが、これは家持の熟字を好めるによるものなるべし。さて卷五「八九七」に「五月蠅奈周佐和久兒等遠」とあるはこの旁例とすべし。さてこの「さわぐ」は悪しき意にあらずして、多くの舍人が常に集まりてさゞめきあへるさまをいへりと見ゆ。この皇子の品位明かならねば帳内の數も明かならねど、四品としても百人は奉仕せし筈なれば賑はしく、さわがしく奉仕せしことを思ふべし。

○白袴爾「シロタヘニ」とよむ。この白袴は素服なるべきこと、卷二「一九九」の「遣使御門之人毛白妙乃麻衣着」の下にいへるにて知るべし。

○服取著而「コロモトリキテ」とよむ。衣服を白袴にして取り着てといふなり。

○常有之「ツネナリシ」とよむ。卷五「八〇四」の一云に「都禰奈利之惠麻比麻欲毘伎」といふあり。

こは次の「咲比振麻比」の常なりし由をいへるにて、即ち、これまで、いつも賑はしく咲みさかえてありしことをいへるなり。

○咲比振麻比「エマヒフルマヒ」とよむ。この「エマヒ」は上の卷五「八〇四」の例に見え、なほ卷十八「四一一四」に「乎登女良我惠末比能爾保比於母保由流可母又卷四「七一八」の「不念爾妹之咲舞乎夢見而」などもその例なり。「フルマヒ」といふ語の例は本集にはこの一なるが、類聚名義抄には「儀姿」舉動「容止」舉動をかくよめり。それらの文字によりてこの語の意義を推知すべし。「ゑまひ」はゑまふことの居體言、ふるまひは振まふことの居體言にて二語を重ねたるものなるが、舍人どものゑみさかえて立ちふるまひしこと共をかく二語にしていへるなり。

○彌日異 上の長歌「四七五」のおなじ。

○更經見者 舊訓「カハラフミレバ」とよみ童蒙抄は「カハレルミレバ」とよめり。されど、更經を「カハレル」とよむは無理にして、經は「フ」の假名として用ゐたるものなれば、舊訓をよしとす。「更」の「カハル」なること上「三二二」の「鳴鳥之音毛不更」の下にいへり。卷十九「四一六六」には「喧鳥乃音毛更布」とも見ゆ。「カハラフ」は「カハル」を再び、波行四段に活用したるものにして、その作用の繼續をあらはすものなり。ここは時の經るにつれて漸々にかはりつゝ行くをいふ。そのかはらふさまを見ればといふなり。

○悲呂可聞「呂」の字流布本には「召」とせり。随つて流布本のよみ方は「カナシメシカモ」とよみたれど、かゝる語法ありとも思はれず。類聚古集は正しく「呂」と書き、西本願寺本、大矢本、京都大學



本等は草體の「呂」とせり。代匠記は「召」は「呂」の訓として「カナシキロカモ」とよめるが「呂」の字正しきものと認めらるれば、この訓をよしとす。この「ろ」は卷一「五三」の「處女之友者乏吉呂賀聞」の下にいへり。悲しきかなといふに似たり。

○一首の意 この歌二段落なり。第一段落は安積皇子の御在世當時の盛なりしさまを叙して、終りにその薨去を言外にあらはして急に頓挫せしめ、第二段は先づ家持が大に皇子に景仰し奉りしをいひて、その志の遂げられざりし悲を抒べたるなり。即ち心にかけて思ひ奉るだに言語道斷に恐れ多き事なり。わが大君安積皇子の命は大宮人の多くの者共を召しつどへ、誘ひ率ゐる賜ひて、朝夕の御獵に或は鹿猪を追ひ、或は鶉雉を追ひたまひ、時には又大御馬の口を抑へ止めまして、四方の風景を御覽じて、御心を晴し給ひし活道山の木立の、數多く咲く花も盛りのは時は過ぎ行きにけり。(即ち安積皇子の颯爽とまし／＼し盛にまし／＼し御姿も再び見られずなりたり)第一段世間はすべてかくあるものにてあるらしきが、悲しきことなるかな。我れ家持大丈夫の心を振ひ起し、劔刀を腰に取り佩き、梓弓を持ち、鞍を負ひて、わが安積皇子に奉仕し、天地と共に永遠にかくして永く奉へ仕らむものと願ひ、憑みてありし、その皇子の御宮に仕へ奉れる多くの舍人どもが、白色の素服を着て、今までは常にありし嬉しげなりし顔貌、愉快さうにありし舉動も、日を経るにつれて、彌かはり行くを見れば、悲しきことなるかな。(第二段)

反歌

波之吉可聞。皇子之命乃。安里我欲比。見之活道乃。路波荒爾鷄里。

○波之吉可聞 「ハシキカモ」とよむ。この語は既に屢見えたるが、卷二「一三」の「三吉野乃玉松之枝者波思吉香聞」に照して意をしるべし。さてこの一句にて一段落として、冒頭に「愛すべきかな」と一句を大膽に投じたる手法、尋常歌人の及ぶ所にあらず。而してこれはその皇子之命をさし奉りて「はしきかも」といへるなり。

○皇子之命乃 「ミコノミコトノ」とよむ。安積皇子の命のといふ意なること勿論なり。

○安里我欲比 「アリガヨヒ」なり。この語の例は卷二「四五」の「鳥翔成有我欲比管見良目抒母云」にありて、意はそこにいへる如く、引きつゞきかよひたまふといふことなり。

○見之活道之 「メシシイクヂノ」とよむべきこと長歌の下にいへる所にて明かなり。その意も亦明かにして、見たまひし活道のといふことなり。

○路波荒爾鷄里 「ミチハアレニケリ」とよむ。意明かなり。ここは卷二「二三」の「三笠山野邊從遊久道已伎太久母荒爾計類鴨久爾有勿國」の感じに似たる點あり。即ち、ここに通ふことの絶えたるをいへるなり。

○一首の意 この歌二段落なり。第一段はああ愛すべきかな、わが安積皇子の忘れがたきことよとなり。第二段は安積皇子の命の常にかよひ賜ひて、愛しみたまひし活道山の路は人々の來通ふことも稀れになりて荒れはてたりといふなり。



(四八〇)

大伴之名負鞞帶而萬代爾憑之心何所可將寄

○大伴之「オホトモノ」とよむ。この語は卷一「六三」にも見えたるが、そこは地名なり。ここは家持等の家の名なる大伴氏をさせり。「大伴」の「伴」は上にいへる「八十伴男」の伴とおなじくして部類又は團隊をいへるなり。かくて「大伴」とは大部隊といふ程の語なるが、その「オホ」は天皇の御親兵としての部隊なる故に尊んでいへるなり。抑も大伴氏は古事記に

故爾天忍日命天津久米命二人取負天之石鞞取佩頭椎之大刀取持天之波士弓手挾天之眞鹿兒矢立御前而仕奉。故其天忍日命此者大伴連等之祖天津久米命此者久米直等之祖也。

とある如く、天孫降臨の時に御親兵として警衛し奉りし天忍日命の末にして、爾來連綿として武人の長として奉仕せしものなり。大化改新以後文武の官を分たれしかど、大伴氏が武事に奉仕せしことはなほ舊によりしものなり。かくて、古は大伴といふ名即ち武人最高の地位と名譽を示したりと思はれたり。

○名負鞞帶 而舊訓「ナニオフユキオヒテ」とよめり。「オヒテ」を代匠記に「ハキテ」ともよみたれど、鞞は背に負ふものにして腰に佩くものにあらねば、しかよむべからず。「帶」は文字によらば「オビテ」とよむべくして「オヒテ」とよむべきにあらず。然れども鞞は必ず負ふものにして「帯」は必ず負ふものにあらねば、ここは「おぶ」とはいふべからず。然らば、これは清濁を顧みずして用ゐたるか如何。この頃濁音の語を往々清音の語に轉じて假用したるもの、たとへば「雉」を「岸」に借りた

ること卷七「一三八九」の如き例あればかかることなしといふべからず。然れども、これは漢語に「鞞」を「帶」といふよりこの字を用ゐるものならむ。和名鈔には「釋名云歩人所帶曰鞞」とあり。これ支那にて鞞を身に帶すといひしことの證なり。日本書紀孝德天皇御即位の記事を見るに「于時大伴長德連帶金鞞立於壇右、大上健部君帶金鞞立於壇左」とあり。この「帶」も同じ。されば「帶」は直譯して「オブ」とよむべきものならで、「帶鞞」即ち「鞞をおふ」といふ語にあたるものならむ。しかも、この句には上に既に「負」といふ字を用ゐたれば、同じ字を二度用ゐることを避けてわざと「帶」字をここに用ゐるものと見ゆれば、その理由は如何にもあれ、「オヒテ」とよむべきものなり。名に負ふ鞞といふは如何なる事かといふに、名に負ふとは通例その名を有することをいふ。さらばこゝは如何といふに、新撰姓氏錄大伴宿禰の條に

初天孫彥火瓊杵尊神駕之降也、天押日命、大來目部、立於御前降于日向高千穗峯。然後以大來目部爲天鞞負部、天鞞負之號起於此也。

とありて、大伴の部隊は又鞞負部の名、天鞞負の名を有するものなることを語れり。この鞞負は大化改新の後官職の制度となりてより文字の上には公式に認められず、又必ず大伴氏の職掌とは限らずなりたれど、なほ左右衛門府の名となりて傳はれり。令集解の左衛士府の注なる大同三年七月廿日官奏に曰はく、これは衛門府を廢して衛士府に併せむとしての奏上なり。其諸門禁衛、出入禮儀、及門籍門勝等事、同令衛士府主之。然鞞負爲名年祀積久、今廢彼混此、雖不改文字號曰左右鞞負府云々。



とあり、更に弘仁二年十一月廿八日官符を載せたるには、これは先に左右衛士府に左右衛門府を併せたるが、此度は大伴佐伯二氏の請によりそれを左右衛門府と改稱せられたるなり。

今得散位從五位下大伴宿禰眞木麿、右兵庫頭從五位下佐伯宿禰金山等解佩己等之祖、室屋大連公鎮、靱負三千人左右分衛。是以衛門開闔、突葉相承、望改衛士字以爲衛門者。

といふ奏請によりたるものなるが、これは靱負の名に基づきて、かへりて衛士府の名を衛門府と改められしものなり。(右の奏請中の佐伯宿禰は大伴氏の支族大伴室屋の時、その兒語に特に賜はれる氏なりとなり)この衛門府は倭名鈔に「由介比乃豆加佐」と訓ありて、その名久しく傳はり、檢非違使の職のはじめられて、衛門府の官人、やがてその名をつぎ檢非違使たる衛門尉を特に靱負尉と稱するを例とせり。これ等古來大伴佐伯の率るたりし部隊の名が靱負なりしが故なり。されば本集にも卷七一〇八六に「靱懸流伴雄廣伎大伴爾」ともいへるなり。靱負といふ名を有するその靱を負ひてといふなり。

○萬代爾憑之心「ヨロゾヨニタノミシココロ」とよむ。長歌にいふ所の「萬代爾如此毛欲得跡憑有之」そのわが心なり。

○何所可將寄 舊訓「イツクニカヨセム」とよみたるを槻落葉には「イツクカヨセン」とせり。「何所をイツク」とよむべきことは、卷一四三にいへる所なり。「イツクニカ」といふべきを「イツクカ」といへるは、この頃の語法に「チニ」といふ助詞を略して、たとへば、卷一四三の「吾勢枯波何所行良武卷七一四一二に「吾背子乎何處行目跡薛竹之背向爾宿之久今思悔裳」卷十二一三八に「鴈鳴者何

處指香雲隱良哉」などその例なり。されば「イツクカヨセム」とよむべきなり。

○一首の意 大伴といふ古來名高きわが家の靱負といふ名に負ふその靱を負ひて奉仕し、萬代もかはらじと憑み奉りしわがこの心は今よりはいづくによせむか。わが心のよすべき方を失ひ途方にくれたることよとなり。

右三首三月二十四日作歌

○三月二十四日 は安積皇子薨去の日よりかぞへて七十一日目にあたれり。

悲傷死妻高橋朝臣作歌一首并短歌

○悲傷死妻 「スギニシメヲカナシミテ」とよむべきか。

○高橋朝臣 名を署せず、左注にもその明かならぬ由をいへれば、今にして之を知るべくもあらず。

白細之袖指可倍氏、靡寢吾黑髮、乃眞白髮爾、成極新世爾、共將有跡、玉緒乃不絶射妹跡、結而石、事者不果、思有之心者不遂、白妙之手本矣、別丹杵火爾之家、從裳出而、綠兒乃哭乎、毛置而、朝霧髣髴爲乍、山代乃相樂山、乃山際往



過奴禮婆將云爲便將爲便不知吾妹子跡左宿之妻屋爾朝庭出立惚夕爾  
波入居嘆舍腋挾兒乃泣母雄自毛能負見抱見朝鳥之啼耳哭管雖戀効矣  
無跡辭不問物爾波在跡吾妹子之入爾之山乎因鹿跡叙念。

○白細之「シロタヘノ」とよむ。この字上の「四七五」にあり。ここは枕詞にもあらず、その白き潔  
き衣の義によめりと見ゆ。

○袖指可倍氏「ソデサシカヘテ」なり。卷八一六二八に「白細之袖指代而佐寐之夜也云々」とあり。  
卷二一九五に「敷妙乃袖易之君」といふあり。衣の袖をさしかはして寝ぬるをいふ。

○靡寝「ナビキネシ」とよむ。卷二一三五「玉藻成靡寐之兒乎」にこの語の例あり。そのこと同じく、  
わが傍にそひふしたるをいふ。

○吾黒髪乃「ワガクロカミノ」とよむ。「吾黒髪」といふ。吾は卷二八七に「打靡吾黒髪爾霜乃置萬代  
二」にその例あり。ここは歌主のわがといへるなり。これはすべてその妻のことを動的にい  
へるに注意すべし。

○眞白髮爾「マシラカニ」とよむ。攷證に「さて假字にしらかと書る例なければ定めがたけれど、  
延喜式に多志良加といふ器を手白髪とも書たれば、かは清てよむべし」といへり。新撰字鏡纂  
の下に注にして「方小反、白髮兒、志良加」とあり。即ち「シラカ」にして後世「シラガ」といへるは訛な

りと知られたり。「まはその白髪を強調していへるなり。

○成極 舊訓「ナリキハマリテ」とよみたり。童蒙抄は「ナリハツルマデ」とよみ、考は「ナリキハムマ  
デ」とよみ、槻落葉は「ナレラムキハミ」とよみ、略解は「ナラムキハミ」とよみ、古義は「カハラムキハミ  
とよみ、攷證は「ナルキハミマデ」とよみ、諸説紛々たり。先づ「成」は「ナル」にして黒髪の白髪に化す  
ることをいへるは疑ふべからず。かく「化成するを「ナル」といふは當然にして、古義が「カハラム  
とよめるは字義にあはざるなり。次に「極」は「ハツル」とも「キハミ」ともよむべきこと不合理なり  
といふべからず。されど、ここはその前後の文意を考へざるべからず。この下に「新世爾」とあ  
るに、照して考ふるに、物はその極に達すれば、ここに新になるものなれば、白髪になり、その極に  
達して革まりて、再び黒髪にかはるといふ如き思想にていへるものと思はる。この意にとり  
て考ふる時は舊訓の方適切なりとす。「極」を「キハマリテ」とよむことこの卷三四二に「極貴物者  
酒西有良之」とあり。

○新世爾 舊訓「アタラヨニ」とよみたれど、槻落葉によりて「アラタヨニ」とよむべし。「新世の事は  
卷一五〇に「我國者常世爾成牟圖負留神龜毛新代登泉乃河爾云々」とある下にいへるが、そこは  
その新しき御世といふをほめたるなるが、ここは遙なる後の世といふことを主眼としていへ  
るなり。

○共將有跡「トモニアラムト」とよむ。夫婦共にその新世までもながらへあらむと思へるなり。  
さてこの「ト」助詞は下の「結而石」につゞくなり。



○玉緒乃「タマノヲノ」とよむ。これは下の「絶えじの枕詞」として用ゐたるなり。この枕詞の例は卷十一「二七八八」に「玉緒乃絶天亂名知者知反」二七八七に「玉緒之不絶常念妹之當見津」などあり。

○不絶射妹跡 舊訓「タエシヤイヤト」とよみたれど玉の小琴に「タエジイイモト」とよめるに随ふべし。攷證に曰はく「舊訓射をやと訓たれど射をやとよめるは藐姑射山といふ時より外は見えざれば常の如く不絶射と訓べし」といへり。「射」の字をいに借りたる例は卷一以来頻繁に用ゐたる處なれば例をあげず。されどこの「イ」につきては從來の説多くは首肯せられず。この「イ」は所謂間投助詞にして語調を強むる爲に加へたるものなりとす。卷七一三六〇に「向岡之若楓木下枝取花待伊間爾歎鶴鴨」卷十一八五一に「春風爾不亂伊間爾令視子裳欲得」などこの「イ」の用例なり。この契は永く絶えじ妹よと結びてきとなり。

○結而石 「ムスビテシ」とよむ。「石を」の假名に用ゐたる例は卷四七二九に「鬱瞻乃世人有者手」二卷難石卷六一〇二二に「繫卷裳湯湯石恐石」二〇四七に「芽乃枝乎石辛見散之狹男鹿者妻呼令動山見者山裳見貌石」萬世丹榮將往迹思煎石大宮尙矣」二〇五二に「川乃湍清石等例多し。「結ぶ」は契を結ぶにて上二句をうけて共に有らむ「絶えじ妹」と結びたるなり。

○事者不果 コトハハタサズとよむ。「結びてし事をば果さず」といふなり。この「ず」は終止形にあらず連用形にして次の語に重ねていへるなり。

○思有之心者不遂 オモヘリシココロハトグズとよむ。「オモヘリシ」といふ語は卷二又この巻

に既にいへり。上の如く思ひて有りし心をば遂げずといふなり。この「ず」も連用形にして次の語に重ねるなり。随つて「ず」しての意に解すべし。

○白妙之 「シタロヘノ」とよむ。意は上の「白細之」と同じ。

○手本矣別 「タモトヲワカレ」とよむ。「手本の例は卷二一三二等にあり。「矣」を助詞「ナ」にあつることはこの卷三六一の「佐農能崗將超公爾衣借益矣」の下にいへり。「タモトヲワカレ」といふは卷二一三八の「敷妙之妹之手本乎露霜乃置而之來者」卷十一二六六八に「妹之手本乎加流類比來」などの例に似て妹のわが手本をば別れて行きたる由にいへるなり。

○丹杵火爾之 「ニギビニシ」とよむ。「杵を」キとよむは肥前國の彼杵郡を古來「ソノキ」とよめるにて著しく本集にても卷六一〇二二に「吾者叙追遠杵土佐道矣」又卷九一八〇四に「朝露乃銷易杵壽」などあり。この語の例は卷一七九に「柔備爾之家乎擇」ありて相和して陸しく楽しくくらむるをいへるなり。

○家從裳出而 舊訓「イヘチモイデテ」とよみたれど「從を」チとよむべからず。考に「イヘチモイデテ」とよめるをよしとす。「從を」ユとよむことは卷一以来屢あり。

○綠兒乃 「ミドリコノ」とよむ。この語卷二二一三にいへり。

○哭乎毛置而 「ナクヲモオキテ」なり。綠兒の泣く子をも殘しおきて死せしをいふ。

○朝霧 「アサギリノ」とよむ。下の「髣髴爲乍」の枕詞なり。卷四五九九に「朝霧之髣相見之人故爾」卷十三三三四に「朝霧乃思惑而」など似たる用例なり。



○髣髴爲乍 舊訓「ホノメカシツ」とよめり。童蒙抄は「ホノカニナリツ」と考は「ホノニナリツ」、玉の小琴は「オホニナリツ」とよめり。先づ「髣髴爲」を「ホノメカス」とよむは不條理なる上、語をなさざれば随ひがたし。「髣髴」を「オホニ」とよむことは卷二「一七」に「梓弓音聞吾母髣髴見之事悔敷乎」の條に例あり。又卷四「五九」に「朝霧之鬱相見之」の「鬱」も「オホニ」とよむことは卷二「二一九」の「天數凡津子之相日於保爾見敷者今叙悔」に照して考ふべく、二者共に「朝霧」を枕詞とせる點も相通ぜり。されば「オホニナリツ」とよむべきなり。されど、その「オホニ」の意は稍異なり。他は皆見る事のおほなるものなるが、こは「おほになる」なり。「おほになる」とは「髣髴」たるさまになることとして幻として形の偲ばるゝのみにして實には見られぬ由をいへるなり。

○山代乃「ヤマシロノ」なり。今の山城國なり。卷六「一〇五〇」に「山代乃鹿脊山際爾」卷九「一七〇七」に「山代久世乃驚坂」などあり。

○相樂山乃 舊訓「サカラノヤマノ」とよみたれど、考に「サガラカヤマノ」とよめるをよしとす。和名類聚鈔には「相樂郡佐良加又相樂郷佐良加」とあり。「サガラ」といふは後の略語なり。こは相樂郡の山なるべきが、今特にかく名づけたる山なし。されど、かの和束山などもとり相樂山ともいひうべき山なり。とにかくにここにもこの山の中のいづこかに葬りしなり。

○山際 舊訓「ヤマノマチ」とよみ、考は「ヤマノマニ」とよめり。「山際」を「ヤマノマ」とよむことは、卷一「一七」にあり、こもそこに准じて「ヤマノマニ」とよむべし。「山」の間に「の」意なり。

○往過奴禮婆 ユキスギヌレバ」とよむ。往きて見えたりたるにいへるなり。山の際を過ぎ

て他に往きぬといふにあらず。山の際に往きて見えたりたるを過ぎぬればといへるなり。

○將云爲便 「イハムスベ」なり。卷二「二〇七」の「將言爲便」と同じ語なり。

○將爲便不知 「セムスベシラニ」なり。これは卷二「二一三」の「爲便不知」を「セムスベシラニ」とよむべきことを説ける際に論及せる所なり。意はそこにいへるに同じ。

○吾妹子跡 「ワギモコト」とよむ。意明かなり。

○左宿之妻屋爾 「サネシツマヤニ」とよむ。「サネシ」は「ネシ」におなじ。「サ」は接頭辭として加へしものなり。卷十四「三五〇五」の「宇良夜須爾左奴流夜會奈伎兒呂乎之毛倍婆」卷十五「三七三五」に「左奴流欲能伊米爾毛伊母我美延射良奈久爾」三六「二六」に「安奈多頭多頭志比等里佐奴禮婆」卷五「八〇四」に「麻多麻提乃多麻提佐斯迦閉佐爾斯欲能」などその例なり。「妻屋」は卷二「二一〇」に「吾妹子與二人吾宿之枕付孀屋之内爾」にその語ありて、意はそこにいへるにおなじ。

○朝庭 「アシタニハ」とよむべし。之を楓落葉には「アサニハニ」とよみて曰はく「朝庭の爾波は助辭にあらず。卷十三「十五」に「朝庭丹出居而嘆卷十七「二十一」に「安佐爾波爾伊泥多知奈良之と見えたり。されば、下の夕爾波も庭なるべく、卷十七「二十一」に「幕庭爾敷美多比良氣受とあるに、卷十三「三十」に「朝庭出居而嘆夕庭入居戀乍とさへあればいよ、爾波は助辭ならじとおもへれど、同卷「十五」に同じ歌の出たるには「朝庭爾云々夕庭云々と書て、上には「爾」の字をそへ、下には「爾」の字なきに、こゝも上は庭と書て「爾」の助辭はよみつくべく、下は「爾波」と假字書にて「爾」の助辭なきを相照らして考れば、出立云々は「孀屋の庭」といふ意、入居云々は「都麻屋の内」といふ意也。故ふ



たつの庭は正字と助辭とにて上下違へり。よりて上はあさにはにとよみ、下はゆふべにはとよみたりといひ、古義これにより、攷證はこれに賛成の意を明言せり。今槻落葉の第一の證とするは卷十五、三二七四の「アサニハ朝庭丹出居イデキ而嘆夕庭入居イデキ而思オモヒの丹なるが、これは古寫本の多くにはなきものなれば誤りて攪入せしものと見るをよしとすべし。その卷十七の「アサニハ安佐爾波爾伊泥多知奈良之暮庭イデキ爾敷美多比良氣受云々」とあるは、立ならし「ふみたひらぐ」といへるにて、その對象が庭なること著しきが、ここは出づると入ると相對するなれば、對句として不條理にあらず。按ずるにここは必ずしも庭に出づといふに限らざるべきは、卷十九、四二〇九に「アサニハ安志太爾波可度爾伊氏多知由布徹爾波多爾乎美和多之古布禮騰母イデキ」の例にて知るべく、又卷八、一六二九には「アサニハ且者庭爾出立夕者床打拂」とある如く、特に庭といへるもあり。されば、これは舊訓の如くよみて、完全なる對句とすべきものなり。「庭を助詞ニ」とハとの合せるものに借りたる例は卷一、三三の「アサニハ朝庭取撫賜夕庭伊緣立之御執乃梓弓之イデキ」をはじめて例多きことは今更いふを要せず。

○出立偲 舊訓「イデタチシノビ」とよめり。「偲」は「シヌビ」とよむべきこと、卷二、一三一の「將偲の例にて知るべし。出立は上の「四二〇九」の例によらば門に出で立つと見るべく、一六二九の例によらば庭に出で立つと見るべく、いづれにして家居するに堪へずして家を出で外に立ちつゝ故人を思慕するなり。

○夕爾波 ユフベニハなり。

○入居嘆舍 舊訓「イリキナゲカヒ」とよめり。考は「舍は合の誤としてイリキナゲカヒ」とよみ、槻落葉は「舍は會の誤として訓は考と同じくせり。この「舍」字神田本に「會」とあるによれば、槻落葉の説よきに似たり。按ずるに「舍」を訓の假名とすること及びそを「ヤ」とよむことは例なきことなれば、「舍は合か會かの誤なるべく、字形よりいへば合の方近きものと思はる。いづれにしても、イリキナゲカヒ」とよむべきなり。「入居」の例は卷十三、三三二九に「アサニハ朝庭出居而嘆夕庭入居イデキ戀乍コト」これを見る。家に入り居ることなるはいふまでもなし。「ナゲカヒ」といふ語の例は卷五「アサニハ八九七に「アサニハ晝波母歎加比久良志夜波母息豆伎阿可志卷十七、三九六九に「アサニハ隱居而念奈氣加比奈具佐牟流許己呂波奈之爾イデキ」などあり。嘆きつゝあることなり。

○腋挾 挾字流布本「狭」とす。古寫本に「挾」とあるによる。「ワキハサム」とよむこと勿論なり。これは卷二、二一〇の「アサニハ若兒乃乞泣每取與物之無有鳥穗之物脇挾持」といへるにてその意を得べし。今ならば子を抱くといふを當時かくいへるなり。

○兒乃泣母 舊訓「コノナカシメハ」とよめり。されど「母」は「シム」にあつること道理なし。代匠記は「ちこのなくをもとか或はこのいさつるもとか讀べし」といひ、考は「母」を「毎」の誤として「イサツコトニ」とよみ、槻落葉も「毎」の誤として「コノナクゴトニ」とよめり。今按ずるにここにすべての本誤字なけれど、意通せざれば「母」は「毎」の誤なるべし。かくて「コノナクゴトニ」とよむを穩かなりとすべし。意は明かなり。

○雄自毛能 舊訓「チノコシモノ」とよみ、槻落葉は「チトコジモノ」とよめり。いづれにてもあるべし。



きさまなる故に舊訓による。この語は卷二二二二に「男自物齋挿持」とあるにおなじ。男にてあるものが、子を負ひ、子を抱きなどさま／＼にするをいふ。

○負見抱見 舊訓「オヒミイダキミ」とよめるを考に「オヒミムダキミ」とし、古義「オヒミウダキミ」とせり。この差は「抱」のよみ方にあるなり。然るに集中「抱」の語を單獨に用ゐたる假名書の例なし。卷十四三四〇四に「可伎牟太伎奴禮杼安加奴乎」とあるによれば「ムダキ」といふべき如くなれど如何。日本靈異記には「抱」(支)卷下第九とせり。これによりて「ウダキ」とよむべし。さてこの二の「み」は後の歌に「神無月ふりみふらずみさだめなきしくれぞ冬のはじめなりける」(後撰集冬)といへる如く、後世の「たり」といふ俗言に似たるものにして同じ趣の二語以上を相對して重ねいふ時に用ゐるなり。本集にての例は卷十一二六二六に「咲見慍見著四紐解」二六四〇に「梓弓引見縦見思見而」などあり。

○朝鳥之 「アサトリノ」とよむ。これは「なく」に對しての枕詞なり。朝は鳥の特によく啼くものなればなり。

○啼耳哭管 「ネノミナキツ」なり。「啼」は普通「ナク」と訓する字なれど、ここには體言に用ゐたるにて「泣」哭を「ネ」にあてたるも同じ道理なり。「ね」にのみなきつ」といふことなり。

○雖戀 「コフレドモ」とよむ。意明かなり。

○効矣無跡 「シルシヲナミト」とよむ。「效」は效驗にして「驗」をしるしとよむ(この卷三三八)と同じ意なり。かく「云々を無み」といふことは卷二二二三八の「津乃浦乎無美」二〇七の「爲便乎無見」二二

○の「相因乎無見」の場合におなじ。又卷十五三六二七に「毛且禮杼毛之留思乎奈美等麻多於伎都流可毛」卷十三三四四に「嘆友記乎無見跡」など、このこと同じ關係の語法なり。戀ふれども、そのかひの無きによりてと思ひてといふなり。

○辭不問物爾波在跡 「コトトハヌモノニハアレド」とよむ。「コト」は言語なり。「コトトフ」とは「も」のいふなり。卷五八一に「許等等波奴樹爾波安里等母」卷十九四一六一に「言等波奴木尙春開」など例多し。ここは山をさしていへるなり。

○吾妹子之入爾之山乎 「ワギモコガイリニシヤマヲ」とよむ。妻が葬られし相樂山をさしていふ。「入り」は上の「山際往過奴禮婆」に應じたるなり。

○因鹿跡叙念 舊訓「ヨスカトソオモフ」とよみ考は「ヨスカトゾモフ」とす。いづれにてもよき筈なれば舊訓による。攷證に曰はく「因鹿は佛足石歌に「乃利乃多能與須加止奈禮利云々。本集十六」 荒雄を悲しめる歌に「志賀乃山痛勿伐荒雄良我余須可乃山跡見管將偲」などありて「因」は心をよするを鹿は「住か隠れか」在か、奥かなどいふ、かと同じく、所といふ意にて、皆かもしを清てよめれば、こゝもかもしを清て訓べし」といへり。楓落葉に曰はく「寄處也。こゝろをよせ、身をよするをいふ言なれば、常にはたよりといふ意なれど、こゝは形見といふに近し」といへり。さることなり。

○一首の意 互に白妙の袖をさし交して、寄り添ひ寝たる吾が黒髪の眞白髪になり極りて、再び新なる其世までも共に居らむと約束し、この契は絶ゆまじ、妻よと約束せし事をば果すこ



とを得せず、かく思ひてありし心は遂ぐる事を得せずして、白妙のわが衣の袖を別れ、共に睦びかはしたる家よりも出でて、緑兒の泣くをもさし置きて、おぼろけなるさまになりつゝ山城の相樂山の山間に往きて見えたりたれば、我は言はむすべも知らず、爲むすべも知らず、ただ茫然として、吾妻と共に寝たる閨の内に居て朝に夕に或は外に出で立ちて思慕し、或は内に入り居て嘆き、腋に挟みて大切にする緑兒の泣く毎に、男ながらも或は負ひ、或は抱きて泣聲を出して泣きてのみ居て妻を戀ふれどもその效驗の無きによりて、物をいはぬものなれど妻の入りたる山を妻の由縁と念ひ、せめてそれに慰まむと念ふとなり。

反歌

(四八二)

打背見乃、世之事爾在者、外爾見之、山矣耶今者、因香跡思波牟。

○打背見乃、「ウツセミノ」とよむ。卷一「一三」に「虚蟬」とかき、「二四」に「空蟬之卷二」「一九九」に「打蟬」とかけるにおなじ。

○世之事爾在者、「ヨノコトニアレバ」とよむ。「ヨノコトナレバ」とよむも不可なし。この語の例は卷五「八〇五」に「余能許等奈禮婆等登尾可禰都母」とあり。ここは卷二「一五〇」の「空蟬師神爾不勝者離居而朝嘆君放居而吾戀君」といへるに稍心似たり。

○外爾見之、「ヨソニミシ」なり。卷二「一七四」の「卷四七四」の「昔許曾外爾毛見之加」といへるに心おなじ。

○山矣耶今者、「ヤマヲヤイマハ」とよむ。「耶」は「邪」の俗字にして、「ヤ」の音あれば借りたるなり。もとは無關係と思ひし山を今はといふなり。「ヤ」は疑問の係助詞にして次の句の意に影響を及ぼす。

○因香跡思波牟、「跡」字流布本に「爾」とせり。すべての古寫本及び活字無訓本みな「跡」とせり。流布本は蓋し、活字附訓本の誤植に基づくものなり。舊訓に「ヨスカトオモハム」とあるも、その正しき文字によれるが故なり。

○一首の意、生るゝものは終には死ぬる事は世間の定まれる事にて如何ともしがたければ、今までは無關係と見てありし相樂山をば今は妻の葬られてあればそこを心のより所と思はむとなり。

(四八三)

朝鳥之啼耳鳴六、吾妹子爾、今亦更逢因矣無。

○朝鳥之、「アサトリノ」とよむ。「啼」の枕詞なること上の長歌におなじ。

○啼耳鳴六、舊訓「ネノミヤナカム」とよめり。玉の小琴は「鳴六」は「之鳴」の誤として、「ネノミシナカム」とよみ、楓落葉は「耳の下に也」を加へて舊訓の如くし、古義はこのまゝにして、「子ノミシナカム」とせり。今按ずるにここに脱字ある本なければ、このまゝにてよむを穩かなりとす。さて「ヤ」といふが如き特殊の助詞のなきをここに加へてよむは穩かならず。かくて「シ」を加へてよむは例少からねば、古義の説をよしとす。卷四「六一四」に「白細之袖漬左右二哭耳四泣裳」など似た



る例なり。

○今亦更「イママタサラニ」なり。意明かなり。

○逢因矣無「アフヨシヲナミ」とよむ。卷二「二一〇」に「戀友相因乎無見」といへるに意同じ。

○一首の意 反轉法によれり。今は又更にわが妻に逢ふ由の無きによりてただ啼きのみ啼かむとなり。

右三首、七月廿日高橋朝臣作歌也。名字未審。但云奉膳之男子焉。

○七月廿日 これは前よりの引續きにて天平十六年七月廿日の作と推定すべきなり。

○高橋朝臣作歌也 高橋朝臣は阿部朝臣と同祖、孝元天皇の皇子大彥命の後なり。新撰姓氏錄に曰はく、

高橋朝臣、阿倍朝臣同祖、大稻與命之後也。景行天皇巡狩東國、供獻大蛤。于時天皇喜其奇美、賜姓膳臣。天淳中原瀛真人、天皇十二年改膳臣賜高橋朝臣。

とあり。この氏人はかの高橋氏文にも明かなるが如く、世々天皇の御膳を掌れり。さてこの作者は何人か「名字未審」といへば、今に於いては知り難し。本集にこの氏の人が高橋朝臣國足あり。なほ高橋連品麿等あれど、それは連のかばねにして、氏族は別なり。高橋連は物部氏の同族にして、神別なれば、皇別の高橋朝臣と混すべきにあらず。

○名字未審云々 これら十二字をば考に衍とし、槻落葉は後人の加注なりとせり。何時の加注

か、斷言すべきにあらねど、但云奉膳之男子焉とあるは無下の注にあらずして、この歌の作者として傳ふる所あるを注したること著しければ、編者の原注と見ても差支なきなり。

○但云奉膳之男子焉 これは作者の名と字とは知らねども、たゞ奉膳の官に在りし男子なりといひ傳へたりとなり。奉膳とは宮内省の内膳司の長官なり。令にいはいはく、

奉膳二人、掌摠知御膳進食先嘗

とあり、延喜式によれば、後に内膳司の長官に内膳正といふ名も起りたるが、それは式部式に、

凡内膳司長除高橋安曇二氏以外爲正

とあるが、後には奉膳の名すたれて専ら正の名を用ゐられたり。されど、職原抄に

内膳司 掌御膳事

正一人 奉膳一人 近代奉膳乃爲正、高橋氏相傳任之

とありて、高橋氏は後々までも内膳司の長官たりしなり。この時に奉膳たりし人は誰なるか明かならず。續日本紀によるに、神護景雲二年二月勅ありて、以高橋安曇二氏任内膳司者爲奉膳、其以他氏任之者宜名爲正とあり。按ずるに、その以前には専ら奉膳とのみいひしものならむ。天平寶字三年十一月に從五位下高橋朝臣子老爲内膳奉膳、又天平寶字六年四月に從五位下高橋朝臣老麿爲内膳奉膳の記事あればなり。されど、これらの人はこの歌の作者といふべき證なし。

(昭和十一年七月六日稿了、八月二十一日再訂了)



萬葉集講義卷第三附録

萬葉問題集 卷三

この問題集の本旨は卷一の附録に述べたれば、今くりかへさず。なほこの問題集も主として、その問題として存する部分を指摘するに止めたり。本書に於いて著者が意見を述べたるものにつきてもなほ學者の講究を要すと思ふものはここに問題として採録せり。

問題の下にその歌の番號と本書にはじめてあらはれたる頁とを注記すること卷一、卷二におなじ。而して同一の語の屢出づるものは最初のものをあぐるに止む。次に、卷一、卷二に既に問題として掲げたるものは本卷に於いては便宜上これを略することあり。

卷第三中の問題

獵路池 「二三九」(三六頁)



春日王 「二四三」 (五三頁)  
 野坂乃浦 「二四六」 (六〇頁)  
 石川大夫 「二四七」 (六二頁)  
 舟公宣 「二四九」 (七一頁)  
 可古能島 「二五三」 (八一頁)  
 潮 「二五三」 (八一頁)  
 留火 「二五四」 (八六頁)  
 雪驟朝樂毛 「二六二」 (一一九頁)  
 馬莫疾打莫行 「二六三」 (一二三頁)  
 赤乃曾保船 「二七〇」 (一五二頁)  
 四極山 「二七二」 (一六三頁)  
 笠縫之島 「二七二」 (一六三頁)  
 磯前 「二七三」 (一六六頁)

八十之湊 「二七三」 (一六六頁)  
 軍布 「二七八」 (一八七頁)  
 髮梳乃少櫛 「二七八」 (一八七頁)  
 名次山 「二七九」 (一九三頁)  
 角松原 「二七九」 (一九三頁)  
 石上卿 「二八七」 (二一九頁)  
 夜隱 「二九〇」 (二三三頁)  
 角麿 「二九二」 (二四七頁)  
 廬前乃角大河原 「二九八」 (二六七頁)  
 行年 「二九九」 (二七三頁)  
 久米能若子 「三〇七」 (三〇四頁) 「四三五」 (八五二頁)  
 京引 「三一三」 (三三一頁)  
 奈麻余美乃 「三一九」 (三六〇頁)



- 水乃當。『三一九』(三六〇頁)
- 射狹庭乃崗。『三二二』(三九五頁)
- 臣木。『三二二』(三九六頁)
- 飽田津。『三二三』(四〇七頁)
- 登保志呂之。『三二四』(四一三頁)
- 宇禮牟曾。『三二七』(四三六頁)
- 淵有毛。『三三五』(四五五頁)
- 白縫筑紫。『三三六』(四六〇頁)
- 湖。『三五二』(五〇三頁)
- 高城乃山。『三五三』(五〇六頁)
- 繩乃浦。『三五四』(五〇八頁) 『三五七』(五一七頁)
- 志都乃石室。『三五五』(五一〇頁)
- 粟島。『三五八』(五一九頁)

- 阿倍乃島。『三五九』(五二一頁)
- 佐農能崗。『三六一』(五二五頁)
- 告志五余。『三六二』(五二八頁)
- 手結。『三六六』(五四三頁)
- 石上大夫。『三六八』(五五二頁)
- 飫海。『三七一』(五六六頁)
- 高座之。『三七二』(五七〇頁)
- 容鳥。『三七二』(五七〇頁)
- 祈奈牟。『三七九』(五九二頁)
- 情進莫。『三八一』(六〇四頁)
- 明(羽)神之。『三八二』(六〇七頁)
- 儕立乃。『三八二』(六〇七頁)

著者は高座は高御座にあらずと本書にいへり。諸家の講究をまつ。



見杲石山 「三八二」(六〇七頁)

吉志義我高嶺 「三八五」(六二三頁)

草取可奈和 「三八五」(六二三頁)

納回 「三九〇」(六五七頁)

鳥總立 「三九一」(六六一頁)

金明軍 「三九四」(六七七頁) (四五八) (八三三頁)

託馬野 「三九五」(六八二頁)

「ツクマヌ」とよみうべきものにあらぬは本書に論ぜり。著者の一案は本書にあげたれどもとより一案に止まる。學者の講究をまつ所なり。

待鹿爾繼而行益乎 四〇五 (七一三頁)

著者の案は本書にいへり。なほ講究を要す。

認有 四〇六 (七一七頁)

同上

屋前 「四一〇」(七三五頁)

伊奈太吉爾伎須賣流玉 「四一一」(七四三頁)

池般 「四一六」(七六二頁)

手弱寸 「四一九」(七七二頁)

七相菅 「四二〇」(七七六頁)

田葛 「四二三」(八〇〇頁)

霏霰 「四二九」(八二二頁)

これに關する著者の見解は動くまじと思はるれど、なほ一段の研究を要す。

名豆颯 「四三〇」(八二四頁)

同上

倭文幡乃帶解替而廬屋立妻間爲家武 「四三一」(八三一頁)

松之根也遠久寸 「四三一」(八三一頁)

加麻。幡夜能美保乃浦 「四三四」(八四六頁)



清之河 「四三七」 (八五五頁)  
 香君 「四四三」 (八七五頁)  
 牛留鳥 「四四三」 (八七五頁)  
 天木香樹 「四四六」 (九〇二頁)  
 心神 「四五七」 (九二七頁)  
 内日指 「四六〇」 (九四二頁)  
 豫 「四六八」 (九八五頁)  
 情神 「四七一」 (九九〇頁) (心神参照)  
 活道山 「四七八」 (一〇一四頁)

萬葉集講義卷第三 索引

例言

- 一、本索引は二部に分る。一部は國語索引にして、二部は漢字索引なり。これらはいづれにもこの巻の國語及び漢字をすべて網羅してあげむことを目的としたること前巻の場合におなじ。
- 二、記載例は前巻の場合におなじきを以て、詳細の説明は前巻のものを見らるべし。但しこの巻に至りて稍方法をかへたるものなきにあらず、されど、大綱はもとより變更せざるものなり。
- 三、一の歌の中に二回あらはるゝものはその項數を二回あぐることゝしたり。



國語索引

國語索引

ア

あ(吾勢) 276 一本(ワ参照)  
 (吾將枕) 439  
 (吾乎召麻之乎) 454  
 あかし(明石之浦爾) 326  
 (自明門) 255  
 (開乃門從者) 388  
 あかしおほと(明大門) 254  
 あき(秋夜者) 324  
 あきかせ(秋風) 361 462 465  
 あきつは(秋津羽之) 376  
 アキラム(明)  
 あきらめ(明米之) 478  
 アク(飽)  
 あか(不飽) 297 459  
 (不飽鴨) 307  
 (不飽香聞) 319  
 アク(明、開)  
 あけ(此夜乃將明跡) 388

(開去歲) 388  
 (明去者) 388  
 あけ(赤乃曾保船) 270  
 あご(網子) 238  
 あさ(朝夕) 443 456 458  
 あさ(朝不離) 372 423  
 (朝爾食爾) 377 403  
 アサカハワタル  
 あさかはわたり(朝川渡) 460  
 あさがり(朝獵) 478  
 あさぎり(朝霧) 481  
 あさぐも(且雲) 324  
 あさけ(寒朝開) 361  
 あさぢはら(淺茅原) 333  
 あさどりの(朝鳥之) 381 483  
 あさなさな(朝旦) 408  
 あさぬ(淺野之雉) 388  
 あさびらき(且開) 351  
 あさり(磯廻爲鴨) 368  
 あしがらやま(足柄山) 391

あしきた(葦北) 246  
 あした(朝庭) 481  
 あしたづ(蘆鶴之) 456  
 あしひきの(足日木之) 297  
 (足日木乃) 466  
 (足日木能) 414  
 (足檜木乃) 477  
 (足水木乃) 460  
 あしべ(葦邊) 352  
 あじろぎ(阿白木爾) 264  
 あす(明日從) 423  
 (從明日香) 423 一云  
 あすか(明日香庭) 268  
 (明日香能舊京師) 324  
 (明日香河乃) 356  
 あすかがは(明日香河) 325  
 (明日香川) 356  
 アス(淺)  
 あせ(淺爾家留香裳) 292  
 あそびのみち(遊道爾) 347

二

アソブ(遊)  
 あそぶ(遊船爾波) 257  
 アタタケン(暖)  
 あたたけく(暖所見) 336  
 あたひ(價無寶) 345  
 あたら(安多良船材乎) 391  
 あたり(家當) 254  
 (家門當) 255 一本  
 あぢむら(味村) 257  
 (阿遲村動) 260  
 あづさゆみ(梓弓) 311 478  
 あづま(東國) 382  
 あと(跡無如) 351  
 (跡無) 466  
 アトモフ(率)  
 あともひ(率比賜比) 478  
 あな(痛醜) 344  
 あに(豈益目八) 345  
 (豈若目八目) 346  
 あは(粟) 404 405  
 あはしま(粟島) 358  
 あはぢ(粟路) 251

國語索引

あはぢしま(淡路島) 388 388  
 あはれ(阿怜) 416  
 あびき(網引爲跡) 233  
 アフ(逢、相)  
 あは(相牟鴨) 427  
 (不相久美) 310  
 (君爾不相可開) 379  
 (君爾不相鴨) 380  
 (不相兒故荷) 372  
 あひ(相見染跡衣) 300  
 (昔人乎相見如之) 309  
 (相見之妹) 474  
 (相之兒等) 254  
 (相爾來鴨) 267  
 あふ(逢因) 488  
 あへ(逢耶) 425  
 (親魄相哉) 417  
 アフ(敢)  
 あへ(安倍而) 388  
 (競敢六鴨) 302  
 アフグ(仰)  
 あふぎ(仰而) 239

あふみ(淡海乃海) 266  
 (近江海) 273  
 あべ(阿倍乃市道) 284  
 アヘグ(喘)  
 あへぎ(阿倍寸管) 366  
 あべのしま(阿倍乃島) 359  
 あま(海人) 238 278 413  
 (海人釣船) 256 294  
 (海部) 256 一本  
 (白水郎) 252  
 (海女) 239  
 あまぐま(天雲) 319 321 420 443  
 (天雲之) 235  
 あまざかる(天離) 255  
 あまづたひ(天傳來) 260  
 あまのかはら(天川原) 420  
 あまのさぐめ(天之探女) 292  
 あまのはら(天原) 289 317 379  
 あまをとめ(海未通女) 366  
 あみ(網爾刺) 240  
 あめ(天) 239 240  
 (天所知奴禮) 475

三



(天所知牟登) 476  
 (天地) 316 317 420 420 443 478  
 (天有) 420  
 (天之芳來山) 257  
 あめ(雨) 265 299 370 374 460  
 あもりつく(天降付) 257  
 (天降就) 260  
 あや(綾爾恐之) 475  
 (文爾恐之) 478  
 アヤシ(靈)  
 あやしき(靈寸物香) 388  
 あやめぐさ(菖蒲) 423  
 あゆこ(年魚小) 475  
 あゆちがた(年魚市方) 271  
 あらかじめ(豫) 468  
 アラシ(荒)  
 あらき(荒其路) 381  
 あらたへの(荒栲) 252  
 あらたまの(荒玉之) 443 460  
 あらたよ(新世爾) 481  
 あらやまなか(荒山中爾) 241  
 あられ(霰) 385

(有家留) 401  
 (有家類物乎) 455  
 (有家留物乎) 470  
 (有家武人) 431  
 (淵有毛) 385  
 (悲喪有香) 459  
 (客有間爾) 460  
 (名付而有毛) 319  
 (酒西有良師) 340  
 (酒西有良之) 342  
 (可飲有良師) 338  
 (益有良之) 341  
 (可有良師) 347  
 (不免物爾之有者) 460  
 あれ(死物爾有者) 349  
 (客之有者) 366  
 (間違之有者) 413  
 (世間爾有者) 466  
 (女有者) 419  
 (左波爾雖有) 332  
 (壽爾之在者) 461  
 (世之事爾在者) 482

アリ(有)

あら(直幸有者) 288  
 (樂有者) 348  
 (有雲知之) 258  
 (樂有名) 348  
 (樂乎有名) 349  
 (不取香聞將有) 386  
 (不改將有) 315  
 (所燒乍可將有) 269  
 (常將有等) 242  
 (有牟) 428  
 (共將有跡) 451  
 (空跡將有登曾) 442  
 (將有乎) 467  
 (將有哉) 438  
 (將有八方) 410  
 (妹鴨有牟) 428  
 (伊香爾安良牟) 285 一云  
 (奈何將有) 285  
 (絶日安良米也) 243  
 (此間毛有益神) 387  
 (神者不有) 406

(左波爾雖在) 322 460  
 (常世有跡) 446  
 (物爾波在跡) 481  
 ありそ(荒磯爾生) 363  
 ありまやま(有間山) 460  
 アル(生)  
 あれ(生來神之命) 379  
 アル(荒)  
 あれ(安禮爾家留可毛) 302 一云  
 (荒爾鷄里) 479  
 (荒有家) 440  
 あるく(公之阿流久爾) 425  
 あれ(朕) 236 (われ參照)  
 (吾) 275 276 一本 310 437 470  
 (我) 276  
 あをによし(青丹吉) 328  
 あをやま(青山之嶺乃白雲) 377  
 い(寢乃不勝宿者) 388  
 い(格助詞)(志斐伊波奏) 237  
 い(間投助詞)(不絶射妹與) 480

イ

(人跡不有者) 343  
 (常有奴可) 332  
 (久者不有) 335  
 (時爾波不有跡) 441  
 (志賀爾安良七國) 263  
 (家裳不有國) 265  
 (孤悲爾不有國) 325  
 (庭好有之) 256  
 (清有師) 315  
 (貴有師) 315  
 あり(蟻通島門) 304  
 (安里我欲比) 479  
 (有金手) 383  
 (有言八方) 424  
 (有跡) 446  
 (雖有) 402  
 (啖而有哉) 456  
 (有世婆) 466  
 (在鶴公) 443  
 (在管裳) 324  
 (公者在然) 444  
 (安里氣禮騰) 368

いかさま(何方爾) 443 460  
 いかづち(雷之上爾) 235  
 いかに(伊香爾安良牟) 285 一云  
 (奈何將有) 285  
 (如何) 462  
 (何在) 443  
 (如何爲鴨) 403  
 いくぢ(活道乃路) 479  
 いくぢやま(活道山) 478  
 いくよ(幾代將經) 355  
 いけ(池之激爾) 378  
 (磬余池) 416  
 いけなみ(池浪) 257 260  
 いざ(去來) 280  
 (率兒等) 388  
 (率行) 293  
 いさなとり(勇魚取) 368  
 いさにはのをか(射狹庭乃崗) 322  
 イサヨフ(躊躇)  
 いさよひ(心射左欲比) 372  
 いさよふ(不知夜代經浪) 264  
 (射狹夜歷月) 393



(伊佐夜經雲) 428  
 いざりする(伊射里爲流) 256 一本  
 いしうら(石卜) 420  
 いせ(伊勢海之) 306  
 いそ(磯) 447 448  
 (磯前) 273  
 (磯越道有) 314  
 (宇乃住石爾) 359  
 (磯之草根) 435  
 いそがくり(磯隱居而) 388  
 いそのかみ(石上) 422  
 いそみ(石轉爾生) 362  
 いた(痛毛爲便奈美) 456  
 イタシ(痛、甚)  
 いたく、(疾打莫行) 263  
 いたき(痛情者) 472  
 (智己所痛) 466  
 イタル(至)  
 いたれ(春爾至婆) 257  
 イタレリ  
 いたれる(至流左右二) 420  
 いち(東市) 510

いちぢ(阿倍乃市道) 284  
 いつ(何時間) 259  
 (何時可) 279  
 (何時毛將超) 282  
 (何時鴨) 388  
 (何時毛何時毛) 398  
 (何時) 445  
 (何時毛) 467  
 イヅ(出)  
 いで(撈出牟) 388  
 (色爾將出八方) 301  
 (出立) 481  
 (出立而) 420  
 (出立有) 319  
 (出來月) 290  
 (出行道) 463  
 (海路爾出而) 366  
 (出而) 461  
 (家從裳出而) 481  
 (保爾會出流) 326  
 いづ(亂出所見) 256  
 いづる(出流船人) 283

イツク(齋)  
 いつき(伊都伎坐等) 420  
 いづく(何處) 275  
 (家八方何處) 287  
 (何所可將寄) 480  
 いづも(出雲兒等) 429  
 (出雲子等我) 430  
 いづら(何在登) 448  
 いでまし(行幸之宮) 315  
 いでまじどころ(幸行處) 295  
 (行幸處) 322  
 いと(甚近) 411  
 いとま(無暇) 278  
 いな(不聽) 236 237  
 いなだき(伊奈太吉) 412  
 いなびぬ(稻日野) 253  
 いなみ(稻見乃海) 303  
 いにしへ(古所念) 266 313  
 (古思者) 324  
 (古爾) 387  
 (古之七賢人) 340  
 (古昔) 431

(古昔大聖) 339  
 (古者之) 373  
 イヌ(往)  
 いな(往者) 382  
 いに(撈去師船) 351  
 (往公鴨) 445  
 (往監) 443  
 いのち(吾命之) 288  
 (吾命毛) 331  
 (壽) 461  
 いはがね(磐金之) 301  
 いはと(石戸) 418 419  
 いはね(石根) 414  
 いはひべ(齋忌戸) 443  
 (齋戸) 379 420  
 イハフ(匍匐)  
 いはひ(伊波比拜) 239  
 (伊波比拜目) 239  
 (伊波比毛等保理) 239  
 (伊波比回禮) 239  
 イハフ(齋)  
 いはひ(忌穿居) 379

いはふね(石船) 292  
 いはほ(石穗) 420 421  
 いはもとすげ(磐本菅) 397  
 いはや(石室者) 308  
 (三穗乃石室) 307  
 (志都乃石室) 355  
 いはやど(石室戸) 309  
 いはれ(石村) 282 423  
 (磐余池) 416  
 イフ(言)  
 いは(居中跡所言奚米) 312  
 (所云人者) 443  
 (將言爲便) 342 460  
 (將云爲便) 481  
 (有不言八方) 424  
 (言卷毛) 475  
 いひ(言繼將往) 317  
 (人之言嗣) 382  
 (言不得) 319  
 (言毛不得) 466  
 (苗有跡云師) 407  
 (人曾言鶴) 420

いふ(價無寶跡言十方) 345  
 (玉跡言十方) 346  
 (死云事爾) 460  
 (不見跡云物乎) 305  
 (所見云物乎) 396  
 (物言從者) 341  
 いへ(云者) 463  
 (不聽跡雖云) 236  
 (不聽雖謂) 237  
 (人者雖云) 400  
 イフル(觸)  
 いふり(伊觸家武) 435  
 いへ(家) 265 451 461  
 (家當) 254  
 (家八方何處) 287  
 (家妹) 360  
 (家戀良霜) 365  
 (思家登) 381  
 (妹家) 398 399  
 (家有者) 415  
 (家待莫國) 426  
 (荒有家) 440



(離家) 471  
 (家從裳出而) 481  
 (宅) 460  
 いへち(家道) 302  
 いへづと(家裏) 306  
 いほえ(五百枝刺) 324  
 いほさき(盧前乃) 298  
 いほはら(盧原乃) 296  
 いほり(盧爲流鴨) 285  
 いま(今毛) 308  
 (今見者) 316  
 (今盛有) 328  
 (今者將罷) 337  
 (今亦更) 483  
 (今者都引) 312  
 (從今者) 402  
 (今者) 482  
 (今毛可毛等奈) 356 或本  
 いまだ(未者伎禰杼) 336  
 (未服而) 395  
 (未著穢) 413  
 (未干爾) 469

イマス(坐)  
 いまし(伊座都流香物) 420  
 (伊座勢波) 454  
 (伊座之君) 459  
 (座之物乎) 400  
 (伊座家留) 307  
 (將座) 355  
 います(伊都伎坐等) 420  
 (靈母座神香聞) 319  
 (鎮十方座祇可聞) 319  
 (敷座國之盡) 322  
 (離家伊麻須吾妹) 471  
 いませ(伊麻世) 381  
 (念座可) 443  
 いめ(夢乃和太) 335  
 いも(妹) 326 428 437 447 449 464 463 469 470 473  
 (妹母) 276  
 (妹者) 286  
 (妹名) 385  
 (妹乎) 300 376  
 (妹手) 385  
 (妹之手) 415

(妹之家裏) 306  
 (妹家) 393 399  
 (家妹之) 360  
 (妹爾) 445  
 (妹之有世婆) 466  
 (與妹爲而) 452  
 (不絶射妹與) 481  
 いや(彌繼嗣爾) 324  
 (益日頼四寸) 239  
 (益及常世) 260  
 (彌遠長爾) 423 一云 478  
 (彌遠長) 443  
 (彌遠永) 423  
 (彌日異) 475 478  
 イユク(行)  
 いゆき(伊去波伐加利) 317 319  
 (伊去羽計) 321  
 いゆく(伊去吾妹可) 467  
 いゆけ(伊去者) 459  
 いや(伊與) 388  
 (伊豫能高嶺) 322  
 いやよ(彌清成爾來鴨) 316

いりえ(入江) 433  
 いりひなす(入日成) 466  
 イル(入)  
 いら(入日) 254  
 いら(入居) 481  
 (入爾之山乎) 481  
 イル(射)  
 い(射都流矢) 364  
 いろ(色爾將出八方) 301  
 (色出來) 395

うち(大宮之内二手) 238  
 (國中者) 329  
 ウツ(打)  
 うた(梁者不打而) 396  
 うち(打出而) 318  
 (打越見者) 272  
 (打越去者) 365  
 (打塵) 260 433 475  
 (疾打莫行) 263  
 うつ(梁打人) 387  
 うちのへ(内重) 443  
 うちひさす(内日指) 460  
 うちよする(打縁流) 319  
 ウツクシ(愛)  
 うつくしき(愛人) 488  
 うつせみの(鬱蟬乃) 443  
 (虚蟬之) 465  
 (打蟬乃) 466  
 (打背見乃) 482  
 うづら(鶉) 239  
 うづらなす(鶉成) 239  
 ウツル(移)

うつり(移伊去者) 459  
 ウツロフ(移)  
 うつろひ(移爾氣里) 478  
 うへ(雷之上爾) 285  
 (磯上) 448  
 (石隼乃上) 420 421  
 (瀧上之) 242  
 (濱松之上) 444  
 (船上) 259  
 (三湯之上) 322  
 (大殿於) 260  
 (玉藻之於爾) 390  
 うべ(字倍) 310  
 うま(馬並而) 239  
 (馬莫疾打莫行) 263  
 (我乘有馬會) 365  
 ウマル(生)  
 うまるれ(生者) 349 460  
 うみ(海成可聞) 241  
 (伊勢海之) 306  
 (稻見乃海) 303  
 (飲海乃) 371



(彼山之堤有海會) 319  
 (飼飯海) 256  
 (越海之) 366 367  
 (石花海) 319  
 (武庫之海) 256 一本  
 うみち(海路) 366  
 うめ(梅乎) 392  
 (開有梅之) 398  
 (梅樹) 453  
 (梅花) 399 400  
 うら(明石之浦) 326  
 (田兒之浦) 318  
 (手結我浦) 366  
 (手結之浦) 367  
 (軛浦) 446 447  
 (繩乃浦) 354  
 (繩浦) 357  
 (鈴坂乃浦) 246  
 (藤江之浦) 252  
 (見穗乃浦) 296  
 (武庫浦) 358  
 うらみ(納回) 390

(浦廻之) 434  
 うれむぞ(宇禮牟會) 327  
 ウウ(植)  
 うゑ(殖生) 410  
 (殖而師故二) 411  
 (殖之) 453 464  
 うゑき(殖木) 310  
 うゑこなき(殖子水葱) 407  
 エ  
 え(枝)(柄者指爾家牟) 407  
 えだ(枝將有八方) 400  
 (賢木之枝) 379  
 (栢之枝) 387  
 えなつ(得名津) 283  
 オ  
 おうのうみ(飲海) 371  
 おき(奥傍) 270  
 (吉野川奥) 430  
 (奥爾持行而) 327  
 (奥部) 274

おきつしま(奥島) 357  
 おきつしらなみ(奥津白浪) 294 306  
 おきつなみ(奥津浪) 303  
 (奥浪) 247  
 おきへ(奥邊波) 257  
 (奥邊者) 260  
 おく(奥爾念乎) 376  
 オク(置)  
 おか(塞毛置末思乎) 468  
 おき(立置而) 388  
 (置而) 443  
 (坐置而) 443  
 (若子乎置而) 467  
 (哭乎毛置而) 481  
 おく(置幣者) 300  
 (零置雪者) 320  
 おくつき(奥柳) 431 474  
 おくつきどころ(奥津城處) 432  
 おくやま(奥山) 299 379 397  
 おくら(憶良等者) 337  
 オコス(起)  
 おこし(弓上振起) 364

(心振起) 364  
 (踐起) 478  
 オサフ(抑)  
 おさへ(抑駐) 478  
 おしてる(押光) 443  
 おすひ(押日取懸) 379  
 おと(音之清左) 314  
 おび(帶) 481  
 オフ(負)  
 おひ(負來爾之) 286  
 (取負而) 478  
 (鞞帶而) 480  
 (負見) 481  
 おふ(名負鞞) 480  
 オフ(生)  
 おひ(生繼爾家里) 322  
 (水草生家里) 378  
 (繁生有) 324  
 おふる(石轉爾生) 362  
 (荒磯爾生名乘藻) 363  
 (生流紫) 395  
 おほ(於保爾會見谿流) 476

(髣髴爲乍) 481  
 おほあらし(大荒城乃時) 441  
 おほきひじり(大聖之言乃宜左) 339  
 おほきみ(吾於富吉美可聞) 239  
 (皇者) 235 241  
 (王者) 243  
 (王之) 417  
 (王之命) 443  
 (大皇) 441 460  
 (大王) 369  
 (大王之) 297 304  
 (大王之命恐) 368  
 (吾王) 475 476 477 478  
 (吾王之) 329  
 (吾大王) 239 260 420  
 (我大王) 240  
 (我大王之) 295  
 オホス(生)  
 おほし(殖生) 410  
 (種生之) 384  
 オホス(負)  
 おほせ(聖跡負師) 339

おほつ(志賀乃大津) 288  
 おほと(明大門) 254  
 おほと(大殿於) 260  
 おほと(大伴之) 480  
 おほなむち(大汝) 355  
 おほぶね(大船之) 423 一云  
 (大舟爾) 366  
 (大船二) 368  
 おほみま(大御馬) 478  
 おほみや(大宮之内) 238  
 おほみやびと(大宮人) 257 260 323  
 おほやまと(大日本) 475  
 おみ(臣之壯士) 369  
 おみのき(臣木) 322  
 おも(母) 443  
 おもかけ(面影爲而) 396  
 オモフ(思)  
 おもは(辭思爲師) 322  
 (思波牟) 482  
 (物乎不念者) 338  
 (不思想) 476  
 (和我不念久爾) 242



- (我思莫苦二) 244
- (不思爾) 444
- おもひ(思過倍吉) 422
- (念應過) 325
- (念會吾爲流) 372
- (念座可) 443
- (念憑而) 423 一云
- (思出) 473
- (歌思辭思爲師) 322
- (念而) 423
- (思之物乎) 392
- (念鷄目鴨) 460
- (念乍) 423
- おもふ(無人思爾) 434 或云
- (奧爾念乎) 376
- (將時登會念) 384
- (因鹿跡叙念) 481
- おもへ(物念者) 333
- (念者) 434 474
- (古思者) 324
- (榜與雖思) 260
- (雖念) 409

オモヘリ(思有)

- おもへり(念有之君) 457
- (思有之の心) 481
- おもへる(念有笠乃山) 374
- おもほす(思有者) 253
- おもほす(御念八君) 330
- オモホユ(所思)
- おもほゆ(古所念) 266 313
- (所念) 453
- (神代之所念) 304
- (日本師所念) 359
- (京師所念) 329
- おもほゆる(所念可聞) 333
- おもほゆらく(所念國) 371
- おや(親者知友) 362
- (祖名) 443
- (父母) 363
- およづれ(於余頭禮可) 420
- (逆言之) 421 475
- オロス(下)
- おろし(貫下) 366

カ

- カ(助詞) (「カモ」は別にあぐ)
- (誰孀可) 426
- (誰手本乎可) 439
- (何時可) 279
- (何時然跡) 445
- (何所可將寄) 480
- (白水郎跡香將見) 252
- (狂言加) 420
- (歲月日香) 443
- (從明日香) 423 一云
- (不見歟將成) 331
- (於余頭禮可) 420
- (所燒可將有) 269
- (棕橋乃山乎高可) 290
- (念座可) 443
- (今毛可毛等奈) 356 或本
- (伊去吾妹可) 467
- (零來雨可) 265
- (靈寸物香) 388
- (悲喪有香) 459

ガ(格助詞)

- (神佐備居賀) 245
- (語將告可) 448
- (常有奴可) 331
- (神佐備祁留鹿) 259
- (カを加へてよむもの)
- (何處吾將宿) 275
- (如何獨) 462
- (手結我浦) 366
- (野島之埼) 259
- (野島之前) 251
- (天之探女之石船) 292
- (志斐能我強語) 236
- (手兒名之奧柳) 431
- (手兒名之奧津城處) 432
- (和世故我三船) 247
- (吾背子我古家之里) 268
- (妹之手) 415
- (吾妹子之奧柳) 474
- (兒等之家道) 302
- (松之根) 481
- (不忘之爲) 334

(消去之如久) 466

- (君之隨意) 412
- (出雲子等我) 430
- (久米能若子我) 307 435
- (君我黃葉乃移伊去者) 459
- (泊瀬越女我手纏在) 424
- (妹我可悔) 437
- (妹之結) 251
- (妹之家裏) 306
- (家妹之濱裏乞者) 360
- (妹之殖之) 464
- (妹之有世婆) 466
- (妹之見師) 469
- (吾妹子之將結標) 402
- (吾妹子之見師) 446
- (吾妹子之殖之) 453
- (吾妹子之入爾之山) 481
- (吾背乃君之負來爾之) 286
- (君之臥有) 421
- (君之阿流久) 425
- (香君之牛留鳥名津匠來與) 443
- (君之云者) 463

(此之將死還生) 327

- (ガを加へてよむもの)
- (妹家) 398 399
- (妹手) 385
- (薰如) 328
- (無跡如) 351
- ガ(終助詞) (ガモは別に出す)
- (其花爾毛我) 408
- (花爾欲得) 306
- (外爾見而思香) 393
- かがみのやま(鏡山) 417 418
- かがみやま(鏡山) 311
- かく(如此) 455
- (如此谷裳) 379
- (如此谷母) 380
- (如是故爾) 305
- (如是耳) 470
- (如此耳奈良之) 478
- (如此耳跡) 472
- (如此毛欲得跡) 478
- かくにも(此方彼方) 412
- カク(懸)



かけ(此勢能山爾懸者) 285  
 (懸卷欲寸) 285  
 (掛卷母) 475  
 (掛卷毛) 478  
 (押目取懸) 379  
 (可比奈爾懸而) 420  
 (懸而) 366  
 (懸有) 289  
 カク(關)  
 かけ(滿闕爲家流) 442  
 カクス(隱)  
 かくさ(將隱乎) 269  
 かくやま(香山) 259  
 (天之芳來山) 267  
 (神乃香山) 260  
 (香具山乃) 334  
 カクル(隱)  
 かくり(隱益去禮) 460  
 (隱去可婆) 466  
 (隱奴) 308  
 かくる(榜隱) 272  
 カクロフ

かくろひ(隱比) 317  
 かげ(度日之陰毛) 317  
 かくのしま(可古能島) 253  
 カザス  
 かざす(挿頭跡) 423  
 かさぬひのしま(笠縫之島) 272  
 かさのやま(笠乃山) 374  
 かざはやの(加麻幡夜能) 434  
 カシコシ  
 かしこし(恐之) 475  
 (文爾恐之) 478  
 (高見恐見) 321  
 (大王之命恐) 297  
 (大皇之命恐) 441  
 (浪矣恐) 249  
 (浪乎恐美) 388  
 (恐等) 239  
 カス(貸)  
 かさ(衣借益矣) 361  
 かが(春日) 404  
 (春日野) 405  
 460

(春日里) 407  
 (春日山乃) 372  
 かすみ(霞) 473  
 (霞立) 257  
 かげ(風平疾) 294  
 かげまもり(風候) 381  
 かたこひ(片戀耳爾) 372  
 カタシ(難)  
 かたき(卷難寸) 409  
 かたて(一手者) 443  
 443  
 かたみ(引者難三等) 414  
 カタラフ(語)  
 かたらひ(語而) 443  
 カタル(語)  
 かたり(語之告者) 313  
 (語將告可) 448  
 (語告言繼將往) 317  
 (語繼金) 364  
 かたれ(話禮話禮常) 287  
 かつ(梶棹毛) 257  
 (竿梶母) 260  
 (真梶) 366  
 368

かちぬ(勝野原) 275  
 かつ(可都知跡) 472  
 カツ(難)  
 がて(去過勝爾) 253  
 (不勝宿者) 388  
 かづき(潜爲) 258  
 かつしか(勝牡鹿) 431  
 432  
 433  
 かつら(蘊爾) 423  
 がてり(君待香光) 370  
 カナシ(悲)  
 かなしく(悲喪有香) 459  
 かなし(悲霜) 434  
 或云  
 かなしき(悲呂可聞) 478  
 かなわ(草取可奈和) 385  
 かにも(此方彼方) 412  
 カヌ(難)  
 かね(停不得) 471  
 (有金手) 383  
 (待不得而) 268  
 (超不超而) 301  
 (行過不得而) 354  
 (不忍都毛) 472

(忘不得裳) 397  
 (別不勝鶴) 276  
 がね(語繼金) 364  
 かは(河) 324  
 (河四清之) 324  
 (水可良思) 315  
 (吉野川) 430  
 かはかせ(河風) 425  
 かはぎし(河岸) 437  
 かはせ(河湍爾波) 475  
 かはづ(河津者驟) 324  
 (川津鳴瀬) 356  
 かはよど(川余藤不去) 325  
 (川余杼) 375  
 かはら(河原之乳爲) 371  
 (角大河原) 420  
 (天川原) 420  
 カハラフ(更)  
 かはらふ(更經見者) 478  
 カハル(更)  
 かはら(不改將有) 315  
 (鳴鳥之音毛不更) 322

かひ(甲斐乃國) 319  
 かひな(可比奈) 420  
 カフ(替)  
 かい(可倍波) 285  
 一云  
 (解替而) 431  
 (指可倍氏) 481  
 カヘス(返)  
 かへす(吹返) 251  
 カヘル(還)  
 かへり(濱眷奴) 294  
 かへる(應還) 439  
 かへるさ(還左爾) 449  
 かほどり(容鳥) 372  
 かみ(神爾之生者) 241  
 (神二四座者) 235  
 (靈母座神香聞) 319  
 (皇神祖之神乃御言) 322  
 (神之命) 379  
 (神之社) 404  
 (神之御門) 443  
 (神者不有) 406  
 (認有神會) 406



(神祇) 443  
 (鎮十方座祇可聞) 319  
 (神乃香山) 260  
 かみよ(神代) 382  
 (神代之所念) 304  
 カムサア  
 かむさび(神佐備將往) 322  
 (神佐備居賀) 245  
 (神左備手) 317  
 (神佐備爾) 420  
 (神左備邪留鹿) 259  
 かむなびやま(神名備山) 324  
 かも(鴨妻喚) 257 260  
 (鴨曾鳴成) 375  
 (鴨尙爾) 390  
 (鳴鴨乎) 416  
 かも(かくも)(左右將爲) 399  
 かも(助詞)「カ」助詞参照  
 (獨可毛將去) 276 一本  
 (獨可毛將宿) 298  
 (妹鴨有牟) 428  
 (猿二鴨似) 344

(外爾可聞見牟) 426  
 (狂言等可聞) 421  
 (狂言登加聞) 475  
 (今日可聞) 356  
 (何時毛將超) 282  
 (何時鴨) 388  
 (如何爲鴨) 403  
 (不取香聞將有) 386  
 (所念可聞) 333  
 (一有加母) 276  
 (不飼鴨) 307  
 (不飽香聞) 319  
 (波之吉可聞) 479  
 (齋忌志伎可物) 475  
 (悲呂可聞) 478  
 (盧爲流鴨) 235  
 (磯廻爲鴨) 368  
 (戀哭爲鴨) 373  
 (相牟鴨) 427  
 (競敢六鴨) 302  
 (海成可聞) 241  
 (君爾不相可聞) 379

(君爾不相鴨) 380  
 (開家流香聞) 464  
 (淺爾家留香裳) 292  
 (安禮爾家留可毛) 307 一云  
 (名積來有鴨) 383  
 (成爾來鴨) 316  
 (成家留鴨) 452  
 (散去奚留鴨) 277  
 (相爾來鴨) 267  
 (伊座都流香物) 420  
 (思努妣都流可聞) 465  
 (見鶴鴨) 248 297  
 (戀敷牟鴨) 311  
 (淵有毛) 335  
 (極此疑) 322  
 (念鷄目鴨) 460  
 (靈母座神香聞) 319  
 (鎮十方座祇可聞) 319  
 (吾於富吉美可聞) 239  
 (吾玉香聞) 477  
 (往公鴨) 445  
 (寶十方成有山可聞) 319

がも(手力毛欲得) 419 「ガ」終助詞参照  
 (如此毛欲得跡) 478  
 (成而師鴨) 343  
 かやはら(眞野乃草原) 396  
 カヨフ(通)  
 かよは(將通) 324  
 かよひ(將通) 423  
 (通計萬口波) 423  
 (往來乍) 260  
 からし(助詞)(山可良之) 315  
 (水可良思) 316  
 からある(韓藍) 384  
 かりこもの(荳薦乃) 256  
 かりぢ(獵路乃小野) 239  
 カル(刈)  
 かり(玉藻刈藏) 360  
 (玉藻刈兼) 433  
 (軍布刈) 278  
 かる(珠藻刈) 250  
 (玉藻將刈) 293  
 カル(離)  
 かれ(目不離) 300

(從手不離有牟) 403  
 カル(干)  
 かれ(干卷惜裳) 435  
 (雖干) 384  
 かるのいけ(輕池) 390  
 カレリ(借有)  
 かれる(借有身在者) 466  
 キ  
 き(樹爾伐歸都) 391  
 (梅樹) 453  
 (巨木) 322  
 (都賀乃樹) 324  
 (松樹) 309  
 (天木香樹) 446  
 キ(複語尾)  
 せ(伊座勢波) 454  
 (有世婆) 466  
 (種有世伐) 405  
 (無有世伐) 387 404  
 き(戀乍居寸) 370  
 (雲隱去寸) 461

(零寸八) 460  
 し(相之兒等) 234  
 (思之物乎) 392  
 (結之情) 397  
 (吾標結之枝) 400  
 (問之君波母) 455  
 (伊座之君) 459  
 (座之物乎) 460  
 (憑之心) 480  
 (二作之) 452  
 (泊師高津) 292  
 (左宿之妻屋) 481  
 (榮之君乃) 454  
 (殖之梅樹) 458  
 (明米之) 478  
 (妹之殖之屋前之石竹) 464  
 (外爾見之) 482  
 (見之人) 446 448  
 (昔見之) 316  
 (妹之見師屋前) 469  
 (昔見之象小河) 332  
 (一吾見之此埜) 450



- (見師頼浦) 446
- (相見之妹) 447
- (苗有跡云師) 407
- (聖跡負師) 339
- (名積叙吾來並二) 382
- (來之) 449
- (辭思爲師三湯) 322
- (見之活道乃路) 479
- (思有之心) 481
- (念有之君) 457
- (憑有之人) 460
- (憑有之皇子) 478
- (常有之咲比) 478
- (榜去師船) 351
- (故去之里) 334
- (丹杵火爾之家) 481
- (入爾之山乎) 481
- (負來爾之此勢能山) 286
- (立西日) 443
- (成而師鴨) 343
- (結而石事) 481
- (殖而師故二) 411

- (纏而師) 438
- (定義之) 394
- (シを加へてよむもの)
- (分時從) 317
- (靡寝吾黑髮) 481
- (往公鴨) 445
- (過去人) 427 463
- (所云人者) 443
- (如聞) 245
- (故郷) 333
- しか(吾去鹿齒) 284
- (隱去可婆) 466
- (外爾見而思香) 393
- (外爾毛見之加) 474
- (公者在然) 444
- きぎし(淺野之雉) 388
- キク(聞)
- きか(不聞而) 236
- きき(如聞) 245
- (吾聞都流) 420
- (我聞都流母) 420
- きく(聞跡云物會) 369

- きけ(聞杼) 431
- キコス(御聞)
- きこし(所聞而) 460
- キコユ(所聞)
- きこゆ(大宮之内二手所聞) 238
- きさのをがは(象乃小河乎) 316
- (象小河) 332
- きし(木笑松原) 295
- きしみがたけ(吉志美我高嶺) 355
- きすめる(伎須賣流玉) 412
- キタル(來)
- きたる(生來神之命) 379
- きぬ(衣借益矣) 361
- (衣染) 395
- きぬがさ(蓋) 240
- きのふ(昨日) 444 454
- きはまりて(極貴物) 342
- (成極) 481
- きはみ(曾久傲能極) 420
- キホフ(競)
- きほひ(競敢六鴨) 302
- きみ(君社見良目) 281

- (君) 421 422 443 454 456 457 458 463
- (公) 423 443
- (御念八君) 330
- (君乎) 423 一云
- (君平婆) 423
- (君待香光) 370
- (吾背乃君之) 286
- (君爾不相可聞) 379
- (君爾不相鴨) 380
- (問之君波母) 455
- (君之隨意) 412
- (伊座之君) 459
- (將超公君) 361
- (公者在然) 444
- (往公鴨) 445
- キユ(消)
- きゆれ(消者) 320
- きよみのかは(清之河) 437
- きよみのさき(清見之埜) 296
- きり(立霧乃) 325
- (霧有哉) 429
- キル(切)

- きり(船木伐) 391
- (伐歸都) 391
- キル(著)
- き(人爾莫令蓋) 374
- (將蓋) 374
- (未者伎禰杼) 386
- (不服而) 395
- (不服而) 269
- (未著穢) 413
- (取著而) 478
- ク
- ク(來)
- こ(流來者) 336
- (來生者) 343
- (名津匝來與) 443
- (來之) 449
- (名積叙吾來並二) 382
- き(不來座) 418
- (慕來座而) 460
- (渡來座而) 460
- (速來而母) 277

- (負來爾之) 286
- (伎濃) 450 一云
- (來家里) 392
- (來來) 269
- (來二家里) 287
- くる(天傳來) 260
- (出來月) 290
- (零來雨) 265
- くれ(戀來者) 255
- (春去來者) 260
- くぐつ(久具都持) 293
- くさ(草) 385
- くさ(來左) 281
- くさね(草根) 435
- くさまくら(草枕) 366 415 426 451 460
- くず(延葛乃) 423
- (田葛根乃) 423 一云
- クスシ(奇)
- くすしく(奇母) 245
- (靈母座神) 319
- くち(大御馬之口) 478
- くに(已知其智乃國) 319



- (宜國跡) 322
- (國之盡) 322
- (國中者) 329
- (國忘有) 426
- (天雲之向伏國) 443
- (親族兄弟無國) 460
- (敷座國) 460
- (東國) 382
- (甲斐乃國) 319
- (新羅國) 460
- (駿河能國) 319
- (難波國) 443
- (山跡國) 319
- くにのみやこ(久邇乃京) 475
- くにみ(國見爲) 382
- くめのわくご(久米能若子) 307 435
- くも(雲) 428
- (立雲之) 244
- (居雲乃) 242
- (於雲) 444
- くもがくり(雲隱座) 441
- (雲隱去牟) 416

- (雲隱去寸) 461
- くもる(雲居多奈引) 372
- (雲居輕引) 460
- くもるなす(雲居奈須) 248 272
- クヤシ(悔)
- くやしき(悔事) 420
- (悔言者) 420
- クユ(悔)
- くゆ(後雖悔) 410
- (可悔) 437
- くらはし(椋橋乃山) 290
- クル(暮)
- くれ(暮去者) 275
- クルシカリ(苦有)
- くるしかり(辛苦有家里) 451
- くるしかる(可辛苦) 440
- クルシ(苦)
- くろしく(苦毛) 265
- くろかみ(黒髪) 430 481
- くろとり(牛留鳥) 443

ケ

- け(朝爾食爾) 377 403
- (彌日異) 475 478
- (氣並而) 263
- け(消)(消者) 299
- (消去之如久) 466
- けだし(蓋雖有) 402
- (蓋相牟鴨) 427
- ケツ(消)
- けち(雪以滅) 319
- (消通都) 319
- けづり(髮梳乃少櫛) 278
- けひのうみ(飼飯海) 256
- けふ(今日) 416 454
- (今日可聞) 356
- (今日見鶴鴨) 248
- けぶり(火氣) 354
- (災) 366
- ケム(複語尾)
- けむ(家牟) 307 一云
- (知家武) 291
- (將通) 423
- (柄者指爾家牟) 407

- (將座) 355
- (船乘將爲) 322
- (往監) 443
- (將結標) 402
- (將歸人乃) 423
- (有家武人) 431
- (妻問爲家武) 431
- (玉藻刈兼手兒名) 433
- (伊觸家武儀之草根) 435
- (待監人) 443
- けまく(通計萬口波) 423
- けめ(所言奚米) 312
- (念鷄目鴨) 460
- けらし(干二家良進) 271
- (隱爾計良思) 418
- ケリ(複語尾)
- (布里家利) 320
- (時者成來) 439
- (辛苦有家里) 451
- (不如來) 350
- (戀爾家里) 236
- (戀爾家利) 310

- (生繼爾家里) 322
- (都備仁鷄里) 312
- (移爾家里) 478
- (荒爾鷄里) 479
- (水草生家里) 378
- (深去來) 274
- (來家里) 392
- (成來) 330
- (色出來) 395
- (來來) 269
- ける(滿闕爲家流) 442
- (於保爾曾見谿流) 476
- (零家留) 318
- (常無里家留) 308
- (憑有來) 470
- (雪者落家留) 317
- (山守之有家留不知爾) 401
- (榜來舟) 260
- (伊座家留三穗乃石室) 307
- (住氣類人) 303
- (神左備禰留鹿) 259
- (名積來有鴨) 383

- (散去奚留鴨) 277
- (淺爾家留香裳) 292
- (相爾來鴨) 267
- (安禮爾家留可毛) 307 一云
- (成爾來鴨) 316
- (成家留鴨) 452
- (開家流香聞) 404
- (有家類物乎) 455
- (有家留物乎) 470
- けれ(安里氣禮騰) 308
- こ(子將哭) 337
- (不相兒故荷) 372
- (腋挾兒乃) 481
- (哭兒成) 460
- (相之兒等羽裳) 284
- (兒等之家道) 302
- (出雲兒等) 429
- (出雲子等我) 430
- コイマロブ(展轉)
- こいまろび(展轉) 475



コグ(榜)  
 こが(人不榜有雲) 254  
 (榜與) 260  
 こぎ(榜出傘) 358  
 (我榜行者) 366  
 (榜手回行者) 273  
 (榜回舟者) 357  
 (榜轉小舟) 358  
 (許藝廻者) 389  
 (榜隱) 272  
 (榜將泊) 274  
 (榜將別) 264  
 (榜來舟) 260  
 (榜去師船) 351  
 こぐ(己具人) 257  
 (與榜所見) 270  
 こけ(辭) 259  
 ここ(此間) 287 431  
 (此間毛有益) 337  
 コゴシ(險)  
 こごし(極此疑) 322  
 こごしき(擬敷山) 301

こごしみ(許其思美) 414  
 こころ(心) 437 480  
 (心者不遂) 481  
 (心射左欲比) 372  
 (心振起) 478  
 (心戀敷) 253  
 (情) 453 466  
 (情毛思努爾) 266  
 (結之情) 397  
 (情乎遣爾) 346  
 (情進莫) 381  
 (痛情者) 472  
 (情哀) 467  
 (情悲哀) 450  
 こころど(心神毛奈思) 457  
 (情神毛奈思) 471  
 こし(腰) 478  
 こしのうみ(越海) 366 367  
 こせぢ(磯越道有) 314  
 こそ(助詞) (鶉己曾) 239  
 (君社見良目) 281  
 (曾己所痛) 466

(昨日社) 444  
 (昔者社) 312  
 (昔許會) 474  
 (十六社者) 239  
 (話禮話禮常詔許會) 237  
 こだかく(木高築成家留鴨) 452  
 こだち(木立) 262 478  
 こだる(木足左右) 310  
 こちごち(己知其智乃) 319  
 こと(辭思爲師) 322  
 (悔言者) 420  
 (言耳母) 431  
 (辭不問物) 481  
 (言乃宜左) 339  
 (事者將定) 398  
 (絕事無) 324  
 (悔事) 420  
 (死去事爾) 460  
 (事者不果) 481  
 (世之事) 482  
 (事太爾不告) 445  
 ごと(如聞) 245

(跡無如) 351  
 ごとごと(國之盡) 322  
 (日之盡) 372  
 (夜之盡) 372  
 (人乃盡) 460  
 ゴトシ(如)  
 ごとく(如千歲) 470  
 (薰如) 328  
 (天見如久) 239  
 (消去之如久) 466  
 ごとし(相見如之) 309  
 ごとき(散去如寸) 477  
 ごとに(多藝通瀬每爾) 314  
 (泣母) 481  
 (每見) 324 453 473  
 (將見每) 447  
 こども(兒等) 280  
 (率兒等) 388  
 (子等) 443  
 こぬれ(木末) 267  
 この(此暮) 386  
 (此埼) 450

(此勢能山) 285 286  
 (此旅人) 415  
 (此照月) 443  
 (此日) 275  
 (此夜) 388  
 (此世) 443  
 (今代爾之) 343  
 (今生在間者) 349  
 このくれ(木晚茂爾) 257  
 (木晚茂) 260  
 このごろ(比者) 236  
 (比來) 359  
 (比日) 436  
 このは(木葉) 291  
 こひ(孤悲爾不有國) 325  
 (戀哭爲鴨) 373  
 コフ(乞)  
 こは(濱裏乞者) 360  
 こひ(吾波乞骨) 350  
 (吾者祈奈牟) 379  
 (乞禱) 443  
 コフ(戀)

こひ(不戀有益雄) 436  
 (不戀日) 408  
 (不戀有米) 333  
 (君爾戀) 456  
 (戀來者) 255  
 (戀爾家里) 236  
 (戀爾家利) 310  
 (戀乍居寸) 370  
 こふ(家戀良霜) 365  
 こふれ(雖戀) 481  
 こふらく(妹爾戀久) 326  
 コホシ(戀)  
 こほしく(日本戀久) 389  
 こほしき(心戀敷可古能島) 253  
 (物戀敷爾) 270  
 こほしけむ(戀敷牟鴨) 311  
 こほしみ(戀石見) 332  
 こまつ(濱乃小松) 394  
 こむら(樹村) 322  
 こもりえ(隠江) 249  
 こもりくの(隠久乃) 420  
 (隱口乃) 424



(隱口能) 428  
 コモル(隠)  
 こもり(隠爾計良思) 418  
 コヤセリ(臥有)  
 こやせる(客爾臥有) 415  
 (君之臥有) 421  
 コユ(超)  
 こえ(將超) 282  
 (將超公) 361  
 (吾超去者) 291  
 (打越去者) 365  
 (暮越行而) 298  
 (打越見者) 272  
 (超不勝而) 301  
 (超而) 287  
 コル(懲)  
 こり(不懲而) 384  
 これ(許禮能水島) 245  
 (此之將死還生) 327  
 ころも(服) 478  
 (衣不干) 448  
 ころもで(衣袖) 460

こゑ (鳴鳥之音) 322  
 廿  
 さえだ(柘之左枝) 386  
 さかき(賢木) 379  
 さかしき(七賢人) 340  
 さがしみ(險跡) 385  
 さかしら(賢良乎) 344  
 (賢良爲者) 356  
 さかつば(酒壺) 343  
 サカユ  
 さかえ(茂座) 260  
 (榮之君乃) 454  
 さかゆる(榮時) 475  
 さがらかやま(相樂山) 481  
 さかり(吾盛) 331  
 (盛爾成來) 330  
 (今盛有) 328  
 サカル(避)  
 さかり(與部莫避) 274  
 (離家伊麻須) 471

さき(此崎) 460  
 (磯前) 273  
 (清見之崎) 296  
 (野島之崎) 250  
 (野島之前) 251  
 (三津崎) 249  
 (敏馬乃崎) 389  
 (敏馬能崎) 449  
 サク(避)  
 さか(見毛左可受) 450一云  
 サク(咲)  
 さき(花咲乎爲里) 475  
 (咲而) 455  
 (開而) 400  
 (花會咲有) 466  
 (開有梅) 398  
 (開有花) 399  
 (開家流香聞) 464  
 さく(花咲) 469  
 (咲花) 328 477 478  
 サク(放)  
 さくる(開放流親族兄弟) 460

さくらだ(櫻田部) 271  
 さくらばな(櫻花) 257 260  
 さけ(酒) 339 340 341 342 343 344 346 350  
 (濁酒) 338 345  
 ささなみ(樂浪乃) 305  
 ささらのをぬ(左佐羅能小野) 420  
 さざれなみ(小浪) 314  
 サス(指)  
 さし(山邊乎指而) 460  
 (山道乎指而) 466  
 サス(刺)  
 さし(五百枝刺) 324  
 (柄者指爾家牟) 407  
 (指可倍氏) 481  
 (網爾刺) 240  
 サダム(定)  
 さだめ(將定) 398  
 (定義之) 394  
 さだむる(宮登定流) 417  
 さつき(五月者) 423  
 さつま(薩摩) 248  
 さつを(山能佐都雄) 267

さと(里) 460  
 (古家乃里) 263  
 (故去之里) 334  
 (古郷之) 333  
 (春日里) 407  
 サニヅラフ  
 さにづらふ(狹丹頰相) 420  
 さぬ(狹野乃渡) 265  
 さぬ(佐農能崗) 361  
 サヌ(眞寢)  
 さね(左宿之妻屋) 481  
 さは(佐波二) 273  
 (左波爾鳴) 389  
 (左波爾雖在) 322 460  
 (左波爾雖有) 382  
 サバシル(走)  
 さばしり(狹走) 475  
 さばへなす(五月蠅成) 478  
 サブシ(淋)  
 さぶし(佐夫之毛) 560  
 (不樂毛) 257  
 (不恰) 484

さへ(助詞) (山佐倍光) 477  
 さほ(佐保過而) 300  
 (佐保乃山邊) 460  
 さほがは(佐保河) 460  
 (吾佐保河) 371  
 さほやま(佐保山) 473  
 (佐寶山) 474  
 サムシ(寒)  
 さむく(寒吹良武) 352  
 (寒將吹鳥) 462  
 さむき(寒朝開) 361  
 (寒長谷乎) 425  
 さむみ(秋風寒) 465  
 サモラフ(候)  
 さもらひ(立候) 448  
 さもらふ(侍從爾) 388  
 サカヤケリ(清有)  
 さやけかる(清有良武) 356  
 さやけさ(音之清左) 314  
 サヤケシ(清)  
 さやけく(彌清成爾來鴨) 316  
 (清有師) 316



さやけし(河四清之) 324  
 さよ(左夜深去來) 285  
 さら(今亦更) 483  
 ザリ(複語尾)  
 ざら(從手不離有牟) 403  
 (不戀有米) 393  
 (不戀有益雄) 436  
 さる(猿一鴨似) 343  
 サル(去)  
 さら(秋去者) 414  
 (川余藤木去) 325  
 (朝不離) 372 423  
 (夕不離) 356  
 さり(春去來者) 260  
 (春去奴禮婆) 475  
 され(明去者) 388  
 (夕去者) 354  
 サワグ(騒)  
 さわぎ(味村左和伎) 257  
 (阿遲村動) 260  
 さわぐ(河津者驟) 324  
 (立動良之) 388

さを  
 (驟騷舍人) 478  
 (梶棹毛) 257  
 (竿梶) 260

シ

し(助詞)(吾命之眞幸有者) 288  
 (河四清之) 324  
 (山四見容之) 324  
 (世間之常如此耳跡) 472  
 (神之社四無有世伐) 404  
 (社師留焉) 405  
 (涕之流) 453  
 (君師不座者) 457  
 (故郷之所念可聞) 333  
 (日本師所念) 359  
 (神代之所念) 304  
 (手兒名志所念) 433  
 (神爾之坐者) 241  
 (神二四座者) 235  
 (壽爾之在者) 461  
 (吝之有者) 366  
 (物爾之有者) 460

(實之成名者) 399  
 (今代爾之樂有者) 343  
 (酒西有良師) 340  
 (酒西有良之) 342  
 (醉哭爲師益有良之) 341  
 (開去歲立動良之) 388  
 (間遠之有者) 413  
 (語之告者) 313  
 (何時然跡) 445  
 (山可良志) 315  
 (水可良思) 315  
 (愛八師榮之君) 454  
 (愛八師妹) 466  
 (シを加へてよむもの)  
 (哭耳所泣) 324 456  
 (啼耳鳴六) 483  
 (女有者) 419  
 (何時鴨) 388  
 (如此毛欲得跡) 478  
 じ(複語尾)(不持) 437  
 (不喚) 286  
 (君爾不相可聞) 379

(君爾不相鴨) 380  
 (不止) 411  
 (不絶等) 423  
 (不絶射妹與) 481  
 (不見跡去物乎) 305  
 (久者不有) 335  
 しか(然之海人) 278  
 しが(志賀爾安良七國) 263  
 (志賀乃大津) 288  
 しきたへの(敷細之) 438  
 (布細乃) 460  
 (敷細乃) 461  
 シク(如)  
 しか(豈若目八方) 346  
 (不如來) 359  
 シク(敷)  
 しき(敷座國之盡) 322  
 (斷座國) 460  
 (敷座有) 329  
 シク(及)  
 しき(千重浪敷爾) 409  
 しぐれ(四具禮能時) 423

しげ(木晚茂爾) 257  
 シゲシ(繁)  
 しげく(繁成家留鴨) 452  
 しげき(人言之繁比日) 436  
 しげみ(木晚茂) 260  
 シゲル(茂)  
 しげり(茂有武) 431  
 しし(鹿猪) 448  
 (十六社者) 239  
 (待鹿爾) 405  
 しじ(木立之繁爾) 478  
 (繁爾貫垂) 379  
 (無間貫垂) 420  
 (繁生有) 324  
 しじもの(四時自物) 239  
 (十六自物) 379  
 しじぬき(眞梶繁貫) 368  
 シジケシ(靜)  
 しづけし(之頭氣師) 388  
 しづのいはや(志都乃石室) 355  
 しづはた(倭文幡) 431  
 しづめ(鎮十方) 319

シタフ

シタフ(慕)  
 したひ(慕來座而) 460  
 シナフ(撓)  
 しなふ(眞木葉乃之奈布勢能山) 291  
 しぬ(情毛思努爾) 266  
 シヌ(死)  
 しぬ(死云事爾) 460  
 しぬる(死物爾有者) 349  
 シヌグ(凌)  
 しぬぎ(菅葉凌零雪) 299  
 シヌブ(偲)  
 しぬば(之奴波受而) 291  
 しぬび(出立偲) 481  
 (之奴櫃) 366  
 (思櫃) 367  
 (不忍都毛) 472  
 (思努妣都流可聞) 465  
 しぬべ(見乍思跡) 464  
 しはつやま(四極山) 272  
 しばなく(數鳴) 372  
 しひ(志斐能我強語) 236  
 (志斐伊波奏) 287



しひがたり(強語) 236

(強話登言) 237

シフ(強)

しふる(強流志斐能我強語) 236

しほ(潮)(鹽乎令滿) 388

(鹽干去者) 360

(鹽干二家良進) 271

(鹽乎令干) 388

しほ(鹽)(鹽燒) 278

(鹽燒火氣) 354

(鹽燒炎) 366

しほさる(鹽左爲能) 388

しほつやま(鹽津山) 365

しほひ(鹽干乃) 293

しほやきぎぬ(鹽燒衣) 418

しま(島待不得而) 268

(山齋) 462

しまづたひ(島傳) 389

しまと(島門乎) 304

しまね(山跡島根) 303

(日本島根) 366

しまやま(島山之宜國) 322

(白雲乃) 287

(白雲者) 353

(嶺乃白雲) 388

シラス(所知)

しらす(天所知牟登) 476

しらし(天所知奴禮) 475

しらすげの(白菅乃) 280 281

しらなみ(白浪) 288 313 388

(奥津白浪) 294 306

しらつつじ(白管仕) 434

しらぬひ(白縫) 336

しらまゆみ(白眞弓) 289

シル(知)

しら(知末世婆) 463

(雖不知) 313

(名付毛不知) 466

(名不知) 319

(不知) 342 481

(不知爾) 401 460

(去邊白不母) 264

しらなく(年之不知) 323

(不知苦) 419

しり(知家武) 291

しる(親者知友) 362

(父母者知友) 363

(知物乎) 465

しれ(知跡) 472

(驗) 410

しるし(驗無物乎) 338

(効効) 481

シルシ(著)

しるし(有雲知之) 258

しろたへ(白栲) 443 478

(白細) 460 475 481

(白妙) 481

ス

ス(爲)

せ(手向爲者) 427

(將爲登) 423

(家裏爲) 306

(將爲便) 342 481

(將爲須便) 475

(將爲須敵) 460

(將爲須辨) 466

(左右將爲) 399

し(滿闕爲家流) 442

(妻問爲家武) 431

(船乘將爲客爲) 323

(客爲而) 270 367

(好爲而) 381

(獨爲而) 366

(船出爲而) 246

(面影爲而) 396

(與妹爲而) 452

(此間爲而) 287

(山影爾之氏) 375

(時爾不在之天) 443

(朝夕四天) 456

(君無二四天) 458

(如何爲鴨) 403

(辱爲都) 401

(シを加へてよむもの)

(未服而) 395

(直獨而) 460

(獨而見者) 449

(網引爲跡) 338

(賢良乎爲跡) 344

する(雪消爲山道) 382

(國見爲筑羽乃山) 382

(念曾吾爲流) 372

(磯廻爲鴨) 368

(戀哭爲鴨) 373

(賢良爲者) 350

(醉哭爲師) 341

(醉哭爲爾) 347

(醉泣爲爾) 350

(スルを加へてよむもの)

(欲見其玉) 430

ズ(複語尾)

ず(物乎不念者) 338

(人跡不有者) 343

(人不見者) 269

(不成者) 411

(不改將有) 315

(不見久有者) 311



(不相久美) 310  
 (不見歟將成) 331  
 (不行) 466  
 (不飽伊座之君) 459  
 (朝不離) 372 423  
 (川余藤不去立霧) 325  
 (不止將通) 324  
 (言毛不得) 466  
 (不果) 481  
 (衣不干) 443  
 (見毛左可受) 450 一云  
 (言不得) 319  
 (不見) 254  
 (心者不遂) 481  
 (不干) 460  
 (目不離) 300  
 (飛毛不上) 319  
 (不折來家里) 392  
 (不衝毛) 420  
 (不取香聞將有) 386  
 (事太爾不告往公) 445  
 (木立不見落亂) 262

(人不撈有雲知之) 258  
 (夕不離) 356  
 (雨不零) 370  
 (鳴鳥音毛不更) 322  
 (光毛不見) 317  
 (不過) 282  
 (時爾不在之天) 443  
 (不開而) 236  
 (不懲而) 384  
 (不打而) 386  
 (不見而) 382  
 (之奴波受而) 291  
 (不服而) 269  
 (未服而) 395  
 (湍者不成而) 335  
 (不如來) 350  
 (神者不有) 406  
 (不來座) 418  
 (白不母) 264  
 (未著穢) 413  
 (不所見十方) 393  
 (不言八方) 424

三〇  
 (不知) 342 481  
 (不知爾) 401 460  
 (名不知) 319  
 (名付毛不知) 466  
 (不戀日) 408  
 (不飽香聞) 319  
 (留不得壽) 461  
 (不飽鴨) 307  
 (不忘之爲) 334  
 (不飽田兒浦) 297  
 (不相兒故荷) 372  
 (不泣日者無) 473  
 (不免物) 460  
 (不思爾) 444  
 (常有奴可) 331  
 (酒不飲人) 344  
 (辭不問物) 481  
 (不勝宿者) 388  
 (不思者) 476  
 (雖不知) 313  
 (未者伎禰村) 336  
 (不座者) 457

(時爾波不有跡) 441  
 (雨莫零行年) 299  
 (なくに(不所忘) 481  
 (未干爾) 469  
 (不見久爾) 278  
 (和我不念久爾) 242  
 (宿名久二) 390  
 (不知苦) 419  
 (我思莫苦二) 244  
 (孤悲二不有國) 325  
 (安良七國) 263  
 (不有國) 265  
 (君爾有名國) 422  
 (所念國) 371  
 (不所忘) 481  
 (菅葉) 299  
 (菅根) 414  
 (すぎむら(杉村) 422  
 (スグ(過)  
 (すぎ(不過) 282  
 (行過不得而) 354  
 (敏馬乎過) 250

(去過勝爾) 253  
 (過去人) 427 463  
 (佐保過而) 300  
 (往過奴禮婆) 481  
 (すぐ(思過倍吉) 422  
 (念應過) 325  
 (すぐれ(獨過者) 450  
 (すくなびこ(小彦名) 355  
 (すぎ(鈴寸) 252  
 (スズシ  
 (すずしき(遊道爾冷者) 347  
 (ススム  
 (すすむ(情進莫) 381  
 (すべ(爲便) 342 419 456 460 481  
 (須便) 475  
 (須徹) 460  
 (須辨) 466  
 (將爲便) 342 481  
 (すま(須麻乃海人) 413  
 (スマフ(住)  
 (すまひ(住乍) 460  
 (すみだかはら(角太河原) 298

三二  
 (すみ(え(墨吉) 283  
 (清江) 295  
 (住吉) 394  
 (スム(住)  
 (すみ(住家類) 308  
 (すむ(船上住) 258  
 (宇乃住石) 359  
 (すめろぎ(皇神祖) 322  
 (皇祖) 443  
 (すら(助(山道尙矣) 382  
 (鴨尙爾) 390  
 (するが(駿河奈流) 284  
 (駿河有) 317 319  
 (駿河能國) 319  
 (スウ(据)  
 (すゑ(忌穿居) 379  
 (齋戸乎居) 420  
 (坐置而) 443  
 (七  
 (せ(吾勢毛) 276 一本  
 (せ(湍者) 335



(川津鳴瀬之) 356  
せき(塞) 468  
せと(薩摩乃迫門) 248  
せのうみ(石花海) 319  
せのやま(勢能山) 285 286 291  
セリ(爲有)  
せり(蓋爾爲有) 240  
せる(盧爲流鴨) 235

サ

そ(其乎) 466  
そ(助詞)(雨莫零行年) 299  
そ(助詞)(神會) 406  
ぞ(助詞)(住氣類人會常無里家留) 308  
ぞ(助詞)(人會言鶴) 420  
ぞ(助詞)(見之人會) 446  
ぞ(助詞)(馬會爪突) 365  
ぞ(助詞)(鴨會鳴成) 375  
ぞ(助詞)(花會咲有) 466  
ぞ(助詞)(標耳會結焉) 458  
ぞ(助詞)(念會吾爲流) 372

(哭耳會吾泣) 458  
(眞白衣) 318  
(保爾會出流) 326  
(於保爾會見谿流) 476  
(因鹿跡叙念) 481  
(將有登會) 442  
(將時登會念) 384  
(相見染跡衣) 300  
(時自久會) 317  
(名積叙吾來並二) 382  
(彼山之堤有海會) 319  
(水之當鳥) 319  
(聞跡云物會) 369  
(將待會) 337  
そがひ(背向爾所見) 357  
そがひ(背向爾見乍) 460  
そく(背爾見乍) 358  
そく(會久做能極) 420  
そく(會許念爾) 466  
そで(我袖用手) 269  
(袖振妹乎) 376  
(袖指可倍氏) 481

その(彼母毛) 337  
(其鳥乃) 372  
(其花) 408  
(其玉乎) 403  
(其玉之) 409  
(其路) 381  
(彼山之) 319  
(其山) 319 401  
(其夜) 320 392  
そほふね(赤乃會保船) 270  
ソム(染)  
そめ(衣染) 395  
そも(其彼母毛) 337

タ

たか(高槻村) 277  
たが(誰手本) 439  
たかカリ(高有)  
たかからし(奥津白浪高良之) 294  
たかきのやま(高城乃山) 353  
たかくらの(高座之) 372

(高桜之) 373  
タカシ(高)  
たかく(高貴寸) 317  
たかしま(高島乃) 275  
たかだま(竹玉乎) 379 420  
たかつ(高津者) 292  
たかね(不盡能高嶺) 317 318 319  
(布士能高嶺) 317  
(不盡能高峯) 319  
(伊豫能高嶺) 322  
たかひかる(高光) 239  
たかひかる(高輝日之里子) 260  
たかべ(高部共) 258  
たかみ(棕橋乃山乎高可) 290  
(高見恐見) 321  
(山高三) 324  
たかやま(高山) 421  
(高山乃) 420  
(高山者) 382  
たから(價無寶) 345  
たぎ(瀧上之) 242

(瀧上乃) 338  
たぎち(水之當鳥) 319  
たぎつせ(多藝通瀨每爾) 314  
たぐつぬの(栲角乃) 400  
たくひれの(栲領中乃) 235  
たくまぬ(託馬野) 395  
たごのうら(田兒浦) 297  
(田兒之浦) 318  
ただ(直獨而) 460  
タタス(立)  
たたし(立之而) 322  
(御興立之而) 475  
タタセリ(立有)  
たたせる(三獵立流弱薦乎獵路乃  
小野爾) 239  
たち(七賢人等毛) 340  
たちから(手力) 419  
たちばな(橘) 411  
たづ(鶴) 273  
(鶴) 389  
(鶴鳴渡) 271 271

(多頭羽亂) 32  
タツ(立)  
たた(瀾立目八方) 247  
たち(池浪立而) 257  
(池浪颺) 260  
たつ(邊浪雖立) 247  
(浪立莫) 246  
タツ(立)(四)  
たつ(霞立) 257  
(御船乃山爾立雲) 244  
(立霧乃) 325  
タツ(立)(四)  
たち(立動良之) 388  
タツ(立)(四)  
たつ(眞木之立荒山中) 241  
タツ(立)(四)  
たち(立候) 443  
(立而) 283 372 410  
(立居而) 443  
(出立而) 420  
(立西日) 443  
(出立偲) 481



タツ(立)(下二)  
 たて(御諸乎立而) 420  
 (廬屋立) 431  
 タツ(立)(下二)  
 たて(石戸立) 418  
 タツ(立)(下二)  
 たて(履立) 478  
 タツ(立)(下二)  
 たて(標結立而) 401  
 (立置而) 388  
 たづがね(鶴之哭鳴而) 352  
 タテリ(立有)  
 たてる(立在松樹) 309  
 (出立有) 319  
 タトフ(譬)  
 たとへ(將譬) 351  
 たななしをぶね(棚無小舟) 272  
 タナビク(霏微)  
 たなびき(雲居多奈引) 372  
 (棚引所見) 353  
 (輕引) 460  
 たなびく(棚引) 444

(山爾棚引) 354  
 (霏微) 429  
 (白雲乃棚引山) 287  
 (多奈引霞) 473  
 (田菜引物緒) 321  
 だに(助詞)(事太爾不告) 445  
 (如此谷裳) 379  
 (如此谷母) 330  
 タヌシ(樂)  
 たぬしく(樂有者) 348  
 (樂乎有名) 349  
 タノム(憑)  
 たのみ(憑之心) 430  
 (念憑而) 423 一云  
 (憑有來) 470  
 タノメリ(憑有)  
 たのめり(憑有之人) 460  
 (憑有之皇子) 478  
 たはごと(狂言) 420 475  
 たび(旅) 252 440 451  
 (客) 460  
 (客爲而) 270 367

(客之有者) 366  
 (客爾臥者) 415  
 (驛宿爾) 426  
 たびと(此旅人) 415  
 タヒラケシ(平)  
 たひらけく(平間幸座與) 443  
 タフトシ(貴)  
 たふとく(眞貴久) 245  
 (貴有師) 315  
 たふとき(極貴物) 342  
 (貴山) 382  
 (高貴寸駿河有布士能高嶺) 317  
 たま(玉) 436  
 (其玉乎) 403  
 (其玉之) 409  
 (伎須賣流玉) 412  
 (玉爾貫) 423  
 (玉者) 424  
 (玉緒) 481  
 (夜光玉) 346  
 たまかづら(玉葛) 324 443  
 たまくしげ(珠匣) 376

たまくら(吾手枕) 438  
 たまだすき(珠手次) 366  
 たまづさの(玉梓乃) 420 445  
 タマフ(賜)  
 または(食賜麻思) 475  
 たまひ(率比賜比) 478  
 たまへ(見賜) 376  
 たまも(玉藻) 293 360 333  
 (珠藻) 250  
 タム(回)  
 たみ(榜手回行者) 273  
 たむ(榜回舟者) 357  
 (榜轉小舟) 353  
 ため(許藝廻者) 389  
 たむけ(寧樂乃手祭) 300  
 (手向爲者) 427  
 ため (行見爲) 332  
 (不忘之爲) 334  
 たもと(誰手本) 439  
 (白妙之手本) 481  
 タモトホル(徘徊)  
 たもとほり(多毛登保里) 458

(徘徊) 460  
 タユ(絶)  
 たえ(不絶) 423  
 (不絶射妹與) 481  
 たゆる(絶日) 243  
 (絶事無) 324  
 たゆひ(手結我浦) 366  
 (手結之浦) 367  
 タヨワシ(手弱)  
 たよわき(手弱寸) 419  
 たらちねの(帶乳根乃) 443  
 タリ(複語尾)  
 たり(憑有來) 470  
 (縣有) 289  
 たる(繁生有都賀乃樹) 324  
 (荒有家) 440  
 (開有花) 399  
 (開有梅) 398  
 (乎二卷四而有) 366  
 (益良有之) 341  
 (茂有武) 481  
 (國忘有) 426

(花會咲有) 466  
 タル(垂)  
 たり(繁爾貫垂) 379  
 (貫垂) 420  
 たれ(孰不戀良米) 393  
 タワスル(手忘)  
 たわすれ(手忘而) 392  
 たわやめ(手弱女) 379  
 タナル(手折)  
 たをり(手折而) 280  
 (手折而毛) 466  
 手  
 チカシ(近)  
 ちかく(甚近) 411  
 チカヅク(近)  
 ちかづき(近著奴) 250  
 ちち (父) 443  
 ちとせ(千歲爾麻佐武) 243  
 (如千歲) 470  
 ちどり(乳鳥) 268 371  
 ちはやぶる(千磐破) 404



ちへ(千重爾) 303  
ちへなみ(千重浪敷爾) 409  
テル(散)

ちり(散去奚留鴨) 277  
(落去) 400  
(散去如寸) 477

ツ

ツ(複語尾)

て(潔身而麻之乎) 420  
(見手益物乎) 277  
(仰而) 239  
(置而) 443  
(坐置而) 443  
(立置而) 388  
(哭乎毛置而) 481  
(持行而) 327  
(繼而行益乎) 405  
(暮越行而) 298  
(開而落去) 400  
(咲而有哉) 455  
(鳴而) 352

(纏而師) 438  
(山邊乎指而) 460  
(山道乎指而) 466  
(慕來座而) 460  
(渡來座而) 460  
(益而戀石見) 382  
(取負而) 478  
(帶而) 480  
(立而) 257 283 372 410 420  
(出立而) 420  
(取持而) 408 420  
(手取持而) 380  
(我袖用手) 269  
(石卜以而) 420  
(卷以而) 436  
(念而) 423  
(結而石事) 481  
(印結而) 394  
(裝束而) 475  
(念以而) 423 一云  
(裏而) 306  
(酒飲而) 341 346

(飲酒而) 350  
(手折而) 280  
(手折而毛) 466  
(仕奉而) 239  
(戒而師鴨) 343  
(語而) 443  
(行憚而) 353  
(張而懸有) 289  
(益旅而) 440  
(益而) 541  
(亂而) 424  
(佐保過而) 300  
(神左備手) 317  
(名付而有毛) 319  
(木綿取付而) 379  
(懸而之奴櫃) 366  
(懸而) 420  
(退出而) 257  
(出而) 366 401  
(打出而) 318  
(家從裳出而) 481  
(標結立而) 401

(有金手) 383  
(待不得而) 268  
(行過不得而) 354  
(超不勝而) 301  
(解替而) 431  
(安倍而) 388  
(指可倍而) 481  
(氣並而) 268  
(定義之) 394  
(根深目手) 397  
(超而) 287  
(手忘而) 392  
(所聞而) 460  
(殖而師故二) 411  
(身著而) 386  
(取著而) 478  
(見氏毛) 263  
(外爾見而思香) 393  
(磯隱居而) 388  
(居而) 272 410 443  
(速來而母) 277  
(客爲而) 270 397

(直獨而) 460  
(獨而見者) 449  
(獨爲而) 366  
(與妹爲而) 462  
(好爲而) 381  
(船出爲而) 246  
(此間爲而) 287  
(面影爲而) 396  
(朝夕四天) 456  
(山影爾之氏) 375  
(君無二四天) 458  
(時爾不在之天) 443  
(默然居置) 350  
(立之而) 322 475  
(之奴波受而) 291  
(不聞而) 236  
(不打而) 386  
(不懲而) 384  
(湍者不成而) 335  
(不服而) 269  
(未服而) 395  
(不見而) 382

(無而) 257 260  
(テを加へてよむもの)  
(行見爲) 352  
(行見) 293  
(疾打莫行) 263  
(成極) 481  
(益有良之) 341  
(折挿頭跡) 423  
(出行道) 468  
(今日耳見哉) 416  
(如何爲鴨) 403  
(立居而) 443  
つ  
(伐歸都) 391  
(思櫃) 367  
(之奴櫃) 366  
(不思都毛) 472  
(忘不得裳) 397  
(令見都) 297  
(辱爲都) 401  
(見都) 432  
つる(人曾言鶴)  
(我聞都流母) 420



(見鶴鴨) 248  
 (吾聞都流) 420  
 (射都流矢) 264  
 (在鶴公) 443  
 (思努妣都流可聞) 465  
 (伊座都流香聞) 420  
 (別不勝鶴) 276  
 (見鶴鴨) 297  
 つれ(山隠都禮) 471  
 て(告志五余) 362  
 つが(都賀乃樹) 324  
 ツカへ(仕)  
 つかへ(將仕物常) 457  
 (仕奉) 443  
 (仕奉都) 239  
 つき(天歸月) 240  
 (出來月) 290  
 (夜渡月) 302  
 (照月) 317 442  
 (射狹夜歷月) 393  
 (歲月日香) 443  
 つきむら(高槻村) 277

ツク(衝)  
 つか(不衝毛) 420  
 つき(杖策毛) 420  
 ツク(著付) 420  
 つけ(身著而) 336  
 (木綿取付而) 379  
 つく(吾紐二付) 334  
 (白香付) 379  
 ツグ(繼)  
 つが(止者繼流) 373  
 つぎ(繼往物與) 443  
 (生繼爾家里) 322  
 (繼而行益乎) 405  
 (語告言繼將往) 317  
 つぐ(語繼金) 364  
 つげ(語之告者) 313  
 ツグ(告)  
 つげ(語將告可) 443  
 (將告) 432  
 (事太爾不告) 445  
 つくし(筑紫) 336  
 つくば(筑羽乃山) 382

つくばね(筑羽根) 383  
 ツクル(作)  
 つくり(二作之) 452  
 (宅乎毛造) 460  
 つち(天地) 420 443  
 (天地與) 315 478  
 (天地之) 317  
 (天地爾) 420  
 つつ(哭管) 481  
 (阿倍寸管) 366  
 (歎乍) 425  
 (歎乍) 460  
 (念乍) 423  
 (戀乍居寸) 370  
 (往來乍) 260  
 (住乍) 460  
 (髣髴爲乍) 481  
 (消通都) 319  
 (所燒乍可將有) 269  
 (情咽都追) 453  
 (見乍) 296 460  
 (四十耳見乍) 383

(見乍思跡) 464  
 (背爾見乍) 353  
 (令見乍) 305  
 (在管裳) 324  
 (深去通都) 332  
 つつみ(舊堤者) 373  
 ツツム(包)  
 つつむ(裏而) 306  
 ツツメリ(包有)  
 つつめる(彼山之堤有海會) 319  
 つと(家裏) 306  
 (濱裏) 360  
 ツドフ(集)  
 つどへ(召集聚) 478  
 ツナゲリ(維有)  
 つなげる(認有神會) 406  
 つぬが(角鹿乃濱) 366  
 つぬさはふ(角障經) 282 423  
 つぬのまつばら(角松原) 279  
 つね(常將有等) 242  
 (常有奴可) 331  
 (常將在跡) 244

(常如此耳跡) 472  
 (常有之) 478  
 (無常跡) 465  
 (常無里家留) 303  
 (恒見杼毛) 377  
 つばら(つばら) 曲曲(一) 333  
 つひ(遂毛死物) 349  
 つま(妻) 443  
 (鴨妻喚) 257 260  
 (誰孀可) 426  
 ツマツク(爪突)  
 つまづく(馬會爪突) 365  
 つまどひ(妻問爲家武) 431  
 つまや(妻屋) 481  
 つみ(柘之左枝) 386  
 (柘之枝) 387  
 つゆ(露霜) 443  
 つゆしもの(露霜乃) 466  
 つり(釣爲良下) 357  
 つりふね(釣船) 256 一本  
 (海人釣船) 294  
 ツル(釣)

つる(鈴寸釣) 252  
 つるぎたち(劔刀) 473  
 つれ(都禮毛奈吉) 460  
 つゑ(杖策毛) 420  
 つをのさき(津乎能埼羽毛) 352  
 テ  
 て(手二卷四而有)  
 (手二纏在) 424  
 (手二卷難寸) 409  
 (手取持而) 408 420  
 (手二卷以而) 436  
 (從手不離有牟) 403  
 (妹手乎取) 385  
 (妹之手) 415  
 て(出)(イヅの連用形の略)  
 (色出來) 395  
 (思出) 473  
 (退出而) 257  
 (去出而) 260  
 てこな(手兒名) 431 432 433  
 テル(照)



てる(照月乃) 317  
(此照月) 442

と

(開乃門從者) 388  
と(助詞)(天地與) 315 478  
(駿河能國與) 319  
(鴛與高部共) 258  
(與妹來之) 449  
(吾妹子與) 481  
(與妹爲而) 452  
(因香跡思波牟) 481  
(因鹿跡叙念) 481  
(與柳常念者) 474  
(價無寶跡言十方) 345  
(居中跡所言奚米) 312  
(武士登所云人) 443  
(玉跡言十方) 346  
(此間登波聞杼) 431  
(石花海跡名付而有毛) 319  
(狂言登加聞) 475  
(白水郎跡香將見) 252

(見杲石山跡) 382  
(聖跡負師) 339  
(寶十方成有山) 319  
(宮登定流) 417  
(人跡不有者) 343  
(鎮十方座祇) 319  
(不盡河跡) 319  
(遠乃朝庭跡蟻通) 304  
(宜國跡) 322  
(時敷時跡) 382  
(空物跡將有) 442  
(將仕物常念有之) 457  
(狂言等可聞) 421  
(繼往物與) 443  
(不聽跡雖云) 236  
(晚闇跡) 460  
(何時然跡) 446  
(何在登問者) 448  
(如此耳跡可都知跡) 472  
(吉跡所聞而) 460  
(昔有跡云師) 407  
(落去登人者雖云) 400

(不絕等念而) 423  
(將有登會) 442  
(無常跡知物乎) 465  
(賢跡物言從者) 341  
(潤濕跡) 370  
(伊都伎坐等) 420  
(挿頭跡) 423  
(賢良乎爲跡) 344  
(求跡) 267  
(思跡) 267  
(網引爲跡) 238  
(思家登) 381  
(開去歲立動良之) 388  
(常將有等) 242  
(天所知牟登) 476  
(此夜乃將明跡) 388  
(名津匠來與) 443  
(將爲登) 432  
(共將有跡) 431  
(蔣將登會念) 384  
(將蓋跡念有) 374  
(榜與雖思) 260

(不絶射妹與) 481  
(不見跡云物乎) 305  
(咲而有哉跡) 455  
(獨哉將宿跡君之云者) 463  
(間幸座與) 443  
(強話登言) 297  
(話禮話禮常詔許會) 273  
(引者難三等) 414  
(效矣無跡) 481  
(恐等仕奉而) 239  
(險跡草取可奈和妹手乎取) 385  
(如此毛欲得跡) 478  
(相見染跡衣) 300  
(トを加へてよむもの)  
(妹者不喚) 286  
(不聽雖謂) 237  
(死云事爾) 460  
(所見云物乎) 396  
(有不言八方) 424  
ど(助詞)(聞杼) 431  
(雖待) 418  
(不聽跡雖云) 236

とき

(不聽雖謂) 237  
(人者雖云) 400  
(雖思) 260  
(知跡) 472  
(雖干) 384  
(雖見) 239 307 319  
(見禮杼) 459  
(見杼) 466  
(見騰) 297  
(有跡) 446  
(物爾波在跡) 481  
(未者伎禰杼) 336  
(時爾波不有跡) 441  
(安里氣禮騰) 308  
(時) 467  
(將成時爾) 398  
(時爾不在之天) 443  
(時敷時跡) 382  
(分時從) 317  
(時者經去) 469  
(榮時) 475  
(時者) 439

トキジ

(四具禮能時波) 423  
(時爾波不有跡) 441  
ときじく(時自久會) 317  
ときじき(時敷時跡) 382  
ときはなす(常馨成) 308  
トク(解)  
とか(人將解八方) 402  
とき(帶解替而) 431  
トグ(遂)  
とげ(心者不遂) 481  
とこよ(益及常世) 260  
とこ(常世有跡) 446  
ところ(行幸處) 322  
(幸行處) 295  
(與津城處) 432  
とし  
(年) 443  
(年之不知久) 323  
(歲月日香) 443  
(年深) 373  
トシ(速)  
とく(速來而母) 277



としのを(年緒) 460  
 トトノフ(調)  
 ととのふる(綱子調流海人之呼聲) 238  
 トドム(留)  
 とどめ(妹乎將留) 468  
 (留不得) 461  
 (留不得) 471  
 とどむる(社師留焉) 405  
 とねり(舍人) 475 478  
 トノゲモル  
 とのぐもる(殿雲流夜) 370  
 とのへ(外重) 443  
 トフ(問)  
 とは(問者) 443  
 (辭不問物) 481  
 とひ(夕衢占問) 420  
 (問之君波母) 455  
 (問放流) 460  
 とぶ(ト云フ)(聞跡云物會) 359  
 トナ(飛)  
 とび(飛毛不上) 319

とぶ(飛鳥毛) 319  
 とぶさたて(鳥總立) 319  
 トホシ(遠)  
 とほく(遠久寸) 431  
 (遠毛) 248  
 とほき(遐代) 322  
 とほけども(雖遠) 396  
 トホシロシ  
 とほしろし(河登保志呂之) 324  
 とほつかみ(遠神) 295  
 とほなが(彌遠長爾) 423 一云 478  
 とほながく(彌遠長) 443  
 (彌遠永) 423  
 (遠長將仕物) 457  
 とほのみかど(遠乃朝廷) 304  
 とまり(三船乃登麻里) 247  
 トム(止)  
 とめ(抑駐) 478  
 とも(軛浦) 446 447  
 とも(共將有跡) 481  
 とも(助詞)(泣友) 301  
 (雖立) 247

(雖放) 327  
 (玉跡言十方) 346  
 (價無寶跡言十方) 345  
 (親者知友) 362  
 (父母者知友) 363  
 (後雖悔) 410  
 (霑者漬跡裳) 374  
 (雖有) 402  
 (不所見十方) 393  
 ども(助詞)(雖泣) 475  
 (雖念) 409  
 (雖戀) 481  
 (見杼毛) 377  
 (見十方) 484  
 (佐波爾雖在) 322  
 (佐波爾雖有) 382  
 (雖在) 460  
 (雖不知) 313  
 トヒシ(乏)  
 ともしき(光乏寸) 290  
 (乏小舟) 358  
 もともしび(留火之) 254

ともしみ(見者乏見) 367  
 トモス(燒)  
 ともす(燒火乃) 326  
 とよくに(豐國之) 311  
 (豐國) 417 418  
 とり  
 (鳥爾毛) 348  
 (飛鳥毛) 319  
 (鳴鳥之) 322 373  
 (其鳥乃) 372  
 (鶉雉) 478  
 とりがなく(雞之鳴) 382  
 トル(取)  
 とら(不取香聞將有) 386  
 とり(手取持而) 420  
 (木綿取持) 443  
 (木綿取付而) 379  
 (取負而) 478  
 (取著而) 478  
 (押日取懸) 379  
 (手取持而) 380 408  
 (取佩) 478  
 (取毛不見久爾) 278

(草取可奈和) 385  
 とる(妹手乎取) 385  
 トヲヨル(撓寄)  
 とをよる(十緣皇子) 420  
 ナ  
 (名者) 362  
 (名耳母) 431  
 (名告者告世) 363  
 (妹名乎) 285  
 (祖名) 443  
 (酒名乎) 339  
 (名負輓) 266  
 (汝鳴者) 266 371  
 (汝乎見者) 309  
 な(助詞禁)(馬莫疾打莫行) 263  
 (奥部莫避) 274  
 (雨莫零行年) 299  
 (人爾莫令蓋) 374  
 (浪立莫) 246  
 (情進莫) 381  
 な(助詞冀)(樂乎有名) 349

なか(中爾立置而) 388  
 ナカリ  
 なかり(無有世伐) 387 404  
 (常無里家留) 308  
 ナガシ(長)  
 ながく(年緒長久) 460  
 (天地與長久) 315  
 ながき(長夜) 462  
 (長夜乎) 463  
 ながち(夷之長道) 255  
 ながつき(九月) 423  
 なかなかに(中中二) 343  
 ナガル(流)  
 ながれ(流來者) 386  
 ながる(涕之流) 453  
 ながさ(池之激爾) 378  
 ナク(泣)(鳴)  
 なか(啼耳鳴六) 483  
 (不泣日者無) 473  
 (哭耳所泣) 324 456  
 なき(鶴鳴渡) 271  
 (哭管) 481



なく(鳴而) 352  
 なく(佐波二鳴) 273  
 (左波爾鳴) 389  
 (泣母) 481  
 (泣友) 301  
 (吾泣) 453  
 (子將哭) 387  
 (鴨會鳴成) 375  
 (吾泣淚) 460 469  
 (乳鳥鳴成) 268  
 (鳴鳥之) 322 373  
 (鳴鴨乎) 416  
 (霍公鳥鳴五月) 428  
 (川津鳴瀨) 356  
 (哭乎毛置而) 481  
 (哭兒成) 460  
 なく(汝鳴者) 266 371  
 (雖泣) 475  
 ナクハシ  
 なくはしき(名細寸) 303  
 ナゲク(嘆)  
 ながか(嘆舍) 481

なげき(歎乍) 425  
 (嘆乍) 460  
 なげむ(將無) 408  
 ナシ(無)  
 なく(絶事無) 324  
 (無而) 260  
 (間無) 359  
 なし(不泣日者無) 473  
 (將爲須便毛奈思) 475  
 (將爲須辨毛奈思) 466  
 (心神毛奈思) 457  
 (情神毛奈思) 471  
 (物念毛奈信) 296  
 (無常跡) 465  
 (君無二四天) 458  
 (已具人奈四二) 257  
 (無二) 412  
 なき(親族兄弟無國) 460  
 (價無寶) 345  
 (無人) 434 或云  
 (人毛無奈吉空家) 451

(驗無物乎) 338  
 (跡無世間) 466  
 (都禮毛奈吉) 460  
 (跡無如) 351  
 (見之人會奈吉) 446  
 なす (哭兒成) 460  
 (水鴨成) 466  
 ナス(成)  
 なす(海成可聞) 241  
 なすきやま(名次山) 279  
 ナヅク(名付)  
 なづけ(名不知) 319  
 (名付毛不知) 466  
 (名付而有毛) 319  
 なつくさの(夏草之) 250  
 ナヅサフ  
 なづさひ(名津匪來與) 443  
 なづさふ(名豆颯) 430  
 なつみのかは(夏實之河) 375  
 ナヅム(泥)  
 なづみ(名積叙吾來並二) 382  
 (名積來有鴨) 383

なでしこ(石竹) 408 464  
 など(奈何) 409  
 なな(古之七賢人) 340  
 ななふすげ(七相萱) 420  
 なに(何矣示) 360  
 (何物爾將譬) 351  
 なのは(難波) 312  
 (難波國) 443  
 なのりその(名乘藻乃) 362 363  
 なのはのうら(繩乃浦) 354  
 (繩浦) 357  
 ナビク(靡)  
 なびき(靡寢) 481  
 なびく(打靡) 475  
 なへ(苗有) 407  
 なへ(宜奈倍) 286  
 なほ(尙不如來) 350  
 なまよみの(奈麻余美乃) 319  
 なみ (浪上) 一本  
 (依浪) 359  
 (不知代經浪) 264  
 (浪矣恐) 249

(浪乎恐美) 333  
 (浪立莫勤) 246  
 (瀾立目八方) 247  
 (池浪) 257 260  
 (奧浪) 247  
 (奧津浪) 303  
 (邊波) 247  
 (小浪) 314  
 (千重浪) 409  
 なみ (無暇) 278  
 (效矣無跡) 481  
 (逢因矣無) 483  
 (知師無美) 366  
 (爲便奈美) 466  
 なみだ(淚) 469  
 (涕之流) 463  
 ナミダゲマシ  
 なみだぐまし(涕具末之毛) 449  
 なみたち(儕立乃見杲石山) 382  
 なむ (吾波乞萱) 380  
 (吾波祈奈半) 379  
 ナム(並)

なめ(馬並而) 239  
 なゆたけの(名湯竹乃) 420  
 なら (寧樂) 300  
 (寧樂京師) 328 331  
 (平城京乎) 330  
 ならし(船爾波有之) 256 一云  
 (如此耳奈良之) 478  
 ナラブ(並)  
 ならび(雙居) 466  
 ナリ(也)  
 なら(枝將有八方) 460  
 (何在) 443  
 (君爾有名國) 422  
 (時爾不在之天) 443  
 (久有者) 311  
 なり(常有之) 478  
 (苗有跡) 407  
 (今盛有) 328  
 (鳴成) 266  
 なる(鴨會鳴成) 375  
 なれ(霧有哉) 429  
 (身在者) 466



- ナリ(ニ在)
  - (一有加母) 276
- なら(家有者) 416
- (國有者) 436
- なる(今生在間者) 349
- (磯越道有能登湍河) 314
- (天有) 420
- (駿河有) 317 319
- (駿河奈流) 284
- (在京都) 440
- (三河有二見) 276
- (振乃山有杉村) 422
- (吉野爾有) 375
- ナル(成)
  - なら(不成者) 411
  - (湍者不成而) 335
  - なり(吾羽成武) 348
  - (實之成名者) 399
  - (髣髴爲乍) 481
  - (成極) 481
  - (時者成來) 439
  - (成家留鴨) 452

- (將成時爾) 398
- (不見歟成) 331
- (彌清成來鴨) 316
- (盛爾成來) 330
- (成而師鴨) 343
- ナル(穢)
  - なれ(未著穢) 413
- ナレリ(成方)
  - なれる(寶十方成有山) 319
- ニ
  - に(助詞)(東國爾) 382
  - (伊與爾回之) 388
  - (難波國爾) 443
  - (足柄山爾) 391
  - (神名備山爾) 324
  - (佐保山爾) 473
  - (佐保乃山邊爾) 460
  - (高城乃山爾) 353
  - (始瀨乃山爾) 420
  - (不盡能高嶺爾) 318
  - (不盡嶺爾零置雪) 320
- (御笠乃山爾) 372
- (三笠乃山爾鳴鳥) 373
- (三船乃山爾居雲) 242
- (三船乃山爾絶日安良米也) 243
- (御船乃山爾) 244
- (射狹庭乃崗爾) 322
- (水島爾將去) 246
- (奴島爾) 249
- (枚乃湖爾) 274
- (明石浦爾) 326
- (手結我浦爾) 366
- (繩乃浦爾鹽燒) 354
- (藤江之浦爾) 252
- (明大門爾入日) 254
- (野島之埼爾) 250
- (志賀乃大津爾) 288
- (飽田津爾) 323
- (得名津爾立而) 283
- (勝野原爾) 275
- (託馬野爾生流) 395
- (春日野爾) 405
- (獵野乃小野爾) 239

- (角太河原爾) 298
- (磬余池爾鳴鴨) 416
- (狹野乃渡爾) 265
- (阿倍乃市道爾) 284
- (寧樂乃手祭爾) 300
- (夜隱爾出來月) 290
- (親族兄弟無國爾) 460
- (敷座國爾) 460
- (雷之上爾盧爲流鴨) 235
- (八十之湊爾) 273
- (河湍爾波) 475
- (八十隅坂爾) 427
- (天川原爾) 420
- (荒山中爾海成可聞) 241
- (其山爾) 401
- (山爾棚引) 354
- (山邊爾波) 475
- (山之末爾) 393
- (山際爾) 428
- (天地爾) 420
- (池之激爾) 378
- (入江爾打靡) 433

- (川余杼爾) 375
- (字乃住石爾) 359
- (礮上丹根蔓室木) 448
- (石穗乃上爾) 420 421
- (荒磯爾生) 363
- (石轉爾生) 362
- (玉藻之於丹) 390
- (御門爾) 443
- (內重爾仕奉) 443
- (外重爾立候) 443
- (荒有家爾) 440
- (妹家爾) 398 399
- (吾屋戶爾) 384 420
- (妻屋爾) 481
- (吾屋前爾) 466
- (屋前爾) 410 469
- (石室戶爾立立) 309
- (躡宿爾) 426
- (奧爾持行而) 327
- (奧爾念乎) 376
- (邊津方爾) 257
- (客爾臥有) 415

- (海路爾出而) 368
- (中爾立置而) 338
- (阿白木爾不知代經浪) 264
- (賢木之枝爾) 379
- (枕邊爾) 420
- (背向爾所見) 357
- (背向爾見乍) 360
- (背爾見乍) 358
- (萬代爾) 315 475 478 480
- (萬世爾不絶) 423
- (千歲爾麻佐武) 243
- (退代爾) 322
- (新世爾) 481
- (古爾) 387
- (春爾在婆) 257
- (榮時爾) 475
- (將成時爾) 398
- (還左爾) 449
- (人爾莫令蓋) 774
- (吾妹子爾) 483
- (吾妹兒二) 279
- (妹爾) 445



- (妹爾戀久) 326
- (妻爾) 443
- (母父爾) 443
- (君爾戀) 456
- (過去人爾相牟鴨) 427
- (子等爾語而) 443
- (公爾衣借益矣) 361
- (君爾不相可聞) 379
- (君爾不相鴨) 380
- (山能佐都雄爾) 267
- (大夫爾認有神) 406
- (酒壺二成而師鴨) 343
- (蟲爾鳥爾毛) 343
- (雨爾零寺八) 460
- (於雲棚引) 444
- (繭爾將爲登) 424
- (玉爾貫) 423
- (樹爾伐歸都) 391
- (蓋爾爲有) 240
- (手二卷四而有) 366
- (手二卷難寸) 409
- (手二纏在) 424

- (手爾卷以而) 436
- (腰爾取佩) 478
- (吾紐二付) 334
- (可比奈爾懸而) 420
- (此勢能山爾懸者) 285
- (伊奈太吉爾) 412
- (大舟爾) 366
- (大船二) 368
- (濱風爾) 251
- (松風爾) 257
- (朝獵爾) 478
- (暮獵爾) 478
- (夕霧丹) 324
- (酒二染菅) 343
- (旅爾益而) 451
- (濁酒二豈益目八) 45
- (夜渡月爾) 302
- (猿二鴨似) 344
- (網爾刺) 240
- (色爾將出八方) 301
- (遊道爾冷者) 347
- (何物爾將譬) 351

- (死云事爾不免) 460
- (君爾有名國) 422
- (志賀爾安良七國) 263
- (孤悲爾不有國) 325
- (死物爾有者) 349
- (世間爾有者) 466
- (世之事爾在者) 482
- (山影爾之氏) 375
- (待鹿爾) 405
- (侍從爾) 388
- (曾許念爾) 466
- (醉哭爲爾) 347
- (情平遣爾) 346
- (醉泣爲爾尙不如來) 350
- (阿流久爾似人) 425
- (朝爾食爾) 377
- (外爾見之) 482
- (外爾見而思香) 393
- (彌繼爾) 324
- (彌遠長爾) 423
- (綾爾恐之) 475
- (文爾恐之) 478

- (左波爾雖在) 322
- (左波爾雖有) 332
- (左波二鳴) 273
- (左波爾鳴) 389
- (白細爾) 475
- (白榜爾) 478
- (眞白衣) 318
- (眞白髮爾) 481
- (何方爾) 443
- (繁爾貫垂) 379
- (木晚茂爾) 257
- (京思美彌爾) 460
- (千重爾隱奴) 303
- (千重浪敷爾) 409
- (木立之繁爾) 478
- (如是故爾) 305
- (殖而師故二) 411
- (不相兒故荷) 372
- (曲曲二) 333
- (申中二) 343
- (神佐備爾) 420
- (去過勝爾) 253

- (君無二四天) 458
- (盛爾成來) 330
- (情毛思努爾) 266
- ごとに(多藝通瀨每爾) 314
- のみに(片戀耳爾) 372
- までに(生左右二) 259
- (至流左右二) 420
- (年經左右二) 443
- すらに(鴨尙爾) 390
- にし(神二四座者) 235
- (神爾之坐者) 241
- (酒西有良師) 340
- (酒西有良之) 342
- (壽爾之在者) 461
- (物爾之有者) 460
- (今代爾之) 348
- には(遊船爾波) 257
- (時爾波不有跡) 441
- (物爾波在跡) 481
- (明日香庭) 268
- (朝庭) 481
- (夕爾波) 481

- (去左爾波) 459
- (一日爾波) 409
- にも(人爾毛) 432
- (外爾毛見之加) 474
- (其花爾毛我) 408
- (花爾欲得) 306
- にぞ(於保爾曾見谿流) 476
- (保爾曾出流) 326
- にか(外爾可聞見牟) 423
- (ニを加へてよむもの)
- (春日之野邊粟種益乎) 404
- (銚摺本薛生左右二) 259
- (燒津邊吾去鹿齒) 284
- (葦邊波) 352
- (濱眷奴) 294
- (山際) 481
- (嶺霏爾) 429
- (大殿於二) 260
- (濱松上) 444
- (船上住) 253
- (奧名豆颯) 430
- (奧榜) 270



- (故郷) 333
- (前坐置而) 443
- (何處) 275
- (此間爲而) 287
- (六月十五日消者) 320
- (常有奴可) 331
- (後雖悔) 410
- (且雲) 324
- (常世有跡) 446
- (朝夕在鶴公) 443
- (朝夕哭耳曾吾泣) 458
- (常將在跡) 244
- (常將有等) 242
- (客爲而) 270 360
- (客有間) 460
- (女有者) 419
- (古昔有家武人) 431
- (共將有跡) 481
- (身著而) 336
- (益旅而) 440
- (衣染) 395
- (手取持而) 380 408 420

- (恒見杼毛) 377
- (色出來) 395
- (名負靱) 480
- (今亦更) 483
- (家裏爲) 306
- (面影爲而) 396
- (雪驟) 262
- (無間貫垂) 420
- (繁生有) 324
- (殆) 331
- (朝夕四天) 456
- (髣髴爲乍) 451
- (彌日異) 475 478
- (每見) 324
- (泣母) 481
- (ニシ)(客之有者) 366
- (實之成名者) 366
- (ニハ)(國中者) 329
- (湍者) 335
- (來生者) 348
- (奥邊者) 260
- (邊都返者) 260

- (五月者) 423
- (神者不有) 406
- (哭者泣友) 301
- (一手者) 443 443
- (久者不有) 335
- (ニモ)(此間毛有益) 337
- (遂毛死物) 343
- (ニカ)(歲月日香) 443
- (妹鴨有牟) 423
- (ノミニ)(如此耳有家類物乎) 455
- (如此耳有家留物乎) 470
- (不繼續)(無人思丹) 434 或云
- (不思爾) 444
- (物戀敷爾) 270
- (己具人奈四) 237
- にぎたつ(飽田津) 323
- にぎたへ(和細布) 443
- ニギブ(賑)
- にぎび(丹杵火爾之) 481
- ニゴレリ(濁有)
- にこれる(濁酒) 338 345
- にて(京都爾面) 439

- (加へてよむもの)(澀有毛) 335
- には(庭好有之) 256
- (爾波母之頭氣師) 388
- ニホフ(薰)
- にほふ(咲花乃薰如) 323
- ニホヘリ(香有)
- にほへる(香君) 443
- ニル(似)
- にる(猿二鴨似) 344
- (似人) 425
- 又
- ヌ(寢)
- ぬ(一宿者) 440
- (獨哉將宿跡) 463
- (將宿) 298 462
- (不勝宿者) 388
- (獨宿名久) 390
- (靡寢吾黑髮) 451
- ヌ(複語尾)
- な(實之成名者) 399
- (暮去者) 275

- (干去者) 360
- (雲隱去牟) 416
- (成奈武) 34
- (將成時爾) 398
- (不見歟將成) 331
- (將吹鳥) 462
- (將死還生) 327
- (酒二染茸) 343
- (將別) 254
- (ナを加へてよむもの)
- (消者) 399
- に(雲隱去寸) 461
- (過去人) 427 463
- (立西日) 443
- (入爾之山乎) 481
- (故去之里) 334
- (負來爾之) 286
- (丹杵火爾之家) 481
- (隱去可婆) 466
- (深去通都) 282
- (生繼爾家里) 322
- (都備仁鷄里) 312

- (移爾家里) 478
- (戀爾家利) 310
- (戀爾家里) 236
- (深去來) 274
- (荒爾鷄里) 479
- (來二家里) 287
- (安禮爾家留可毛) 307 一云
- (彌清成爾來鴨) 316
- (散去奚留鴨) 277
- (相爾來鴨) 267
- (淺爾家留香裳) 292
- (隱爾計良惡) 413
- (干二家良進) 271
- (柄者指爾家牟) 407
- (ニを加へてよむもの)
- (水草生家里) 378
- (開家流香聞) 464
- (成家留鴨) 452
- (成而師鴨) 343
- (色出來) 395
- (成來) 330
- (來家里) 392



(來<sub>ニ</sub>來) 269  
 ぬ(隱奴) 303  
 (開去歲) 388  
 (近著奴) 250  
 (時者經去) 469  
 (濱眷奴) 294  
 (伎濃) 450 一云  
 (落去登) 400  
 (ヌを加へてよむもの)  
 (幾代將經) 355  
 ぬる(散去如寸) 477  
 (保爾曾出流) 326  
 (消去之如之) 466  
 ぬれ(隱益去禮) 460  
 (天所知奴禮) 475  
 (春去奴禮婆) 475  
 (往過奴禮婆) 481  
 (ヌレを加へてよむもの)  
 (雖干<sub>ヌレ</sub>) 384  
 ヌク(貫)  
 ぬき(玉爾貫) 423  
 (貫交) 423 一云

(夢乃和太) 335  
 (伊豫能高嶺乃射狹庭乃崗) 322  
 (飲海乃河原) 371  
 (香具山乃) 334  
 (可古能島) 253  
 (笠乃山) 374  
 (笠縫之島) 276  
 (春日之野邊) 404  
 (春日山乃) 372  
 (勝牡鹿乃眞間之手兒名) 431  
 (勝牡鹿之間間能手兒名) 432  
 (勝牡鹿乃眞々乃入江) 433  
 (甲斐乃國) 319  
 (獵路乃小野) 239  
 (象乃小河) 316  
 (清之河乃) 437  
 (清見之崎乃) 296  
 (久邇乃京) 476  
 (棕橋乃山) 290  
 (飼飯海乃) 256  
 (越海乃手結之浦) 267  
 (越海之角鹿濱) 366

(貫垂) 379 420  
 (眞棍貫下) 366  
 ぬさ(置幣者) 300  
 ぬさかのうら(野坂乃浦) 246  
 ぬしま(奴島) 249  
 ぬしまがさき(野島之崎) 250  
 (野島之前) 251  
 ぬばたまの(烏珠之) 392  
 (野干玉乃) 302  
 ぬべ(春日之野邊) 404  
 ヌル(沾)  
 ぬれ(潤濕跡) 370  
 (霽者漬跡裳) 374  
 ネ  
 ね(根)(根深目手) 397  
 (草根) 485  
 (菅根乎) 414  
 (田葛根乃) 423 一云  
 (松之根也) 431  
 (根蔓) 448  
 ね(嶺)(筑波根) 383

(左佐羅能小野之七相背) 420  
 (樂浪乃舊都) 305  
 (薩摩乃迫門) 248  
 (狹野乃渡) 265  
 (佐濃能崗) 361  
 (佐保乃山邊) 460  
 (志賀乃大津) 288  
 (志都乃石室) 355  
 (鹽干乃三津) 293  
 (黒吉乃) 283  
 (清江乃木突松原) 295  
 (住吉乃濱乃小松) 394  
 (駿河能國) 319  
 (勢能山) 285 291  
 (此勢能山) 286  
 (高城乃山) 353  
 (高島乃勝野原) 275  
 (田兒之浦) 318  
 (手結之浦) 367  
 (筑羽乃山) 352  
 (角鹿乃濱) 366  
 (津乎能崎) 352

(不盡嶺爾) 320  
 (布士能嶺乎) 321  
 ね(哭)(哭者泣友) 301  
 (哭耳所泣) 324 456  
 (哭耳曾吾泣) 458  
 (啼耳哭管) 481  
 (啼耳鳴六) 485  
 の(助詞)(連體格)  
 (明石之浦) 326  
 (開乃門) 388  
 (葦北乃野坂乃浦) 246  
 (明日香能舊京師) 324  
 (粟路之野島前乃) 251  
 (淡海乃海) 266  
 (阿倍乃市道) 284  
 (阿倍乃島) 359  
 (活道乃路) 479  
 (稻見乃海之奥津浪) 303  
 (廬前乃角太河原) 293  
 (廬原乃清見之崎) 296

(豐國之鏡山) 311  
 (豐國乃鏡山) 417 418  
 (夏實之河乃川余村) 375  
 (繩乃浦) 354  
 (寧樂乃手祭) 300  
 (寧樂乃京師) 328  
 (始瀨乃山) 420  
 (枚乃湖) 274  
 (不盡能高嶺) 317 318 319  
 (不盡能高峯) 319  
 (布士能高嶺) 317  
 (布士能嶺) 321  
 (藤江之浦) 252  
 (藤江能浦) 252 一云  
 (振乃山) 422  
 (陸奥之眞野乃草原) 396  
 (眞野乃榛原) 230  
 (眞野之榛原) 281 282  
 (眞々乃入江) 433  
 (御笠乃山) 372  
 (三笠乃山) 373  
 (水河乃) 276 一云



(敏馬乃埼) 389  
 (敏馬能埼) 449  
 (三船乃山) 242 243  
 (御船乃山) 244  
 (三穗乃石室) 307  
 (見穗乃浦) 296  
 (三保乃浦廻之白管仕) 434  
 (三諸乃神名備山) 324  
 (三湯之上乃) 322  
 (三吉野之御船乃山) 244  
 (見吉野之瀧) 313  
 (見吉野之芳野乃宮) 315  
 (見吉野之高城乃山) 353  
 (神之埼) 265  
 (武庫乃浦) 256 一云  
 (六兒乃泊) 285  
 (山代乃相樂山) 481  
 (山跡國乃鎮) 319  
 (芳野乃宮) 315  
 (石村之道) 423  
 (淺野之雉) 388  
 (伊勢海之與津白浪) 306

(鏡山之石戸) 419  
 (香山之鉢棺) 258  
 (春日里之殖子水葱) 407  
 (清見之埼乃見穗乃浦) 296  
 (輕池之納廻) 390  
 (越海之角鹿乃濱) 366  
 (相樂山乃山際) 481  
 (鞆浦之磯) 447  
 (夏實之河乃) 375  
 (泊瀨山之山際) 428  
 (一見之目道) 276 一云  
 (日本之山跡國) 319  
 (八十氏河乃阿白木) 264  
 (久米能若子) 207 435  
 (間間能手兒名) 432  
 (然之海人) 278  
 (須麻乃海人之鹽燒衣) 413  
 (真間之手兒名) 431  
 (三津之海女) 293  
 (三湯之上乃) 322  
 (天雲之雷之上) 235  
 (石穗乃上) 420 421

(山之末) 393  
 (大宮之内) 238  
 (海若之輿) 327  
 (泊瀨山之山際) 428  
 (香具山乃故去之里) 334  
 (瀧上之三船乃山) 242  
 (高山之石穗乃上) 241  
 (高山乃石穗乃上爾) 240  
 (瀧上乃淺野) 388  
 (瀧乃白浪) 313  
 (青山之嶺乃白雲) 377  
 (池之澗) 378  
 (磯之草根) 435  
 (磯之室木) 447  
 (奧山之菅葉) 299  
 (奧山之馨本菅) 397  
 (鞆浦之天木香樹) 446  
 (奧山乃) 379  
 (夷之長道) 255  
 (東市之殖木) 310  
 (屋前之橘) 411  
 (屋前之石竹) 464

(濱乃小松) 394  
 (嶺乃白雲) 377  
 (瀧乃白浪) 313  
 (山能佐都雄) 267  
 (河原之乳鳥) 371  
 (筑紫乃綿) 336  
 (木突松原) 295  
 (天之芳來山) 257  
 (古家乃里之明日香) 263  
 (大夫乃手結我浦) 366  
 (八十之湊) 273  
 (雷之上) 235  
 (濱松之上) 444  
 (國之三中) 319  
 (其山之水乃當) 319  
 (雪消乃道) 383  
 (三船乃登麻里) 247  
 (浪乃去邊) 264  
 (許禮能水島) 245  
 (已知其智乃) 319  
 (曾久做能極) 420  
 (遠乃朝廷) 304

(玉梓乃事) 445  
 (行幸之宮) 315  
 (大荒城乃時) 441  
 (九月能四具禮能時) 423  
 (出來月乃光) 290  
 (度日之陰) 317  
 (照月乃光) 317  
 (天雲乃) 420  
 (神乃香山) 260  
 (天地乃神祇) 443  
 (皇神祖之神乃御言) 322  
 (神之御門) 443  
 (神之命) 379  
 (神之社) 404  
 (吾妹兒之屋前) 411  
 (朋神之貴山) 382  
 (儕立乃見泉石山) 382  
 (綿津海乃手) 366  
 (天之探女) 292  
 (我王之幸行處) 295  
 (大王之遠乃朝廷) 304  
 (大王之御命) 363

(大王之命) 297  
 (大皇之命) 441  
 (王之命) 443  
 (吾日乃皇子) 239  
 (日之皇子) 261  
 (御子乃命) 475  
 (皇子之命乃) 479  
 (皇子之命) 478 479  
 (皇子乃御門) 475  
 (皇子乃御門乃) 478 478  
 (物乃部能八十氏河) 264  
 (物乃負能八十伴男) 478  
 (物部乃臣之壯士) 369  
 (大夫之心) 478  
 (海部之釣船) 256 一本  
 (海人之呼聲) 238  
 (大聖之言) 339  
 (古之七賢人) 340  
 (大伴之名) 480  
 (吾背乃君) 286  
 (海人之鹽燒衣) 413  
 (任乃隨) 369



(大御馬之口) 478  
 (鳴鳥之音) 322  
 (其鳥乃) 372  
 (都賀乃樹) 324 324  
 (其夜乃梅) 392  
 (賢木之枝) 379  
 (柘之枝) 387  
 (柘之左枝) 386  
 (石竹之其花) 408  
 (藤浪之花) 330  
 (銚相之本) 259  
 (木立之繁) 478  
 (玉藻乃於) 390  
 (水乃當) 319  
 (鹽左爲能浪) 388  
 (秋津羽之袖) 376  
 (赤乃曾保船) 270  
 (髮梳乃少櫛) 278  
 (白妙乃手本) 481  
 (白細之衣袖) 460  
 (倭文幡乃帶) 431  
 (一杯乃濁酒) 333 345

(鹽干乃) 298  
 (鹽燒衣乃) 413  
 (世間乃悔言) 420  
 (世間之遊道) 347  
 (世之事) 482  
 (昔者之舊堤) 378  
 (行幸之宮) 315  
 (音之清左) 314  
 (言乃宜左) 339  
 (天地爾悔事乃世間乃悔言) 420  
 (鹽燒衣乃藤服) 413  
 (朋神之貴山乃儕立乃見泉石山) 392  
 (開有花之梅花) 399  
 (逆言之狂言) 421 475  
 (結之辱) 401  
 (國之盡) 322  
 (日之盡) 372  
 (夜之盡) 372  
 (人乃盡) 460  
 (朝鳥之) 481 483  
 (蘆鶴之) 456

(足日本能) 414  
 (足氷木乃) 460  
 (足日木乃) 267 466  
 (足檜木乃) 477  
 (荒玉乃) 460  
 (荒玉之) 443  
 (虛蟬之) 465  
 (鬱蟬乃) 443  
 (打蟬乃) 466  
 (打背見乃) 482  
 (大船之) 423 一云  
 (加麻幡夜能) 434  
 (容鳥能) 372  
 (河岸之) 437  
 (荏薦乃) 256  
 (田葛根乃) 423 一云  
 (隱江乃) 249  
 (隱久乃) 420  
 (隱口乃) 424  
 (隱口能) 428  
 (布細乃) 460  
 (敷細乃) 461

(敷細之) 438  
 (白菅乃) 280 281  
 (白栲乃) 252 一云  
 (白細之) 460 481  
 (杉村乃) 422  
 (高座之) 372  
 (高桧之) 373  
 (栲角乃) 460  
 (栲領巾乃) 285  
 (立霧乃) 325  
 (玉梓乃) 420 445  
 (帶乳根乃) 443  
 (露霜乃) 466  
 (留火之) 254  
 (夏草之) 250  
 (夏草乃) 250 一云  
 (名乘藻乃) 362 363  
 (奈麻餘美乃) 319  
 (野干玉乃) 302  
 (烏珠之) 392  
 (延葛乃) 423  
 (隼人乃) 248

(春草之) 239  
 (久堅之) 379  
 (久堅乃) 239 240 420 475  
 (久方乃) 292  
 (大夫乃手結我浦) 366  
 (百磯城之) 257  
 (百式乃) 260 或云  
 (百式紀乃) 323  
 (燒火乃) 326  
 (志斐能我強語) 236  
 (秋風乃寒朝開) 361  
 (明日香河乃) 356  
 (海女乃久具都持) 263  
 (天雲之會久徹) 420  
 (天雲之向伏國) 443  
 (天地之分時) 317  
 (天地乃至流左右) 420  
 (寢乃不勝宿者) 388  
 (石船乃泊師) 292  
 (宇乃住石) 359  
 (殖木乃木足左右) 310  
 (王之親魂合哉) 417

(大宮人乃) 257 或云  
 (大宮人乃去出) 260  
 (大宮人之) 323  
 (磐金之凝敷山) 301  
 (開有梅之) 398  
 (神乃御言乃敷座) 322  
 (立雲之常將在) 244  
 (草根乃干卷) 435  
 (榮之君乃伊座勢者) 454  
 (故鄉之) 333  
 (天皇之敷座國) 460  
 (咲花之薰如) 328  
 (吾佐保河乃所念國) 371  
 (島山之宜國) 322  
 (白雲乃棚引山) 287  
 (小彥名乃將座) 355  
 (爲便乃不知苦) 419  
 (鳴瀨之清有良武) 356  
 (玉緒乃不絕射妹與) 481  
 (吾背乃君之) 286  
 (其玉之) 409  
 (手弱女之押日取懸) 379



- (柘之左枝乃流來者) 386
- (年之不知久) 323
- (不知代經浪乃) 264
- (鳴音之止者繼流) 372
- (儕立之) 382
- (名湯竹乃十緣) 420
- (人之言嗣) 382
- (有家武人之) 431
- (過去人之所念久爾) 403
- (人言之繁比日) 436
- (人乃渡毛) 319
- (將歸人乃) 423
- (零雪乃消者) 299
- (船之跡無如) 351
- (眞木之立) 241
- (眞木葉乃之奈布) 291
- (大夫之弓上振起射都流矢) 364
- (若子乃匍匐多毛保里) 458
- (綠兒乃哭乎毛置而) 481
- (見穗乃浦乃寬) 296
- (皇子乃御門乃) 478
- (黃葉乃移伊去者) 459

- (梁打人乃無有世伐) 387
- (島山之宜國) 321
- (彼山之) 319
- (山守之有家留) 401
- (此夜乃將明跡) 388
- (夜之) 370
- (吾王乃敷座有) 329
- (皇子之命乃安里我欲比見之活道) 479
- (吾黑髮乃) 481
- (吾日乃皇子乃) 239
- (腋挾兒乃) 481
- (居雲乃常將有等) 242
- (ノを加へてよむもの)
- (伊勢海) 306
- (天原) 317 379
- (遊道爾) 347
- (東市) 310
- (古昔大聖) 339
- (梅花) 400
- (磯上) 448
- (瀧上乃) 888

- (春日里) 407
- (家門當) 255 一本
- (山際) 428
- (靱浦) 446 447
- (繩浦) 357
- (武庫浦) 358
- (越海) 366 367
- (飲海) 371
- (東國) 382
- (新羅國) 460
- (山跡國) 319
- (二見自道) 276
- (吉野川奥) 430
- (不盡嶺) 320
- (山背高槻村) 277
- (吉野山嶺) 429
- (寧樂京師) 381
- (平城京) 380
- (春日山) 372
- (磐余池) 416
- (泊瀨山) 428
- (近江海) 273

- (出雲兒等) 429
- (出雲子等) 430
- (妹名) 285
- (酒名) 339
- (皇祖神之御門) 443
- (象小河) 332
- (勝野原) 275
- (難波國) 443
- (國中者) 329
- (祖名) 443
- (山際) 420 481
- (瀧上) 242
- (大殿於) 260
- (船上) 258
- (海人釣船) 256 294
- (山下赤乃曾保船) 270
- (磯前) 273
- (家當) 254
- (眞木葉) 291 431
- (菅根) 414
- (菅葉) 299
- (梅樹) 458

- (芽子花) 455
- (梅花) 399
- (年緒) 460
- (七賢人) 340
- (玉緒) 481
- (母命) 443
- (白袴衣) 443
- (昔人) 309
- (家妹) 360
- (春日) 324
- (鞆宿) 426
- (六月十五日) 320
- (秋夜者) 324
- (何時間) 259
- (愛人纏而師) 438
- (天雲向伏國武士) 443
- (依浪間無) 359
- (朝霧髣髴爲乍) 481
- (露霜置而) 443
- (大王任乃隨意) 369
- (如千歲) 470
- (河風寒) 425

- のち (後毛吾松) 394
- (後將見人) 364
- (後悔) 410
- のとせがは(能登湍河) 314
- ノボル(上)
- のぼら(飛毛不上) 319
- のみ (言耳毛) 431
- (名耳母) 431
- (標耳曾結焉) 414
- (哭耳所泣) 424 456
- (啼耳鳴六) 483
- (啼耳哭管) 481
- (哭耳曾吾泣) 458
- (今日耳見哉) 416
- (片戀耳爾) 372
- (如此耳跡) 472
- (如是耳有家留物乎) 470
- (如此耳有家類物乎) 455
- (如此耳奈良之) 478
- (四十耳見乍) 383
- ノム(祈)
- のみ(乞禱) 443



ノム(飲)  
 のま(酒不飲人) 344  
 のみ(酒飲而) 341 346  
 (飲酒而) 350  
 のむ(可飲有良師) 333  
 ノラス(告)  
 のらし(名者告之五余) 362  
 のらせ(告名者告世) 363  
 (話禮話禮常詔許會) 273  
 ノル(告)  
 のら(告名者告世) 363  
 のる(強話登言) 237  
 ノレリ(乘有)  
 のれる(我乘有馬) 365

ハ

は(葉)(真木葉) 291 431  
 (菅葉) 299  
 は(末)(山之末爾) 393  
 は(助詞)(王者) 243  
 (皇者) 235 241  
 (我大王者) 240

(吾大王者) 420  
 (親者知友) 362  
 (父母者知友) 363  
 (母命者) 443  
 (憶良等者) 337  
 (舍人者) 478  
 (志斐伊波奏) 237  
 (出雲兒等者) 429  
 (海若者) 388  
 (然之海人者) 278  
 (臣之壯士者) 369  
 (妹者) 286 447  
 (山主者) 402  
 (在鶴公者) 443  
 (公者在然) 444  
 (人者) 364 443  
 (人者雖云) 400  
 (所云人者) 443  
 (吾者) 243 379 431  
 (吾波乞骨) 380  
 (吾羽成奈武) 348  
 (吾等者) 250

(此照月者) 442  
 (白雲者) 353  
 (伊佐夜歷雲者) 428  
 (雪者) 317 318  
 (零置雪者) 320  
 (山跡島根者) 303  
 (春日者) 324  
 (高山者) 382  
 (不盡能高嶺者) 317 319  
 (不盡高峯者) 319  
 (寧樂乃京師者) 328  
 (久邇乃京者) 475  
 (舊京師者) 324  
 (高津者) 292  
 (河津者驟) 324  
 (路波荒爾鷄里) 479  
 (舊堤者) 378  
 (湯者霜) 322  
 (芳野乃宮者) 315  
 (里家者) 460  
 (空家者) 451  
 (三穗石室者) 307

(石室者今毛) 308  
 (志都乃石室者) 355  
 (吾山齋者) 452  
 (代者無常) 465  
 (世間者) 442 478  
 (時者) 439 469  
 (時者霜) 467  
 (四具禮能時者) 423  
 (今生在間者) 349  
 (不泣日者無) 473  
 (書者毛) 372  
 (夜者深去通都) 282  
 (夜者毛) 372  
 (秋夜者) 324  
 (今者) 337 482  
 (極貴物者) 342  
 (欲爲物者) 240  
 (牟佐佐婢波) 267  
 (多頭羽亂) 324  
 (天木香樹者) 446  
 (濱乃小松者) 394  
 (花者) 330

(柄者指爾家牟) 407  
 (舟者) 260 357  
 (吾船者) 274  
 (黑髮者) 430  
 (置幣者) 300  
 (玉者) 424  
 (伎須賣須流玉者) 412  
 (筑紫乃綿者) 336  
 (痛情者) 472  
 (悔言者) 420  
 (遊道爾冷者) 347  
 (心者不遂) 481  
 (通計萬口波) 423  
 (賢良爲者) 350  
 (吾行者) 335  
 (夜路者將吉) 239  
 (心者不持) 437  
 (猪名野者令見都) 279  
 (事者將定) 393  
 (事者不果) 481  
 (名者告志互余) 362  
 (梁者不打而) 386

(未者伎禰村) 336  
 (不念者) 338  
 (霽者漬跡裳) 374  
 (邊都返者) 260  
 (人跡不有者) 243  
 (與邊者) 260  
 (君乎婆) 423  
 (物乎不念者) 338  
 (家從者) 461  
 (開乃門從者) 338  
 (從今者) 462  
 (物言從者) 341  
 (十六社者) 239  
 (葦邊波) 352  
 (與邊波) 257  
 (朝庭) 481  
 (遊船爾波) 257  
 (山邊爾波) 475  
 (河湍爾波) 475  
 (一日爾波) 409  
 (去左爾波) 450  
 (夕爾波) 481



(時爾波不有跡) 441  
 (物爾波在跡) 481  
 (國中者) 329  
 (來生者) 348  
 (滯者不成而) 335  
 (五月者) 423  
 (一手者) 443  
 (哭者泣友) 301  
 (神者不有) 406  
 (久者不有) 335  
 (トハ)(此間登波) 431  
 (妹者不喚) 286  
 (ハモ)(問之君波母) 455  
 (津乎能崎羽毛) 352  
 (相之兒等羽裳) 378  
 (柘之枝羽裳) 372  
 (晝者毛) 237  
 (夜者毛) 372  
 (ハを加へてよむもの)  
 (吾將宿) 275  
 (未然形所屬)  
 (引者難三等) 414

(濱裏乞者) 360  
 (何在問者) 448  
 (秋去者) 464  
 (告名者) 303  
 (雨零者) 374  
 (懸者奈何將有) 285  
 (不見而往者) 382  
 (可倍波伊香爾安良牟) 285 一云  
 (一宿者) 440  
 (流來者) 386  
 (手向爲者) 427  
 (不見久有者) 311  
 (眞幸有者) 288  
 (樂有者) 348  
 (家有者) 415  
 (玉有者) 436  
 (知末世波) 468  
 (人不見者) 269  
 (不成者不止) 411  
 (暮去者) 275  
 (實之成名者) 399  
 (鹽干去者) 360

(ナバ)(別者) 276 一云  
 (消者將惜) 290  
 (無有世伐) 387 404  
 (種有世伐) 405  
 (伊座勢波) 454  
 (有世婆) 460  
 (已然形所屬)  
 (語之告者) 313  
 (汝鳴者) 266 371  
 (行者) 273 366  
 (打越去者) 365  
 (伊去者) 459  
 (吾超去者) 291  
 (神二四座者) 235  
 (神座者) 235 或本  
 (神爾之坐者) 241  
 (見渡者) 283 326  
 (云者) 463  
 (念者) 434 474  
 (物念者) 333  
 (古思者) 324  
 (春爾至婆) 257

(明去者) 388  
 (夕去者) 354  
 (暮去者) 388  
 (見者) 272 304 309 317 318 322 376 449 478  
 (見者悲霜) 434 一云  
 (今見者) 316  
 (振離見者) 289  
 (打出而見者) 318  
 (熟見者) 344  
 (獨過者) 460  
 (許藝廻者) 389  
 (止者) 373  
 (消者) 320  
 (生者) 349 460  
 (春去來者) 260  
 (戀來者) 255  
 (物爾有者) 349  
 (客之有者) 306  
 (女有者) 419  
 (世間爾有者) 466  
 (壽爾之在者) 461  
 (世之事爾在者) 482

(間遠之有者) 413  
 (不免物爾之有者) 460  
 (思有者) 253  
 (身在者) 466  
 (不思者) 476  
 (君師不座者) 457  
 (不勝宿者) 388  
 (隱去可婆) 466  
 (春去奴禮婆) 475  
 (往過奴禮婆) 481  
 (吾去鹿齒) 284  
 はぎ(芽子花) 455  
 はきはら(眞野乃榛原) 280  
 (眞野之榛原) 281 281  
 ハク(佩)  
 はき(取佩) 478  
 ハシ(愛)  
 はしき(波之吉佐寶山) 474  
 (波之吉可聞) 479  
 (愛八師榮之君) 454  
 (愛八師) 466  
 ハタス(果)

はたさ(不果) 481  
 はたすき(皮爲酢寸) 307  
 はち(結之辱爲都) 401  
 ハツ(泊)  
 はて(榜將泊) 274  
 (泊師高津) 292  
 はつせ(長谷乎) 425  
 (泊瀬山) 428  
 (始瀬乃山) 420  
 はつせやま(白瀬山) 282  
 はつせをとめ(泊瀬越女) 424  
 はな  
 (花) 466 469 475 477 478  
 (花者) 330  
 (其花) 403  
 (花爾欲得) 306  
 (開有花之梅花) 399  
 (咲花乃) 328  
 (梅花) 400  
 (芽子花) 455  
 (花橘) 423  
 ハナツ(放)  
 はなつ(離放) 378



はは (彼母毛) 387  
 (母命) 443  
 ハバカル(憚)  
 はばかり(伊去波伐加利) 317 319  
 (伊去羽計) 321  
 (行憚而) 353  
 ハフ(匍匐)  
 はひ(匍匐多毛登保里) 458  
 ハフ(延)  
 はふ(延葛乃) 423  
 (根蔓室木) 448  
 はま (濱乃小松) 394  
 (濱眷奴) 294  
 (角鹿乃濱) 366  
 はまかせ(濱風) 251  
 はまづと(濱裏) 360  
 はままつ(濱松) 444  
 ハヤシ(早)  
 はやく(倭部早) 280  
 はやびと(隼人乃) 248  
 はやみ(風乎疾) 294  
 はら(天原) 317 379

はらから(勝野原) 275  
 (兄弟) 460  
 はる (春爾至婆) 257  
 (春日者) 324  
 ハル(張)  
 はり(張而懸有) 289  
 はるがすみ(春霞) 407  
 はるくさ(春草之) 239  
 はるびを(春日乎) 372

ヒ

ひ (日之盡) 372  
 (絶日) 243  
 (歲月日香) 443  
 (春日者) 324  
 (不泣日者無) 473  
 (立西日從) 443  
 (入日哉) 254  
 (不戀日) 408  
 (度日之) 317  
 (此日暮去者) 275  
 (彌日異) 475 478

ひ (燒火乃) 326  
 (燎火乎) 319  
 (火用消通都) 319  
 ひかり(光乏寸) 290  
 (照月乃光毛不見) 317  
 ヒカル(光)  
 ひかり(山佐倍光) 477  
 (夜光玉) 346  
 ヒク(引)  
 ひか(引者) 414  
 ひき(引豐國之) 311  
 ひさ (久有者) 311  
 (久者不有) 335  
 ひざ (膝折伏) 379  
 ひさかたの(久堅之) 379  
 (久堅乃) 239 240 420 475  
 (久方乃) 292  
 (久方) 260  
 ヒサシ(久)  
 ひさしく(長久) 315  
 さひしき(遠久寸) 431  
 ひさしみ(不相久美) 310

ひじり(聖跡負師) 339  
 (大聖) 339  
 ヒツ(濕)  
 ひづ(潤濕跡) 370  
 (霑者漬跡裳) 374  
 ひづち(濕打) 475  
 ひと (人不見者) 269  
 (人不榜) 258  
 (己具人奈四二) 257  
 (人乃渡毛) 319  
 (住氣類人會) 308  
 (昔人乎) 309  
 (七賢人) 340  
 (人跡不有者) 340  
 (酒不飲人乎) 344  
 (人者) 364  
 (人爾莫令蓋) 374  
 (人之言嗣) 382  
 (梁打人) 387  
 (人者雖云) 400  
 (人將解八方) 402  
 (人會言鶴) 420

(過去人) 427 463  
 (無人) 434 434 或云  
 (似人) 425  
 (人爾毛將告) 432  
 (有家武人) 431  
 (將歸人乃) 423  
 (愛人纏而師) 438  
 (纏人將有哉) 438  
 (武士登所云人者) 443  
 (待監人者) 443  
 (見之人) 449 448  
 (人毛奈吉) 451  
 (憑有之人乃盡) 460  
 ひとごと(人言) 436  
 (人事乎) 460  
 ひとつ(一有加母) 276  
 ひとつき(一坏) 333 345  
 ひとつひ(一日) 409  
 ひとり(獨可毛將去) 276 一本  
 (獨可毛將宿) 298  
 (獨宿名久二) 390  
 (獨爲而) 366

(獨而) 449  
 (獨過者) 450  
 (獨哉將宿跡) 463  
 (獨長夜乎將宿) 462  
 (直獨而) 460  
 (一宿者) 440  
 ひな (夷之長道) 255  
 ひのみこ(吾日之皇子乃) 239  
 (日之皇子) 260  
 ひのもと(日本之) 319  
 ひむがし(東市) 310  
 ひも(紐吹返) 251  
 (吾紐二付) 334  
 ひらのみなど(枚乃湖) 274  
 ひる(晝者毛) 372  
 (晝見騰) 297  
 ひれ(栲領巾) 285  
 ヒル(干)  
 ひ(令干) 384  
 (未干爾) 469  
 (鹽干去者) 360  
 (鹽干二家良進) 271



フ

- フ(經)
- へ(幾代將經) 355
- (時者經去) 469
- ふる(年經左右二) 443
- ふかみ(年深) 378
- フカム(深)
- ふかめ(根深目手) 397
- フク(吹)
- ふき(吹返) 256
- (將吹鳥) 462
- ふく(寒吹良武) 352
- フク(更)
- ふけ(夜者深去通都) 282
- (深去來) 274
- ふじ(不盡能高嶺) 317 318 319
- (不盡能高峯) 319
- (布士能高嶺) 317
- (布士能嶺) 321
- (不盡嶺) 320
- ふじかは(不盡河) 319
- フス(伏)

- ふせ(膝折伏) 379
- ふせや(廬屋立) 431
- ふたがみ(朋神之貴山) 332
- ふたつ(無二) 412
- ふたみ(二見自道) 276
- (二見之) 276 一本
- ふたり(二吾見之) 450
- (二作之) 450
- (二人) 466
- ふち(淵有毛) 335
- ふぢえ(藤江之浦) 252
- ふぢごろも(藤服) 413
- ふぢなみ(藤浪之) 330
- ふなき(船木伐) 391
- (船材乎) 391
- ふなで(船出爲而) 246
- ふなには(船爾波有之) 256 一本
- ふなのり(船乘將爲) 323
- ふなびと(船人) 283
- ふね(舟) 250
- (榜去師船) 351
- (遊船爾波) 237

- (船上) 258
- (榜來舟者) 260
- (吾船) 274
- (榜回舟者) 357
- フム(踐)
- ふみ(踐起) 478
- (履立) 478
- ふゆごもり(冬木成) 332
- フル(降)
- ふら(雨零者) 374
- (雨不零) 370
- ふり(落亂) 262
- (雨莫零行年) 299
- (霰零) 385
- (雪者落家留) 317
- (雪波零家留) 318
- (零置雪者) 320
- (零寸八) 460
- (零來雨) 265
- (布里家利) 320
- ふる(零雪) 299
- (落雪乎) 319

フル(振)

- ふり(振離見者) 239
- (振放見者) 317
- (心振起) 478
- (弓上振起) 364
- ふる(袖振妹乎) 376
- フル(古)
- ふり(故郷) 333
- (故去之里) 334
- フルシ(舊)
- ふるき(舊都) 305
- (舊京師) 324
- (舊堤者) 378
- ふるのやま(振乃山) 422
- ふるへ(古家乃里) 268
- ふるまひ(振麻比) 478
- へ(上) (瀧上乃) 338
- へ(助詞) (櫻田部鶴鳴渡) 271
- (奥部莫避) 271
- (倭部早) 280

ヘシ(複語尾)

- べく(應還) 459
- (可飲有良師) 333
- (可有良師) 347
- べし(可辛苦) 440
- べき(可悔心) 437
- (應祀) 406
- (念應過) 325
- (思過倍言) 422
- へつへ(邊津方) 257
- (邊都返者) 260
- へなみ(邊浪) 247
- ホ
- ほ(保爾曾出流) 326
- ほこすぎ(鉢楯) 259
- ホシ(欲)
- ほしき(懸卷欲寸妹名) 285
- ホス(干)
- ほさ(衣不干) 443
- (衣袖不干) 460
- ほととぎす(霍公鳥) 423

ほとほと(殆) 331

- ホル(穿)
- ほり(忌穿居) 379
- ホル(欲)
- ほり(欲爲物者) 340
- (欲見其玉) 403
- マ
- ま(何時間毛) 259
- (今生在間者) 349
- (客有間爾) 460
- (間無) 359
- (間無數鳴) 372
- ま(山際) 428 429 431
- まかち(真梶貫下) 366
- (真梶繁貫) 368
- マガフ(紛)
- まがふ(落亂雪) 262
- まから(今者將罷) 337
- まかり(退出而) 257
- (去出而) 260



まき (眞木之立) 241  
 (眞木葉) 291 431  
 マク(蔘)  
 まか(蔘) 384  
 (種益乎) 404  
 まき(種生之) 384  
 マク(卷、纏)  
 まか(將纏) 415  
 (手二卷四而有) 366  
 まき(卷難寸) 409  
 (卷以而) 436  
 (纏而師) 438  
 まく(纏人) 438  
 マクラク(枕)  
 まくらか(蔘枕) 439  
 まくらべ(枕邊) 420  
 マケリ(蔘有)  
 まけり(種有世伐) 405  
 マケリ(纏有)  
 まける(手二纏在) 424  
 まこと(眞貴久) 245  
 まさきく(眞幸有者) 388

(間幸座與) 443  
 マサル(益)  
 まさら(益目八) 345  
 まさり(益有良之) 341  
 (益旅而) 440  
 (益而) 451  
 マシ(複語尾)  
 ませ(知末世婆) 468  
 まし(食賜麻思) 475  
 (此間毛有益) 387  
 (種益乎) 404  
 (行益乎) 405  
 (塞毛置末思乎) 468  
 (召麻之乎) 454  
 (借益矣) 361  
 (不戀有益雄) 436  
 (潔身而麻之乎) 420  
 (令見麻思物乎) 466  
 (見手益物乎) 277  
 マジフ(交)  
 まじへ(貫交) 423 一云  
 ましらか(眞白髮爾) 481

ましろ(眞白衣) 318  
 マス(坐)  
 まさ(不來座) 418  
 (不座者) 457  
 (千歲爾麻佐武) 243  
 まし(渡來座而) 460  
 (慕來座而) 460  
 (隱益去禮) 460  
 ます(雲隱座) 441  
 (茂座大殿) 260  
 (敷座國) 460  
 ませ(神二四座者) 235  
 (神爾之坐者) 241  
 (間幸座與) 443  
 マス(益)  
 まし(益而戀石見) 382  
 ますらを(大夫之) 364  
 (大夫乃) 366  
 (大夫爾認有神) 406  
 (大夫之心) 478  
 マセリ(坐有)  
 ませる(敷座有) 329

まそかがみ(眞十鏡) 239

また(亦毛將見) 288

(今亦更) 483

(亦毛) 384

マタス(待)

またさ(待牟妹) 445

まつ(松之根也) 431

(吾松) 394

(小松) 394

(濱松) 444

(松樹) 309

マツ(待)

また(家待莫國) 426

まち(待鹿爾) 405

(待不得而) 268

(待監人) 443

まつ(將待香光) 370

まつ(將待會) 337

まつかぜ(松風) 257 260

まつちやま(亦打山) 298

まつばら(松原) 295

マツル(祭)

まつる(好應祀) 406

まつり(和細布奉) 448

マツル(奉)

まで(大宮之内二手) 233

(及常世) 260

(木足左右) 310

(生左右二) 259

(至流左右二) 420

(年經左右一) 443

マドホシ(間遠)

まどほく(間遠之有者) 413

まどほき(差間遠鳥) 302

まにま(任乃隨) 359

まにまに(君隨意) 412

まぬ(眞野乃榛原) 280

(眞野之榛原) 281 281

まぬ(眞野乃草原) 396

ましろ(眞白衣) 318

マス(坐)

まさ(不來座) 418

(不座者) 457

(千歲爾麻佐武) 243

まし(渡來座而) 460

(慕來座而) 460

(隱益去禮) 460

ます(雲隱座) 441

(茂座大殿) 260

(敷座國) 460

ませ(神二四座者) 235

(神爾之坐者) 241

(間幸座與) 443

マス(益)

まし(益而戀石見) 382

ますらを(大夫之) 364

(大夫乃) 366

(大夫爾認有神) 406

(大夫之心) 478

マセリ(坐有)

ませる(敷座有) 329

マヌカル(免)

まぬかれ(不免物) 460

まへ(前坐置而) 443

まま(眞々乃入江) 433

(眞間之手兒名) 431

(間間能手兒名) 432

まゐりくらく(朝樂毛) 262

マヲス

ませせ(志斐伊波奏) 237

ニ

み(身)(身著而) 336

(身在者) 466

み(實)(實之成名者) 399

み(海)(淡海乃海) 266

(近江海) 273

み(負見抱見) 481

みかさのやま(御笠乃山) 372

(三笠乃山) 373

みかど(神之御門) 443

(皇子乃御門) 478

(遠乃朝廷) 304



みかは(三河有) 276  
 (水河乃) 276 一本  
 みがほし(山四見容之) 324  
 みがほしやま(見杲石山) 332  
 みかもなす(水鴨成) 466  
 みかり(三獵立流) 239  
 みくさ(水草生家里) 378  
 みこ(名湯竹乃十緣皇子) 426  
 (御子乃命) 478  
 (皇子之命) 478 479  
 (皇子乃御門) 478  
 みこころを(御心乎) 478  
 みこし(御輿) 476  
 みこと(大王之命恐) 297 368  
 (王之命恐) 443  
 (天皇之命恐) 441  
 みこと(皇神祖之神乃御言乃) 322  
 (神之命) 379  
 (御子乃命) 475  
 (皇子之命) 475 479  
 (母命者) 443  
 みさご(美沙居) 362 363

ミス(令見)  
 みせ(令見麻思物乎) 468  
 (令見乍) 305  
 (令見都) 279  
 ミソグ(潔身)  
 みそぎ(潔身而麻之乎) 420  
 ミダル(亂)  
 みだり(多頭羽亂) 324  
 (亂而) 424  
 (亂出所見) 256  
 みち(其路) 331  
 (石村之道乎) 423  
 (二見自道) 276  
 (二見之自道) 276 一本  
 (活道乃路) 479  
 (行道) 468  
 (遊道爾冷者) 347  
 (雪消乃道矣) 333  
 みちのく(陸奥之) 396  
 みつ(三津乃海女) 293  
 ミツ(滿)  
 みた(令滿) 338

みち(滿闕爲家流) 442  
 みづ(水乃當鳥) 319  
 みづしま(水島) 245 246  
 みつのさき(三津埼) 249  
 みつみつし(見津見津四) 435  
 みどりこ(若子) 453 467  
 (綠兒) 431  
 みなか(國之三申從) 319  
 みなつき(六月十五日) 320  
 みなと(潮見) 253 一云  
 (枚乃湖) 274  
 (八十之湊) 273  
 みなとかげ(湖風) 352  
 みにく(痛醜) 344  
 みぬめ(敏馬) 250  
 (敏馬乃埼) 339  
 (敏馬能埼) 449  
 みね(嶺) 429  
 (嶺乃白雲) 377  
 みふね(三船乃登麻里) 247  
 みふねのやま(三船乃山) 242 243  
 (御船乃山) 244

みほ(三穗乃石室者) 367  
 (見穗乃浦) 296  
 (三保乃浦廻) 434  
 みもろ(三諸乃) 324  
 (御諸) 420  
 みや(行幸之宮) 315  
 (宮登定流) 417  
 (芳野乃宮) 315  
 みやこ(京師) 439 440  
 (京師所念) 329  
 (舊京師) 324  
 (京) 460  
 (舊都) 305  
 (久邇乃京) 475  
 (平城京乎) 330  
 (寧樂乃京師) 328  
 (寧樂京師) 331  
 みやこひき(今者京引) 312  
 ミヤコブ  
 みやこび(都備仁鷄里) 312  
 みゆ(三湯之上) 322  
 ミユ(見)

みえ(木立不見) 262  
 (光毛不見) 317  
 (不所見十方) 393  
 みゆ(所見) 253 255 一本 266 一本 270  
 (亂出所見) 256  
 (潮見) 253 一云  
 (暖所見) 336  
 (所見云物乎) 396  
 みゆる(棚引所見) 353  
 (背向爾所見奥島) 357  
 みよしぬ(三吉野之御船乃山) 244  
 (見吉野之) 313 315 353  
 ミル(見)  
 み(不見) 251  
 (不見跡云物乎) 805  
 (不見久有者) 311  
 (人不見者) 269  
 (不見而) 332  
 (不見敷) 331  
 (取毛不見久爾) 278  
 (欲見其玉) 403  
 (將見) 252 283

(將見每) 447  
 (後將見人) 364  
 (外爾可聞見牟) 423  
 (奉行見) 293  
 (行見爲) 332  
 (見賜) 376  
 (見渡者) 326  
 (見毛左可受) 450 一云  
 (外爾見之) 432  
 (昔見之) 316 332  
 (見之人) 446 446  
 (二吾見之) 450  
 (外爾毛見之加) 474  
 (相見之妹) 447  
 (相見染) 300  
 (見師鞆浦) 446  
 (妹之見師屋前) 469  
 (於保爾曾見谿流) 476  
 (見氏毛) 263  
 (見手益物乎) 277  
 (外爾見而思香) 393  
 (見都) 432



- (今日耳見哉) 416
- (見鶴鴨) 248 297
- (寬見乍) 296
- (背爾見乍) 353
- (四十耳見乍) 383
- (見乍) 460 464
- (君社見良目) 281
- みる(見知師無美) 366
- (天見如久) 239
- (相見如之) 309
- (每見) 324 453 473
- みれ(見者) 322 367 434 或云 449 479
- (今見者) 316
- (打出而見者) 318
- (振放見者) 317
- (振離見者) 289
- (汝乎見者) 309
- (打越見者) 272
- (熟見者) 344
- (島門乎見者) 304
- (見禮杼) 459
- (見杼) 466

- (見杼毛) 377
- (雖見) 239 307 319
- (晝見騰) 237
- (見十方) 434
- ミワタス(見渡)
- みわたせ(見渡者) 283
- みわのさき(神之埼) 265

△(複語尾)

- まく(千卷惜裳) 435
- (懸卷欲寸) 285
- (言卷毛) 475
- (掛卷母) 475
- (欲見其玉) 403
- (家待莫國) 426
- (啼耳鳴六) 482
- (將時) 384
- (將纏) 415
- (將枕) 439
- (將去) 246 276 一本
- (言繼將往) 317

- (神左備將往) 322
- (往卒妹) 445
- (將歸) 280
- (千歲爾麻佐武) 243
- (將隱乎) 269
- (天所知卒登) 476
- (將示) 279
- (將通) 324
- (思波卒) 432
- (將言爲便) 342 460
- (將云爲便) 481
- (相卒鴨) 427
- (今者將罷) 337
- (將宿) 298 462
- (語將告可) 448
- (此夜乃將明跡) 388
- (將告) 432
- (吾將宿) 275
- (將寄) 480
- (榜出卒) 388
- (榜將泊) 274
- (獨哉將宿跡) 463

- (競敢六鴨) 302
- (將譬) 351
- (將仕物常) 457
- (將定) 398
- (妹乎將留塞) 468
- (將超) 282
- (將蓋) 374
- (將見) 288
- (將見每) 447
- (外爾可聞見卒) 423
- (後將見人) 364
- (將爲便) 342 481
- (將爲登) 423
- (將爲須辨毛奈思) 466
- (將爲須做) 460
- (將爲須便毛奈思) 475
- (左右將爲) 399
- (將有) 285 386
- (將有登會) 442
- (常將有等) 242
- (伊香爾安良卒) 285 一云
- (所燒乍可將有) 269

- (共將有跡) 481
- (不改將有) 315
- (將有乎) 467
- (從手不離有卒) 403
- (有卒) 428
- (不見歟將成) 331
- (將吹鳥) 462
- (雲隱去卒) 416
- (將成時爾) 398
- (將死還生) 327
- (成奈武) 348
- (酒二染菅) 343
- (△を加へてよむもの)
- (見行) 293
- (榜△與) 260
- (家裏爲△) 306
- (行見△爲) 332
- (何矣示△) 360
- (名津匝來△與) 443
- (何在△) 443
- (孰不戀有米) 393
- (將出八方) 301

- (豈若目八方) 346
- (將變八方) 331
- (益目八) 345
- (枝將有八方) 400
- (將有八方) 410
- (將所忘八方) 447
- (立目八方) 247
- (將見哉) 438
- (人將解八方) 402
- むかし(昔) 474
- (昔見之) 316 332
- (昔者社) 312
- (昔人) 309
- むこのうみ(武庫乃海) 256 一本
- むこのうら(武庫浦) 358
- むこのとまり(六兒乃泊) 283
- むかぶす(天雲之向伏國) 443
- むささび(卒佐佐婢) 267
- むし(蟲爾鳥爾毛) 348
- ムス(生)
- むす(生左右二) 259
- ムス(咽)



むせ(情咽都追) 453  
ムスブ(結)  
むすび(結而石事) 481  
(結之情) 397  
(妹之結紐) 251  
むつたま(親魂) 417  
ムナシ(空)  
むなしき(空物) 451  
(空物) 442  
むね (曾已所痛) 466  
むらさき(生流紫) 395  
むろのき(室木) 447 448  
(天木香樹) 446  
メ  
め(目)(目不離) 300  
め(女)(手弱寸女) 419  
め(和布)(軍布疋) 278  
メグラス(廻)  
めぐらし(伊與爾回之) 388  
メグル(轉)  
めぐる(往轉留鴨) 390

(名付而有毛) 319  
(人乃渡毛) 319  
(言卷毛) 475  
(掛卷母) 475  
(掛卷毛) 478  
(稻日野毛去過勝爾) 253  
(石村毛不過) 282  
(塞毛置末思乎) 468  
(手力毛欲得) 419  
(如此毛欲得) 478  
(宅乎毛造) 460  
(哭乎毛置而) 481  
(祖名文) 443  
(鳥爾毛) 348  
(其花爾毛我) 408  
(人爾毛) 432  
(外爾毛見之加) 474  
(杖策毛不衝毛去而) 420  
(寶十方成有山) 319  
(鎮十方座祇) 319  
(家從裳出而) 481  
(靈母座神) 319

メス(召)  
めさ(召麻之乎) 454  
めし(召集聚) 478  
メス(見爲)  
めし(見爲明米之) 478  
(見之活道乃路) 478  
(食賜麻思) 475  
メヅラシ(珍)  
めづらし(目頰四) 377  
めづらしき(益目頰四寸吾於富吉美) 239  
モ  
も(助詞)(天雲毛) 319 321  
(爾波母之頭氣師) 388  
(吾命毛) 332  
(妹毛) 437 470  
(巨木毛) 322  
(妹母我母) 276  
(日之陰毛隱比) 317  
(梶棹毛) 257  
(竿梶母無而) 260 或云

(奇母神左備居賀) 245  
(悲喪有香) 459  
(速來而母) 277  
(在管裳) 324  
(戀哭爲鴨) 373  
(言毛不得名付毛不知) 466  
(翔毛不上) 319  
(取毛不見久爾) 278  
(見毛左可受) 450 一云  
(苦毛零來雨可) 265  
(遠毛吾者) 248  
(手折而毛) 466  
(見氏毛和我歸) 263  
(痛毛爲便奈美) 456  
(亦毛將見) 288  
(亦毛將時) 334  
(此方彼方毛君之隨意) 412  
(遂毛死物) 349  
(此間毛有益) 387  
(今毛安里家禮騰) 308  
(昨日毛今日毛吾乎麻召之乎) 454

(情毛不行) 466  
(似人母逢耶) 426  
(情毛思努爾) 266  
(心神毛奈思) 457  
(情神毛奈思) 471  
(飛鳥母翔毛不上) 319  
(鳴鳥之音毛不更) 322  
(白雲毛) 243  
(白雲母) 317  
(將爲須便毛奈信) 475  
(將爲須辨毛奈思) 466  
(吾勢毛) 276 一云  
(都禮毛奈吉) 460  
(咲花毛) 478  
(彼母毛) 337  
(光毛不見) 317  
(有雲知之) 258  
(人毛奈吉) 451  
(七賢人等毛) 340  
(物念毛奈信) 296  
(家裳不有國) 265  
(吾毛) 276 一云 432 437 470

(後毛吾松) 394  
(何時間毛) 259  
(何時間何時毛) 398  
(何時毛將超) 282  
(何時毛將有乎) 467  
(今毛可毛等奈) 356 或云  
(言耳毛) 431  
(畫者毛日之盡) 372  
(夜者毛夜之盡) 372  
(津乎能琦羽毛) 352  
(如此谷裳) 379  
(如此谷母) 380  
(名耳母) 431  
(家八方何處) 287  
(獨可毛將宿) 298  
(獨可毛) 276 一云  
(安禮爾家留可毛) 307 一云  
(情悲裳) 450  
(惜裳) 435  
(悲霜) 434 一云  
(朝樂毛) 262  
(涕具末之毛) 449



(不樂毛) 257  
 (佐夫之毛) 260 或云  
 (不忍都毛) 472  
 (我聞都流母) 420  
 (忘不得裳) 397  
 (白不母) 264  
 (問之君波母) 455  
 (一有加母) 276  
 (釣爲良下) 357  
 (家戀良霜) 365  
 (モを加へてよむもの)  
 (跡無) 466  
 (名不知) 319  
 (衣不于) 443  
 (言不得) 319  
 (木立不見) 262  
 (今日可聞) 356  
 もだ(默然)(默然居而) 350  
 もち(十五日)(六月十五日) 320  
 モツ(持)  
 もた(心者不持) 437  
 もち(奥爾持行而) 327

(久具都持玉藻將刃) 293  
 (火用消通都) 319  
 (取持) 443  
 (取持而) 408  
 (手取持而) 380 420  
 (我袖用手) 269  
 (卷以而) 436  
 (石卜以而) 420  
 (雪以滅) 319  
 もと(鉾楯之本) 259  
 もとな(令見乍本名) 305  
 (今毛可毛等奈) 356 或本  
 モトホル(低徊)  
 もとほり(伊波比毛等保理) 239  
 もとほれ(鶉己曾伊波比回禮) 239  
 モトム(求)  
 もとむ(求跡) 267  
 もの(驗無物乎不念者) 338  
 (物念者) 333  
 (賢跡物言從者) 341  
 (極貴物者) 342  
 (靈寸物香) 388

(空物) 442  
 (死物爾有者) 349  
 (物爾之有者) 460  
 (辭不問物爾波在跡) 481  
 (欲爲物者) 340  
 (聞跡云物曾) 369  
 (繼往物與) 443  
 (將仕物常) 457  
 (見手益物乎) 277  
 (不見跡云物乎) 305  
 (所見云物乎) 396  
 (田菜引物緒) 321  
 (知物乎) 465  
 (思之物乎) 392  
 (座之物乎) 460  
 (令見麻思物乎) 466  
 (有家留物乎) 470  
 (有家類物乎) 455  
 ものおもひ(物念毛奈信) 296  
 ものこほしき(物戀敷爾) 270  
 ものふ(物乃部能) 264  
 (物部乃) 369

(武士) 448  
 (物乃負能) 478  
 もふ(思)  
 もふ(思家登) 381  
 (曾許念爾) 466  
 もみぢば(黃葉) 423 459  
 ももしきの(百儀城之) 257  
 (百式乃) 260  
 (百式紀乃) 323  
 ももたらす(百不足) 427  
 ももづたふ(百傳) 416  
 モユ(燃)  
 もえ(所燒乍) 269  
 もゆる(燎火乎) 319  
 や  
 や(矢)(射都流矢乎) 364  
 や(助詞)(眞木葉哉) 431  
 (松之根也) 431  
 (山矣耶) 482  
 (入日哉) 354  
 (獨哉將宿跡) 463

(親魂相哉) 417  
 (今日耳見哉) 416  
 (家八方向處) 287  
 (霧有哉) 429  
 (零寸八) 460  
 (御念八君) 330  
 (逢耶) 425  
 (安良米也) 243  
 (咲而有哉) 455  
 (將有哉) 488  
 (益目八) 345  
 やし(助詞)(愛八師榮之君) 454  
 (愛八師) 466  
 やきつべ(燒津邊) 284  
 ヤク(燒)  
 やき(鹽燒) 278  
 やく(鹽燒火氣) 354  
 (鹽燒炎) 366  
 やくもさす(八雲刺) 430  
 やしろ(神之社) 404  
 (社師留焉) 405  
 やすみし(八隅知之) 239 260

(安見知之) 329  
 やそ (八十之湊) 273  
 やそ(うぢがは(八十氏河)) 264  
 やそくまさか(八十隅坂) 427  
 やそ(ものを(八十伴男)) 478  
 やつりやま(八釣山) 262  
 やど(家門) 255 一本  
 (吾屋戸) 384 420  
 (屋前爾) 410 469  
 (屋前能) 411  
 (屋前) 464  
 やどり(宿爾) 426  
 ヤドル  
 やどら(吾將宿) 275  
 やな(梁者不打而) 386  
 (梁打人) 387  
 やま(山) 301 324 477 481 482  
 (山四見容之) 324  
 (山爾棚引) 354  
 (寶十方成有山可聞) 319  
 (白雲乃棚引山) 287  
 (其山之) 319



(彼山之) 319  
 (其山爾) 401  
 (貴山乃) 382  
 (山能佐都雄) 267  
 (山際) 428 429 481  
 (山之末爾) 398  
 (山可良之) 315  
 (春日山之) 372  
 (高城乃山爾) 353  
 (筑羽乃山矣) 382  
 (始瀨乃山) 420  
 (泊瀨山) 428  
 (振乃山) 422  
 (御笠乃山爾) 372  
 (吉野山) 429  
 やまかげ(山影爾之氏) 375  
 やまがくり(山隠都禮) 471  
 やました(山下) 270  
 やましろ(山背) 277  
 (山代) 481  
 やまち(山道) 466  
 やまと(山跡國) 319

(倭部早) 280  
 (日本) 389  
 (日本師所念) 359  
 (日本思權) 367  
 やまとしま(倭島) 255  
 やまとしまね(山跡島根者) 303  
 (日本島根) 366  
 やまべ(山邊) 460 475  
 やまみち(山道尙矣) 382  
 やまもり(山守) 401  
 (山主) 402  
 ヤム(止)  
 やま(不止將通) 324  
 (不止) 411  
 やめ(止者) 373  
 やも(助詞)(豈若目八目一云八方) 346  
 (將出八方) 301  
 (立目八方) 247  
 (將變八方) 331  
 (人將解八方) 402  
 (將所忘八方) 447  
 (枝將有八方) 400

(將有八方) 410  
 (不言八方) 424  
 (差間遠鳥) 302  
 ヤル(遣)  
 やる(情乎遣爾) 346  
 ヌ  
 ゆ (湯者霜) 322  
 ヌ(複語尾)  
 え (將所忘八方) 447  
 (所云人者) 443  
 ゆ (所泣) 456  
 ゆらく(所念久爾) 468  
 ゆ(助詞)  
 (田兒之浦從) 318  
 (國之三中從) 319  
 (從明日香) 423 一云  
 (二見自道) 276  
 (二見之自道) 276 一本  
 (角鹿乃濱從) 366  
 (繩浦從) 357  
 (開乃門從者) 388

(野坂乃浦從) 246  
 (新羅國從) 460  
 (六兒乃泊從) 283  
 (山際從) 429  
 (夷之長道從) 255  
 (浪上從所見) 256 一本  
 (家從者) 461  
 (家從裳出而) 481  
 (從手不離有牟) 403  
 (分時從) 317  
 (明日從) 423  
 (雪驟) 262  
 (雪者落家留) 317  
 (雪波零家留) 318  
 (零雪乃) 299  
 (落雪乎) 319  
 (零置雪者) 320  
 (雪以滅) 319  
 ゆき(行)(吾行者) 335  
 ゆき (靱) 478 480  
 ゆきげ(雪消爲山道) 332  
 (雪消乃道矣) 383

ゆきじもの(白雪仕物) 260  
 ヌク(行、往)  
 ゆか(將去) 246 276 一本  
 (將歸) 280  
 (言繼將往) 317  
 (神左備將往) 322  
 (行益乎) 405  
 (不行) 466  
 ゆき(行過不得而) 354  
 (往轉留) 390  
 (奧爾持行而) 327  
 (暮越行而) 298  
 (行憚而) 353  
 (去過勝爾) 253  
 (去而) 420  
 (行見爲) 332  
 (率行見) 293  
 (往來乍) 260  
 (伐歸都) 391  
 (往過奴禮婆) 481  
 (吾去鹿齒) 284  
 (將歸人) 423

(疾打莫行) 263  
 ゆく(天歸月) 240  
 (旅去吾乎) 252  
 (和我歸志賀) 263  
 (繼往物與) 443  
 (出行道) 468  
 ゆけ(榜手回行者) 273  
 (吾超去者) 291  
 (榜行者) 366  
 (打越去者) 365  
 ゆくさ(往左) 281  
 (去左爾波) 450  
 ゆくへ(去邊) 264  
 ゆすゑ(弓上振起) 364  
 ヌタケシ(寬)  
 ゆたけき(寬見乍) 296  
 ゆひ (結之辱) 401  
 ゆふ (木綿) 376 443  
 ゆふ (暮越行而) 298  
 (夕去者) 354  
 (暮去者) 388  
 (夕不離) 356



ユフ(結)

- ゆひ(將結標) 402
  - (標結立而) 401
  - (吾標結之杖) 400
  - (印結而) 394
- おふ(標耳曾結焉) 478
- ゆふがり(暮獵) 478
- ゆふぎり(夕霧丹) 324
- ゆふけ(夕衢占) 420
- ゆふたすき(木綿手次) 420
- ゆふたたみ(木綿疊) 380
- ゆふなみちどり(夕浪千鳥) 266
- ゆふべ(夕) 481
  - (此暮) 386
- ゆふやみ(晚闇跡) 460
- ゆめ(浪立莫勤) 246
  - (此暮) 386
- ユユシ(忌)
- ゆゆしき(齋忌志伎可物) 475
  - (如是故爾) 305
  - (殖而師故二) 411
  - (不相兒故荷) 372

ヨシ(吉、好)

- よく(熟見者) 344
- (庭好有之) 256
- (好爲而) 381
- (好應祀) 406
- よし(吉跡) 460
- よしぬ(芳野乃宮) 315
- (吉野爾有) 375
- (吉野山) 429
- (吉野川) 430
- ヨス(寄)
- よせ(將寄) 480
- よする(緣流白浪) 288
- よすか(因鹿) 481
- (因香) 482
- よそ(外爾毛見之加) 474
  - (外爾) 423
  - (外爾見而思香) 393
  - (四十耳見乍) 383
  - (外爾見之) 482
- ヨソフ(裝)
- よそひ(裝束而) 475

- よのなか(世間) 347 351 420 442 466 472 478
- よなばり(夜隱爾) 290
- ヨバフ(喚)
- よばひ(鴨妻喚) 257 260
  - (朝夕) 443 456 458
- よびこゑ(呼聲) 283
- ヨブ(呼)
- よば(妹者不喚) 286
  - ヨミガヘル(蘇)
- よみがへり(將死還生) 327
- よみち(夜路) 289
- より(助詞)(自明門) 255
  - (天原從生來) 379
  - (神代從) 382
  - (立西日從) 443
  - (從今者) 462
  - (物言從者) 341
- よる(夜光玉) 346
  - (夜者毛) 372
  - (夜見鶴鳴) 297
- ヨル(依)
- よる(依浪) 359

ヨロシ(宜)

- よろし(宜奈倍) 286
- よろしき(島山之宜國跡) 322
- よろしき(言乃宜左) 339
- よろづよ(萬代爾) 315 475 478 480
  - (萬世) 423
- ラ
- ら(憶良等者) 337
- (出雲兒等) 429
- (出雲子等我) 430
- (立動良之) 388
- (家戀良霜) 365
- (釣爲良下) 357
- (酒西有良師) 340
- (酒西有良之) 342
- (益有良之) 341
- (可飲有良師) 338
- (可有良師) 347
- ラム(複語尾)
- らむ(子將哭) 337
- (寒吹良武) 352

ル

- ル(複語尾)
- れ(所言奚米) 312
- ロ
- ろ(助詞)(悲呂可聞) 478
- ワ
- わ(吾乎將待會) 337
- わが(吾王) 329 476 477 478
- (吾大王) 239 260 420
- (吾於富吉美可聞) 239
- (我大王) 240 295



(吾日乃皇子) 239  
 (吾背乃君) 286  
 (吾命) 288 331  
 (吾盛) 331  
 (吾黑髮乃) 481  
 (吾手枕) 438  
 (吾紐) 334  
 (吾屋戸) 384 420  
 (吾屋前) 406  
 (吾佐保河) 371  
 (吾山齋) 452  
 (吾船) 274  
 (吾松) 394  
 (吾去鹿齒) 284  
 (我榜行者) 366  
 (吾泣) 458  
 (我聞都流母) 420  
 (和我歸志賀) 263  
 (吾行者) 335  
 (吾泣淚) 465 469  
 (吾聞都流) 420  
 (我袖用手) 269

(和我不念久爾) 242  
 (我思莫苦二) 244  
 (吾超去者) 291  
 (名積叙吾來並二) 332  
 (吾標結之枝) 400  
 (吾祭神) 406  
 (我定義之) 394  
 (一吾見之) 450  
 (念會吾爲流) 372  
 (我乘有) 395  
 わかこもを(弱薦乎) 239  
 わがせこ(和我世故我) 247  
 (吾背子我) 268  
 ワカル(別)  
 わかれ(將別) 254  
 (天地之分時從) 317  
 (手本矣別) 481  
 (別不勝鶴) 276  
 ワキハサム(腋挾)  
 わきはさむ(腋挾兒乃) 481  
 わぎみ(吾君) 376 377  
 わぎも(吾妹) 467 471

わぎもこ(吾妹子) 402 446 453 481 483  
 (吾妹兒) 279 411  
 わくご(久米能若子) 307 435  
 ワスル(忘)(四)  
 わすら(將所忘八方) 447  
 (不所忘) 431  
 ワスル(忘)(下二)  
 わすれ(不忘之爲) 334  
 (忘不得裳) 397  
 (國忘有) 426  
 わすれぐさ(萱草) 334  
 わた (筑紫乃綿) 336  
 わだ (夢乃和太) 335  
 ワタス(渡)  
 わたせ(見渡者) 326  
 わたつみ(海若) 327 388  
 (綿津海) 366  
 わたり(狹野乃渡) 265  
 ワタル(渡)  
 わたり(渡來座而) 460  
 わたる(鶴鳴渡) 271  
 (人之渡毛) 319

(夜渡月) 302  
 (度日之) 317  
 わつかそまやま(和豆香蘇麻山) 476  
 わつかやま(和豆香山) 475  
 ワル(破)  
 わる(石戸破) 419  
 (吾者) 248 431  
 (旅去吾乎) 252  
 (吾羽成奈武) 348  
 (吾者祈奈牟) 379  
 (吾者乞嘗) 380  
 (吾毛見都) 432  
 中  
 ゐなか(居中跡所言奚米) 312  
 ゐなぬ(猪名野) 279  
 ゐまちづき(座待月) 388  
 キル(居)  
 ゐ (居而) 372 410 443  
 (穢隱居而) 388  
 (入居嘆舍) 481  
 (雙居) 466

ゐる(居雲) 242

(美沙居) 362  
 (美沙居荒穢) 363  
 工  
 ゑひなき(醉哭爲師) 341  
 (醉哭爲爾) 347  
 (醉泣爲爾) 350  
 ゑまひ(啖比) 478  
 フ  
 を(緒)(年緒長久) 460  
 (玉緒) 481  
 を(助詞)(格助詞)(旅去吾乎) 252  
 (吾乎召麻之乎) 454  
 (吾乎將待會) 337  
 (寒朝開乎) 361  
 (粟島矣) 358  
 (齊忌戸乎) 443  
 (齊戸乎) 379 420  
 (宅乎毛造) 460  
 (妹乎) 300 376 423

(袖振將留) 468

(袖振妹乎) 376  
 (手本矣別) 481  
 (梅乎) 392  
 (春日野乎) 460  
 (象乃小河乎) 316  
 (象小河乎) 332  
 (君乎) 425 一云  
 (君乎婆) 423  
 (樹村乎見者) 344  
 (賢良乎爲跡) 344  
 (御心乎) 478  
 (此乎) 443  
 (此崎乎獨過者) 450  
 (濁酒乎) 333  
 (薩摩乃迫門乎) 248  
 (故去之里乎) 334  
 (佐保河乎) 460  
 (鹽乎令干) 388  
 (鹽乎令滿) 388  
 (島門乎見者) 304  
 (將結標乎) 402



(白浪乎) 383  
 (菅根乎) 414  
 (磐本背乎) 397  
 (其乎見杼) 466  
 (竹玉乎) 379 420  
 (筑羽根矣) 388  
 (筑波乃山矣) 382  
 (布士能高嶺乎) 317  
 (布士能嶺乎) 321  
 (橋乎) 410  
 (花橋乎) 423  
 (其玉乎) 403  
 (吾手枕乎) 438  
 (誰手本乎可) 439  
 (天歸月乎) 240  
 (射狹夜歷月乎) 393  
 (妹手乎取) 385  
 (八十伴男乎) 478  
 (汝乎見者) 309  
 (妹名乎) 285  
 (酒名乎) 339  
 (何矣示) 360

(長谷乎) 425  
 (燎火乎) 319  
 (昔人乎) 309  
 (見之人乎) 448  
 (酒不飲人乎熟見者) 344  
 (人事乎) 460  
 (船材乎) 391  
 (石村之道乎) 423  
 (敏馬乎過) 260  
 (敏馬乃琦乎) 389  
 (敏馬能琦乎) 449  
 (寧樂京師乎) 331  
 (平城京乎) 330  
 (舊都乎) 305  
 (御諸乎立而) 420  
 (手結之浦矣) 367  
 (武庫浦乎) 358  
 (驗無物乎) 333  
 (黃葉乎) 423  
 (若子乎置而) 467  
 (矢乎後將見人) 364  
 (山矣耶) 482

(入爾之山乎因鹿跡叙念) 481  
 (雪消乃道矣) 383  
 (鏡山乎) 417  
 (凝敷山乎) 301  
 (此勢能山乎) 381  
 (白雲乃棚引山乎) 287  
 (山道乎指而) 466  
 (奧爾念乎) 276  
 (哭乎毛置而) 481  
 (日本島根乎) 366  
 (山邊乎指而) 460  
 (落雪乎) 319  
 (長夜乎) 462 463  
 (惜此世乎) 443  
 (世間乎) 351  
 (弱薦乎) 239  
 (吾妹乎停不得) 471  
 (處女乎) 250 一云  
 (鳴鴨乎) 416  
 (情乎遣爾) 346  
 (奧柳乎) 431  
 (ヲを加へてよむもの)

(釣爲良下) 357  
 (海成可聞) 241  
 (神祇乞禱) 443  
 (風乎疾) 294  
 (吉志美我高嶺乎) 385  
 (浪矣恐) 249  
 (浪乎恐美) 388  
 (山道尙矣) 382  
 (逢因矣無) 483  
 (効矣無跡) 481  
 (春日乎) 372  
 (船材乎) 391  
 (御心乎) 478  
 (棕橋乃山乎高可) 290  
 (樂乎有名) 349  
 (差間遠鳥) 302  
 (將吹鳥) 462  
 (將隱乎) 269  
 (將有乎) 469  
 (塞毛置末思乎) 468  
 (種益乎) 404  
 (行益乎) 405

(借益矣) 436  
 (召麻之乎) 451  
 (不戀有益雄) 436  
 (潔身而麻之乎) 420  
 (田菜引物緒) 321  
 (不見跡云物乎) 305  
 (所見云物乎) 396  
 (知物乎) 465  
 (令見麻思物乎) 466  
 (見手益物乎) 277  
 (座之物乎) 460  
 (思之物乎) 392  
 (有家類物乎) 455  
 (有家留物乎) 470  
 (佐農能崗) 361  
 (象乃小河乎) 316  
 (象小河) 332  
 (をぐし(髮梳乃少櫛) 278  
 (ヲサム(藏) 360  
 (をさめ(菘藏) 258  
 (をし(菘) 258  
 (ヲシ(惜)

(をし(干卷惜裳) 435  
 (をしき(惜此世) 443  
 (をしけむ(將惜) 299  
 (ヲツ(變)  
 (をち(復將變八方) 331  
 (をとこ(臣之壯士) 369  
 (をの(獵路乃小野) 239  
 (をのこじもの(雄自毛能) 481  
 (をぶね(撈轉小舟) 358  
 (乏小舟) 358  
 (ヲリ(居)  
 (をり(默然居而) 350  
 (戀乍居寸) 370  
 (をる(神佐備居賀) 245  
 (ヲル(折)  
 (をら(不折) 392  
 (をり(折挿頭跡) 423  
 (ヲロガム(拜)  
 (をろがみ(伊波比拜) 239  
 (をろがめ(十六社者伊波比拜目) 239  
 (ヲル(撓)  
 (ををり(花咲乎爲里) 475



漢字索引

一部

一(ヒトツ)一有加母 276  
 (ヒト)一杯 538  
 一日 545  
 (ヒトリ)一宿者 409  
 一手(カタテ)一手者 440  
 七(ナナ)七賢人 443  
 七相管 340  
 (ナ)安良七國 420  
 三(ミ)三笠乃山 263  
 三河有 373  
 三津 276  
 三津崎 293  
 三船乃山 249  
 三穗乃石室 242  
 三諸乃神名備山 245  
 三吉野 507  
 三船 524  
 三湯 522

漢字索引

國之三中

三獵

難三等

高三

上(ウヘ)雷之上

礮上

石穗乃上

瀧上

濱松之上

船上

三湯之上

(〜)

瀧上

浪上

(カミ)石上

(ノボラ)翔毛不上

下(シタ)山下

(シモ)爲良下

(オロシ)貫下

不(フ)不盡河

519 566 557 270 564 519 422 256 538 522 258 444 242 420 448 255 414 414 259 519  
 一本 421

(ズ)

不盡能高嶺

不盡能高峯

不盡嶺

物乎不念者

不成者

不見者

不有者

不飽伊座之

不撈

不如來

不衡毛

不開

不干

情毛不行

不果

不打而

不止將通

不相久美

不言八方

不改

一

515 424 510 524 586 481 466 443 236 420 550 258 459 343 269 411 538 520 519 517  
 518 519 460



不更 322  
 不去 325  
 朝不離 372  
 夕不離 423  
 不成而 356  
 百不足 335  
 不取香聞將有 427  
 翔毛不止 386  
 雨不零 319  
 不折來家里 370  
 不服而 392  
 不見 269  
 不見而 254  
 不見而 262  
 不見而 317  
 不見敷將成 382  
 不見久有者 311  
 不過 331  
 不懲而 384  
 言毛不得 466  
 言不得 319  
 不告 445  
 不遂 481  
 目不離 300

不來座 418  
 神者不有 406  
 時爾不在之天 443  
 不所見十方 443  
 白不母 264  
 名不知 319  
 不知 342  
 有家留不知爾 466  
 不知爾 481  
 不飽田兒浦 401  
 不飽鴨 460  
 不飽香聞 297  
 不泣日 460  
 不相兒 401  
 不思爾 342  
 辭不問物 319  
 酒不飲人 307  
 不戀日 297  
 留不得 460  
 不免物 401  
 不忘之爲 342  
 不座者 466  
 481

不思者 476  
 雖不知 513  
 不勝宿者 388  
 不有跡 441  
 (ナク)不念久爾 242  
 不知苦 419  
 不知久 323  
 不見久爾 278  
 不有國 323  
 (ナクニ)不所忘 431  
 (ジ)不持 265  
 不相可聞 278  
 不相鴨 323  
 不喚 419  
 不止 242  
 不絕等 441  
 不絕射妹 286  
 久者不有 380  
 (カネ)不忍都毛 379  
 (不有)不戀有益雄 437  
 不戀有米 457  
 不離有牟 431

世(セ)

(不聽) (イナ) 不聽 236  
 (不樂) (サフシ) 不樂毛 257  
 (不恰) (サフシ) 不恰 434  
 (不知) (イサ) 不知代經 264  
 (不得) (カネ) 待不得而 268  
 行過不得而 354  
 停不得 471  
 (カネツ) 忘不得裳 397  
 (不勝) (カネ) 超不勝而 301  
 別不勝鶴 276  
 和我世故 247  
 伊麻世 381  
 告世 363  
 有世婆 466  
 無有世伐 587  
 種有世伐 404  
 知末世波 405  
 世 (ヨ) 468  
 惜此世 482  
 新世 445  
 常世 481  
 萬世 261  
 446

(世間) (ヨノナカ) 世間 547

部 350  
 420  
 442  
 466  
 472  
 478  
 中(ナカ) 中爾立置而 588  
 荒山中 241  
 國之三申 319  
 居中 512  
 中中二 345  
 (ウチ) 國中 529  
 部 328  
 丹(ニ) 青丹吉 481  
 丹杵火爾之 328  
 狹丹頰布 420  
 於丹 448  
 磯上丹 324  
 夕霧丹 448  
 無人思丹 434  
 主(山主) (ヤマモリ) 山主 402  
 乃(ノ) 開乃門 588

赤乃曾保船 270  
 葦北乃 246  
 足水木乃 460  
 足日木乃 267  
 足檜木乃 463  
 明日香河乃 477  
 淡海乃海 356  
 阿倍乃市道 284  
 阿倍乃島 359  
 天雲乃 420  
 天地乃神祇 443  
 荒玉乃 460  
 活道乃路 479  
 射狹庭乃崗 322  
 出來月乃光 290  
 稻見乃海 305  
 廬前乃 298  
 廬原乃 296  
 石穗乃上 420  
 夢乃和太 421  
 鬱蟬乃 335  
 打蟬乃 443  
 466



打背見乃 432  
 飲海乃 371  
 奧山乃 379  
 大荒城乃時 441  
 香具山乃 554  
 笠乃山 574  
 春日山乃 572  
 勝牡鹿乃 451  
 甲斐乃國 519  
 神乃香山 260  
 神乃御言 522  
 髮梳乃少櫛 278  
 獵路乃小野 259  
 象乃小河 516  
 清之河乃 437  
 清見之崎乃 296  
 久邇乃京 475  
 悔事乃 420  
 棕橋乃山 290  
 飼飯海乃 256  
 越海乃 367  
 已知其智乃 519

言乃宜左 539  
 隱江乃 249  
 隱久乃 420  
 隱口乃 424  
 相樂山乃山際 481  
 樂浪乃 505  
 薩摩乃迫門 248  
 狹野乃渡 265  
 佐保乃山邊 460  
 志賀乃大津 288  
 布細乃 460  
 敷細乃 461  
 志都乃石室 555  
 倭文幡乃帶 451  
 鹽干乃 295  
 鹽燒衣乃 415  
 白菅乃 280  
 白栲乃 252  
 須麻乃海人 415  
 墨吉乃 285  
 清江乃 295  
 住吉乃 594

其鳥乃 572  
 其夜乃梅 592  
 高城乃山 555  
 高島乃 275  
 伊豫能高嶺乃 522  
 高山乃 420  
 瀧上乃淺野 588  
 瀧乃白浪 515  
 梶角乃 460  
 梶領中乃 285  
 貴山乃 582  
 玉梓乃 420  
 玉藻乃於 445  
 帶乳根乃 590  
 都賀乃樹 524  
 筑紫乃綿 556  
 筑羽乃山 582  
 角鹿乃濱 566  
 遠乃朝廷 504  
 豐國乃 417  
 夏草乃 250  
 夏實之河乃 575

名乘藻乃 562  
 繩乃浦 554  
 奈麻餘美乃 519  
 浪乃去邊 264  
 寧樂乃手祭 500  
 寧樂乃京師 528  
 野坂乃浦 246  
 野島之前乃 251  
 野干玉乃 502  
 始瀨乃山 420  
 隼人乃 248  
 濱乃小松 594  
 久堅乃 239  
 久方乃 292  
 人乃盡 460  
 一杯乃濁酒 538  
 枚乃湖 545  
 振乃山 274  
 古家乃里 268  
 大夫乃手結我浦 566  
 眞野乃草原 596  
 眞野乃榛原 280

眞眞乃入江 455  
 御笠乃山 572  
 三笠乃山 575  
 水河乃 276  
 皇子乃御門 475  
 皇子乃御門乃 478  
 御子乃命 475  
 皇子之命乃 479  
 水乃當 519  
 敏馬乃崎 589  
 嶺乃白雲 577  
 三船乃登麻里 247  
 三船乃山 242  
 御船乃山 244  
 三穗乃石室 507  
 三穗乃浦 296  
 見穗乃浦 434  
 三保乃浦廻 524  
 三諸乃神名備山 524  
 三湯之上乃 522  
 武庫乃海 256  
 六兒乃泊 285  
 物乃部 264

物乃負能 477  
 物部乃臣之壯士 569  
 百式乃 260  
 百式紀乃 或云  
 燒火乃 525  
 八十氏河乃 264  
 山代乃 431  
 山跡國乃鎮 519  
 雪消乃道 585  
 任乃隨 569  
 芳野乃宮 515  
 吾背乃君 286  
 吾日乃皇子 239  
 綿津海乃手 566  
 秋風乃寒 561  
 海女乃 295  
 天地乃 420  
 寢乃不勝宿者 588  
 石船乃 292  
 宇乃住石 559  
 殖木乃木足左右 510  
 大宮人乃 257



神乃御言乃敷座 291  
 荊薦乃 299  
 草根乃千卷 423  
 田葛根乃 319  
 榮之君乃 425  
 咲花乃 454  
 佐保河乃 423  
 白雲乃 477  
 杉村乃 422  
 小彥名乃 287  
 爲便乃不知苦 371  
 立霧乃 528  
 柘之左枝乃 477  
 露霜乃 419  
 照月乃 555  
 儕立之 422  
 名湯竹乃 287  
 延葛乃 291  
 人乃渡 299  
 將歸人乃 423  
 零雪乃 319  
 眞木葉乃 425

久(ク)

若子乃 425  
 綠兒乃 466  
 見穗乃浦乃 259  
 黃葉乃 490  
 梁打人乃 317  
 世間乃 245  
 吾王乃 420  
 吾黑髮乃 387  
 吾日乃皇子乃 459  
 腋挾兒乃 296  
 居雲乃 481  
 久米能若子 239  
 久具都 481  
 久邇乃京 329  
 隱久乃 420  
 曾久做能極 475  
 貴久 295  
 時自久會 507  
 長久 242  
 天見如久 481  
 消去之如久 239  
 阿流久爾 481

之(シ)

戀久(コフラク) 259  
 所念久爾 261  
 不念久爾 366  
 不見久爾 291  
 不知久 291  
 宿名久二 474  
 (ヒサシ)遠久寸 479  
 不見久美 588  
 (ヒサシク)長久 292  
 (ヒサ)久有者 261  
 久者不有 379  
 久堅乃 239  
 久堅之 240  
 久方 420  
 久方乃 475  
 之頭氣師 259  
 波之吉可聞 240  
 波之吉佐寶山 420  
 之奈布 475  
 之奴波受而 259  
 之努櫃 261  
 八隅知之 379

安見知之

(シ)(爲)山影爾之氏

時爾不在之天

(用言ノ語尾)(形)恐之

清之

佐夫之毛

有雲知之

登保志呂之

涕具末之毛

山四見容之

如之

(動)廻之

種生之

(複語尾、敬)立之而

(複語尾、回)伊座之君

座之物乎

相之兒等

思之物乎

問之君

憑之心

結之情

吾標結之枝

400 397 480 455 392 284 460 459 522 384 588 309 524 449 524 258 260 524 475 443 375 329 478

(複語尾ノ一部)潔身而

麻之乎

召麻之乎

立動良之

有良之

酒西有之

庭好有之

高有之

船爾波有之

如此耳奈良之

(ジ)不見

(シ)(助詞)吾命之

涕之流

神代之所念

世間之

間遠之有者

語之告者

神爾之在者

壽爾之在者

不免物爾之有者

今代爾之樂有者

容之有者

566 343 460 461 241 313 413 472 304 453 283 505 478 256 294 256 342 341 383 454 420 一云



(方)

實之成名者 292 399  
 天之探女之石船 292  
 妹之家裏 306  
 妹之手 415  
 兒等之家道 302  
 鶴之哭 352  
 野島之埼 250  
 野島之前 251  
 松之根 451  
 真間之手兒名之奧 431  
 椰 431  
 真間能手兒名之奧津 432  
 城處 411  
 吾妹兒之屋前 474  
 吾妹子之奧椰 251  
 妹之結 469  
 妹之見師 464  
 妹之殖之 466  
 妹之有世者 560  
 家妹之 425  
 公之阿流久爾 463  
 君之云者 452

(乙)

君之臥有 421  
 香君之 443  
 鷄之鳴 382  
 吾妹子之將結標 402  
 吾妹子之見師 446  
 吾妹子之殖之 453  
 吾妹子之入爾之山 481  
 此之將死還生 327  
 消去之如久 466  
 君之隨意 412  
 不忘之爲 534  
 朝鳥之 481  
 蘆鶴之 485  
 荒玉之 443  
 虛蟬之 465  
 大船之 423  
 敷細之 438  
 白細之 460  
 高座之 481  
 高梭之 372  
 留火之 254  
 夏草之 250

鳥珠之 392  
 春草之 239  
 久堅之 379  
 百磯城之 257  
 明石之浦 326  
 笠縫之島 276  
 清之河 437  
 清見之埼 296  
 田兒之浦 318  
 手結之浦 367  
 夏實之河 375  
 藤江之浦 252  
 神之埼 265  
 粟路之野島之前 251  
 石村之道 423  
 淺野之雉 383  
 伊勢海之奧津白浪 306  
 稻見乃海之奧津浪 303  
 鏡山之石戶 418  
 香山之鉾相 259  
 春日之野邊 404  
 春日里之殖子水葱 407

勝壯鹿之間間能手 452  
 兒名 390  
 輕池之納廻 366  
 越海之角鹿乃濱 420  
 左佐羅能小野之七 420  
 相菅 278  
 然之海人 446  
 軻浦之天木香樹 447  
 軻浦之磯 511  
 豐國之鏡山 428  
 泊瀬山之山際 276  
 二見之自道 519  
 日本之山跡國 281  
 真野之榛原 281  
 真間之手兒名 293  
 陸奥之真野乃草原 396  
 三津之海女 454  
 三保乃浦廻之白管 434  
 仕 244  
 三湯之上 244  
 三吉野之御船乃山 315  
 見吉野之瀧 315

見吉野之芳野乃宮 315  
 見吉野之高城乃山 355  
 八十之湊 275  
 天雲之雷之上 235  
 青山之嶺 377  
 池之激 378  
 磯之草根 435  
 磯之室木 447  
 奥山之菅葉 299  
 奥山之磐本菅 299  
 大宮之内 397  
 河原之乳鳥 238  
 古家乃里之明日香 371  
 瀧上之三船乃山 268  
 瀧上之石穗乃上 242  
 高山之長道 241  
 夷之長道 255  
 東市之殖木 510  
 屋前之橋 411  
 屋前之石竹 464  
 山之末 393  
 天之芳來山 257  
 天之探女 292

神之御門 443  
 神之命 379  
 神之社 404  
 朋神之貴山 582  
 海若之奧 527  
 大王之遠乃朝廷 304  
 大王之御命 368  
 大皇之命 297  
 王之命 441  
 皇子之命 443  
 臣之壯士 478  
 皇神祖之神乃御言 479  
 我王之幸行處 295  
 大夫之心 478  
 海部之釣船 256  
 海人之呼聲 258  
 大聖之言 339  
 日之皇子 261  
 古之七賢人 340  
 大伴之名 480  
 賢木之枝 379



柘之枝 387  
 柘之左枝 586  
 石竹之其花 408  
 藤浪之花 350  
 銖棺之本 259  
 木立之繁 478  
 濱松之上 444  
 大御馬之口 478  
 雷之上 235  
 鳴鳥之音 322  
 度日之陰 317  
 國之三中 319  
 世間之遊道 347  
 世之事 492  
 昔者之舊堤 378  
 行幸之宮 315  
 白妙之手本 481  
 逆言之狂言 421  
 結之辱 401  
 國之盡 322  
 日之盡 372  
 夜之盡 372

秋津羽之袖 376  
 海人之鹽燒衣 415  
 音之清左 314  
 開有花之梅花 399  
 其山之水 519  
 天雲之 445  
 天地之 517  
 故鄉之 335  
 大皇之 460  
 王之親魂相哉 417  
 大夫之 364  
 手弱女之 379  
 吾背乃君之 286  
 夜之 370  
 磐金之凝敷山 301  
 開有梅之 398  
 河岸之 457  
 立雲之 244  
 大宮人之 323  
 鳴瀨之清有良武 356  
 其玉之 409  
 年之不知久 325

鳴音之 375  
 人之言嗣 392  
 有家武人之 451  
 過去人之 463  
 人言之繁 456  
 船之跡無如 351  
 眞木之立 456  
 島山之宜國 321  
 彼山之 241  
 山守之 351  
 (義之) (テシ) 我定義之 401  
 乍 (ツツ) 嘆乍 319  
 往來乍 401  
 念乍 394  
 戀乍居寸 401  
 住乍 319  
 寬見乍 425  
 背爾見乍 261  
 見乍 460  
 爲乍 370  
 所燒乍 460  
 令見乍 464  
 305 269 481 393 358 286 460 370 425 261 460 394 401 319 321 241 351 456 463 451 392 375

乎(フ)

花咲乎爲里 475  
 津乎能埼 352

(格助詞) 吾乎 262  
 吾乎將待會 454  
 寒朝開乎 337  
 齊忌戸乎 361  
 齊戸乎 443  
 宅乎毛 579  
 妹乎 420  
 妹乎將留 468  
 梅乎 300  
 春日野乎 376  
 象乃小河乎 473  
 象小河乎 460  
 君乎 392  
 君乎婆 468  
 樹村乎見者 468  
 賢良乎爲跡 300  
 此埼乎獨過者 376  
 濁酒乎 473  
 薩摩乃迫門乎 460  
 故去之里乎 300

佐保河乎 460  
 鹽乎令干 588  
 鹽乎令滿 588  
 島門乎 304  
 將結標乎 402  
 白浪乎 388  
 菅根乎 414  
 磐本菅乎 397  
 其乎見杼 466  
 竹玉乎 379  
 布士能高嶺乎 420  
 布士能嶺乎 317  
 橋乎 321  
 花橋乎 410  
 其玉乎 423  
 吾手枕乎 405  
 誰手本乎可 438  
 天歸月乎 459  
 月乎 240  
 妹手乎取 393  
 八十伴男乎 385  
 汝乎見者 478  
 309 478 385 393 240 459 438 405 423 410 321 317 379 466 397 414 388 402 304 388 588 588 460

妹名乎 285  
 酒名乎 359  
 長谷乎 425  
 燎火乎 319  
 昔人乎 309  
 見之人乎 443  
 人乎 344  
 人事乎 460  
 石村之道乎 425  
 敏馬乎過 250  
 敏馬乃埼乎 389  
 敏馬能埼乎 449  
 寧樂京師乎 331  
 平城京乎 330  
 舊都乎 305  
 御諸乎立而 420  
 武庫浦乎 358  
 驗無物乎 358  
 黃葉乎 423  
 若子乎置而 467  
 矢乎後將見人 364  
 山乎因鹿跡叙念 481  
 481 364 467 423 358 358 420 305 330 331 449 389 250 425 460 344 443 309 319 425 359 285



鏡山乎 擬敷山乎 此勢能山乎 棚引山乎 山道乎 奧爾念乎 哭乎毛置而 日本島根乎 山邊乎指而 落雪乎 長夜乎 惜此世乎 世間乎 弱薦乎 吾妹乎停不得 處女乎 鳴鴨乎 情乎遺爾 奧榔乎 風乎疾 吉志美我高嶺乎 浪乎恐美

388 385 294 431 346 416 250 471 239 351 443 462 319 460 366 481 276 466 287 286 301 417 463 一云

春日乎 船材乎 御心乎 山乎高可 樂乎有名 將隱乎 將有乎 置末思乎 種益乎 行益乎 召麻之乎 潔身而麻之乎 不見跡云物乎 所見云物乎 知物乎 令見麻思物乎 見手益物乎 座之物乎 思之物乎 有家類物乎 有家留物乎 乏(トモシ)乏寸

290 470 455 392 460 277 466 465 396 305 420 454 405 404 468 469 269 349 290 478 391 372

乙部

九(九月)(ナガツキ)九月 乞(コハ)乞者 (コヒ)神祇乞禱 吾波乞嘗 也(ヤ) 松之根也 安良米也 乳(チ) 乳鳥 帶乳根乃 亂(ミダリ)亂出所見 多頭羽亂 亂而 (マガフ)落亂雪 事(コト)事 事者將定

398 445 262 424 324 256 443 268 243 451 380 443 360 423 482 371 365 362 323 358 367 363

二部

人事乎 絕事無 死去事 結而石事 悔事乃 神二四座者 大船二 酒二染嘗 酒壺二成而師鴨 猿二鴨似 手二卷四而有 手二卷難寸 手二纏在 吾紐二 吾妹兒二 奈四二 君無二四天 殖而師故二 佐波二鳴

漢字索引

420 481 460 324 460 324 368 235 343 343 344 366 409 424 354 279 257 458 411 273

曲二

中々二 生左右二 至流左右二 年經左右二 思莫苦二 宿名久二 來二家里 (複語尾)干二家良進 (フタツ)無二 (フタ)二見自道 二見之自道 (フタリ)二吾見之 二作之 (二人)(フタリ)二人 (二手)(マデ)大宮之内二 手 (並二)(シ)來並二 云(イハ)將云爲便 (イヒ)云師 (イフ)死云事乎 不見跡云物乎

305 460 407 481 382 286 466 452 450 276 276 412 237 271 390 244 443 420 259 345 335 一云

所見云物乎

(イハ)云者 雖云 人者雖云 者 (所云)(イハエシ)所云人 (跡云)(トフ)聞跡云物會 五(イ) 五百枝刺 (五月)(サツキ)五月 (五月蠅)(サバハ)五月蠅 (十五日)(モチ)六月十五日 日 交(マジヘ)貫交 亦(マタ)亦 亦毛 京(ミヤコ)京 (亦打)(マツチ)亦打山 京引 久邇乃京 平城京

一三

400 230 465 396 443 369 423 324 423 320 423 289 423 289 483 423 一云 350 475 312 460 298 384 289 483



(京師)(ミヤコ)京師

寧樂京師

舊京師

人部

人(ヒト)人

人爾莫令蓋

己具人

住家類人

昔人

將歸人

似人

人曾言鶴

過去人

有家武人之

梁打人

愛人

待監人者

所云人者

見之人乎

七賢人

524 551 528 529 459 440

258 269 402 319 432 345 438 344 446 344 451 364 460 382 463 400

無人

人言

人事

軍人乃

大宮人

船人

(旅人)(タビト)旅人

(海人)(アマ)海人

海人釣船

(舍人)(トネリ)舍人

(二人)(フタリ)二人

仁(ニ) 都備仁鷄里

今(イマ)今

今(イマ)今

(今者)(イマ)今者

(今代)(コノヨ)今代

(今生)(コノヨ)今生

(今日)(ケフ)今日

仕(ジ) 白管仕

白雪仕物

(ツカヘ)將仕物常

仕奉

454 454 或云

257 248 460 456 454 260 或云 325

415 285 258 278 256 294 473 478

466 475 308 316 328 356 或云 357 462 482 485

312 348 349 248 356 416 454

261 454 261 454 261 454

445 457 261 454

仕奉而

付(ツケ)取付而

名付而有毛

名付毛不知

(ツク)吾紐二付

天降付

白香付

代(ヨ) 代

退代爾

幾代

神代

萬代

不知代經

(今代)(コノヨ)今代

(シロ)山代

令(セ) 令見麻思物乎

令見都

令見乍

(シメ)令滿

莫令蓋

令干

以(モチ)石ト以而

259

379 466 519 379 259 267 534 466 519 379 259

465 379 257 534 466 519 379 259

322 465 379 257 534 466 519 379 259

264 315 304 355 322 465 379 257 534 466 519 379 259

264 315 304 355 322 465 379 257 534 466 519 379 259

420 388 374 388 305 279 466 481 348 264 315 304 355 322 465 379 257 534 466 519 379 259

卷以而

(モチ)雪以滅

仰(アフギ)仰而

任(ヨサシ)任乃隨

伊(イ) 伊勢海之

伊豫

伊與

伊加土山

伊奈太吉

伊香爾安良牟

伊保里爲

伊射利爲流

伊射里爲流

伊佐夜歷雲

伊都伎坐等

伊波比毛得保理

伊波比回禮

伊波比拜

伊觸家武

伊座家留

伊座勢波

456

319 239 319 456

589 522 306 369 239 319 456

285 412 255 或本

250 285 412 255 或本

256 252 250 285 412 255 或本

454 307 435 239 239 239 420 428 256 252 250 285 412 255 或本

伊座之君

伊座都流香物

伊麻須

伊麻世

伊去波伐加利

伊去羽計

伊去吾妹

伊去者

伊都伎坐等

伊禰杼

伎須賣流玉

伎濃

(キ) 左和伎

伏(フス)向伏國

(フセ)折伏

伐(バ) 伊去波伐加利

(助詞)無有世伐

種有世伐

(キリ)船木伐

伐歸都

459

420 471 581 317 319

467 321 317 319

475 257 459 467 321 317 319

450 412 356 420 475 257 459 467 321 317 319

579 445 257 450 412 356 420 475 257 459 467 321 317 319

591 391 405 537 517 579 445 257 450 412 356 420 475 257 459 467 321 317 319

伴(トモ)大伴

八十伴男

似(ニル)似人

猿二鴨似

住(スミ)住家類

住吉

(スム)船上住

宇乃住石

(スマヒ)住乍

左佐羅能小野

佐農能崗

佐保

佐保河

佐保山

佐寶山

佐都雄

牟佐佐婢

佐波二鳴

佐夫之毛

伊佐夜歷雲

神佐備居賀

麻佐武

450

544 425 478 450

508 544 425 478 450

361 420 460 359 258 394 508 544 425 478 450

371 300 361 420 460 359 258 394 508 544 425 478 450

245 245 423 280 273 267 267 474 475 371 300 361 420 460 359 258 394 508 544 425 478 450



何(ナニ)何矣示 山佐倍光

(イカニ)何在歲月日

(何物)(ナニ)何物爾

(何時)(イツ)何時

何時毛

何時毛將有乎

何時然跡

何時鴨

(何處)(イツク)何處

(何所)(イツク)何所

(何在)(イツラ)何在登

(何方)(イカサマ)何方爾

(如何)(イカニ)如何爲鴨

(イカニカ)如何獨長夜

乎將宿

(奈何)(イカニ)奈何

(ナト)奈何

余(ヨ) 川余藤

川余杼

奈麻余美乃

於余頭禮可

(助詞)告志五余

(磐余)(イハレ)磐余

作(ツクリ)作之

佩(ハキ)取佩

來(コ)來者

與妹來之

名津匠來與

來並二

(コム)來生

(キ)不來座

慕來座而

渡來座而

速來而母

負來爾之

來二家里

(キニ)不折來家里

來來

(ク)來左

(クル)天傳來

撈來舟

零來雨

出來月

(クレ)戀來者

春去來者

(キタル)生來神之命

(ケリ)(複語尾)深去來

成來

時者成來

不如來

(ニケリ)來來

色爾出來

(ケル)相爾來鴨

成爾來鴨

憑有來

(來有)(ケル)名積來有鴨

(往來)(カヨヒ)往來乍

(比來)(コノゴロ)比來

(去來)(イザ)去來

侍(侍從)(サモラフ)侍從爾

依(ヨル)依浪

便(ベ)爲便

將言爲便

將云爲便

將爲須便

保(ホ)

將爲便

保爾出流

佐保

佐保河

佐保山

美保乃浦廻

伊保里爲

赤乃曾保船

登保志呂之

毛等保理

多毛登保里

於保爾曾見谿流

信(シ)

奈信

阿倍寸管

安倍而

指可倍氏

山佐倍光

可倍波

阿倍

阿倍乃島

字倍

宜奈倍

候(マモリ)風候

思過倍吉

(サモラヒ)立候

借(カサ)衣借益矣

(借有)(カレル)借有身

倭(ヤマト)倭島

倭部早

(倭文)(シヅ)倭文幡

停(トバメ)停不得

德(シヌビ)出立德

備(ビ) 神名備山

神左備居賀

神左備將往

神左備手

神左備爾

神左備留鹿

都備仁鷄里

傳(ツタヒ)天傳來

島傳

(ツタフ)百傳

價(アタヒ)價

儕(ナミ)儕立乃

儿部

兄(兄弟)(ハラカラ)兄弟

光(ヒカリ)光

山佐倍光

(ヒカル)高光

夜光玉

(テリ)待香光

(テル)押光

免(マヌカレ)不免物

兒(コ) 綠兒

哭兒成

腋挾兒

不相兒

兒等

相之兒等

出雲兒等

吾妹兒

田兒浦

田兒之浦

六兒乃泊

手兒名



入部

入(イラム)入日哉 454  
 (イリ)入江 466  
 入日成 466  
 入居 466  
 入爾之山 481  
 內(ウチ)大宮之內 445  
 內重爾 238  
 內日指 460

八部

八(ヤ) 八十之湊 273  
 八十伴男 478  
 八十隅坂 427  
 八十氏河 264  
 八雲刺 430  
 八隅知之 239  
 (助詞)御念八君 261  
 益目八 345  
 雨爾零寸八 460  
 愛八師 454

(八方)(ヤモ)(助詞)

家八方何處 287  
 立目八方 247  
 若目八方 346  
 將解八方 402  
 將變八方 331  
 將出八方 301  
 將有八方 400  
 將所忘八方 410  
 不言八方 424  
 舟公宣 249  
 (キミ)將超公 361  
 公之阿流久爾 425  
 在鶴公者 445  
 公者在然 444  
 往公鴨 445  
 (霍公鳥)(ホトトギス) 425  
 霍公鳥 425  
 六(ム) 六兒乃泊 485  
 (複語尾)鳴六 283  
 競敢六鴨 302  
 (十六)(シミ)十六社者 239

十六自物

(六月)(ミナツキ) 579  
 六月十五日 481  
 共(トモニ)共將有 258  
 (ト) 高部共 258  
 其(ゴ) 已知其智乃 319  
 許其思美 414  
 (ソ) 其乎 466  
 (ソノ)其玉 409  
 其鳥 408  
 其花 372  
 其路 381  
 其山 319  
 其夜 320  
 (ソモ)其彼母毛 401  
 具(ク) 香具山 337  
 久具都 295  
 四具禮 423  
 涕具末之毛 449  
 已具人 257  
 兼(ケム)刈兼 453

ン部

冬(フユ)冬木成 382  
 冷(スズシキ)冷者 347  
 凌(シヌギ)菅葉凌 299  
 凝(コゴ)凝敷山 301

ㇿ部

出(イデ)擲出卒 383  
 將出八方 301  
 出行道 468  
 出立有 319  
 出立而 420  
 出立徳 481  
 出來月 290  
 打出而 318  
 出而 366  
 出而 461  
 (イデヌ)保爾曾出流 481  
 (イヅ)亂出所見 256  
 出流船人 283  
 (テ) 船出爲而 246

思出

退出而 257  
 去出 260  
 色爾出來 295  
 出雲子 429  
 (出雲)(イツモ)出雲兒 430

刀部

刀(タチ)劍刀 478  
 分(ワカレ)分時從 317  
 別(ワカレ)別不勝鶴 276  
 榜將別 254  
 別者 276  
 手本矣別 276  
 伊射利爲流 252  
 伊去波伐加利 481  
 布里家利 276  
 戀爾家利 276  
 刺(サシ)網爾刺 310  
 五百枝刺 324  
 (サス)八雲刺 430  
 前(マヘ)前坐置而 443

(サキ)野島之前

磯前 273  
 廬前乃 298  
 (屋前)(ヤド)屋前 410  
 力部

力(チカラ)手力 419  
 加(カ) 伊加土山 235  
 加麻幡夜能 434  
 伊去波伐加利 317  
 外爾毛見之加 474  
 狂言加 420  
 狂言登加母 475  
 一有加母 276  
 努(ヌ) 情毛思努爾 266  
 之努櫃 366  
 思努妣都流可聞 465  
 効(シルシ)効 481  
 勇(イサ)勇魚取 366  
 動(サワギ)阿遲村動 260  
 (サワグ)立動良之 383  
 勝(カチ)勝野 275







之奴波受而  
名積叙吾來並一  
因香跡叙念

481 332 291

口部

口(ク) 隱口乃

424

隱口能

423

通計萬口波

425

(クチ)口

478

古(コ) 可古能島

255

(イニシ)古

266

(フル)古家乃里

268

(古昔)(イニシ)古昔

451

古昔大聖

339

召(メサ)召麻之乎

454

(メシ)召集聚

478

可(カ) 可古能島

255

可比奈

420

山可良志

315

水可良思

315

草取可奈和

385

可都知跡

472

266  
313  
324  
340  
387

(助詞)誰嬌可

誰嬌可

426

吾妹可

467

何所可將寄

480

山乎高可

290

念座可

445

所燒乍可將有

269

何時可將示

279

零來雨可

265

於余頭禮可

420

誰手本乎可

439

今毛可

556  
或云

誰將告可

448

常有奴可

332

波之吉可聞

479

悲呂可聞

478

吾於富吉美可聞

239

海可聞

241

山可聞

519

祇可聞

31f

今日可聞

356

思努妣都流可聞

465

不相可聞

379

所念可聞

333

外爾可聞

423

狂言等可聞

421

安禮爾家留可毛

307

獨可毛將宿

298

獨可毛

276

齋忌志伎可物

475

可飲有良師

338

(ベク)可有良師

347

(ベシ)可辛苦

440

(ベキ)可悔心

487

右(左右)(マデ)生左右二

259

木足左右

310

年經左右二

443

至流左右二

420

(左右)(カモカクモ)

599

左右將爲

481

合(嘆合)(ナゲカヒ)嘆合

481

吉(キ) 吉志美我高嶺

385

伊奈太吉

412

於富吉美

259

人曾奈吉

446

人毛奈吉

451

都禮毛奈吉

460

波之吉佐寶山

474

波之吉可聞

479

思過倍吉

422

(ヨシ)吉跡

460

吉野

375

吉野川

430

吉野山

429

三吉野

244

見吉野

315

青丹吉

328

(將吉)(ヨケム)將吉

289

(エ) 墨吉

283

住吉

394

名(ナ)

名

339

妹名

285

祖名

443

名耳母

451

名負

480

名細寸

503

名付而有毛

319

名付毛不知

466

名乘藻

362  
365

猪名野

279

得名津

283

神名備山

324

名次山

279

小彦名

355

名湯竹

420

手兒名

431  
432  
433

名豆颯

430

名津匝來與

443

名積來有鴨

383

名積叙吾來並一

382

本名

305

宿名久二

390

君爾有名國

422

(複語尾)告名者

363

成名者

399

(助詞)樂乎有名

349

(ナツゲ)名不知

319

向(ムケ)手向

427

(ムカ)向伏國

445

君(背向)(ソガヒ)背向爾

657

君(キミ)君

480

榮之君

454

吾背乃君

422

香君之

423

君之隨意

370

君乎

379

問之君波母

459

君師不座者

380

(吾君)(ワガミ)吾君

463

吹(フキ)吹返

457

將吹鳥

455

(フク)寒吹良武

425

吾(ワガ)吾命

352

吾於富吉美

482

吾大王

251

吾王

239

吾王

269

吾王

261

吾王

420

吾王

476

吾王

477

吾王

478



吾黑髮 481  
 吾盛 531  
 吾佐保河 371  
 吾山齋 452  
 吾勢 276  
 吾背子 268  
 吾背乃君 286  
 吾手枕 458  
 吾日乃皇子 239  
 吾紐 334  
 吾船 274  
 吾松 394  
 吾屋戶 384  
 吾屋前 420  
 吾聞都流 466  
 吾泣淚 420  
 吾泣 460  
 吾將枕 469  
 吾去鹿齒 284  
 吾行者 459  
 吾標結之 458  
 吾祭神 400

吾超去者 291  
 吾見之 450  
 吾來並二 382  
 念會吾爲流 372  
 (ア、ワ) 吾乎 357  
 (アレ、ワレ) 吾 454  
 (吾等) (ワレ) 吾等者 250  
 (吾君) (ワギミ) 吾君 376  
 (吾妹) (ワギモ) 吾妹 467  
 吾妹子 471  
 吾妹兒 474  
 告(ノラ) 告名者 279  
 告志且余 411  
 告世 446  
 (ツゲ) 語之告者 315  
 將告 362  
 語將告可 363  
 不告 365  
 (ツギ) 語告 279  
 呂(ロ) 登保志呂之 411  
 悲呂可聞 324

味(アヂ) 味村 257  
 呼(ヨビ) 呼聲 258  
 命(イコト) (命令) 441  
 大王之命 297  
 太皇之命 443  
 王之命 443  
 (尊稱) 神之御命 379  
 御子乃命 475  
 皇子之命 478  
 母命 443  
 (イノチ) 吾命 445  
 (御命) (ミコト) 御命 288  
 和(ワ) 和豆香山 368  
 和豆香蘇麻山 476  
 夢乃和太 475  
 左和伎 335  
 和我世故 476  
 和我不念久 475  
 和我歸 288  
 草取可奈和 332  
 (ニギ) 和細布 443  
 咲(エマ) 咲比 478

(サキ) 花會咲有 466  
 花咲乎爲里 475  
 咲而 455  
 (サク) 花咲 469  
 咲花 477  
 咽(ムセ) 情咽都追 453  
 哀(イタク) 情哀 469  
 哉(ヤ) 眞木葉哉 431  
 入日哉榜將別 254  
 獨哉將宿 463  
 見哉雪隱去 416  
 咲而有哉 455  
 霧有哉 429  
 將有哉 438  
 相哉 417  
 哭(ネ) 456  
 哭耳所泣 458  
 鶴之哭 324  
 哭者泣友 301  
 (ナキ) 啼耳哭管 481  
 醉哭 341  
 (ナク) 將哭 337

口部

哭乎毛置而 481  
 哭兒 460  
 (モ) 戀哭爲鴨 375  
 問(トハ) 問者 448  
 辭不問 481  
 (トヒ) 妻問 431  
 夕衢占問 420  
 問放流 460  
 問之君 455  
 喚(ヨバ) 不喚 286  
 (ヨバヒ) 鴨妻喚 257  
 啼(ネ) 啼耳哭管 481  
 啼耳鳴六 483  
 喪(モ) 悲喪有香 459  
 嘗(ナム) 吾波乞嘗 380  
 染嘗 343  
 嗣(ツギ) 彌繼嗣爾 324  
 言嗣 382  
 嘆(ナゲキ) 嘆乍 460  
 (嘆合) (ナゲカヒ) 嘆合 481

四(シ)

四極山 272  
 四具禮 423  
 四時自物 239  
 奈四二 257  
 見津見津四 435  
 目頰四 377  
 益目頰四寸 456  
 朝夕四天 458  
 君無二四天 458  
 卷四而有 566  
 (助詞) 神二座者 235  
 河四清之 324  
 山四見容之 324  
 神之社四無有世伐 404  
 (ヨ) 四十耳見乍 383  
 回(メグラ) 回之 388  
 (モトホ) 伊波比回禮 239  
 (タム) 榜回舟 357  
 (ミ) 榜手回行者 273  
 納回 390  
 因(ヨシ) 逢因 493  
 (ヨス) 因香 491



國(クニ)國

東國 319  
 甲斐乃國 319  
 新羅國 460  
 駿河能國 319  
 豐國 311  
 難波國 417  
 山跡國 418  
 親族兄弟無國 460  
 敷座國 460  
 向伏國 443  
 國之盡 443  
 國中者 322  
 國見爲 329  
 家待莫國 382  
 安良七國 426  
 君爾有名國 263  
 不有國 422  
 所念國 265

土部

土(ツチ)伊加土山 235  
 或云

在(アラ)常將在跡

(アリ)在鶴公者 244  
 在管裳 443  
 在然 324  
 (アレ)在者 461  
 雖在 482  
 左波爾雖在 322  
 物爾波在跡 460  
 (ナラム)何在歲月日 481  
 (ナラ)時爾不在之天 443  
 (ナル)在京師 443  
 今生在間 440  
 (ナレ)身在者 466  
 (纏在)マケル)手二纏在 349  
 (座在)マセル)敷座在 440  
 (立在)タテル)立在松樹 443  
 (何在)イツラ)何在登 443  
 地(ツチ)天地 448  
 坂(サカ)野坂乃浦 309  
 八十隅坂 427  
 坏(ツキ)一坏 246  
 坐(イマス)伊都伎坐等 515  
 317  
 420  
 420  
 443  
 478

(マセ)神爾之坐者

(スエ)前坐置而 443  
 垂(タリ)貫垂 379  
 城(キ)高城乃山 443  
 奧津城處 432  
 大荒城 353  
 百磯城之 441  
 (平城)ナラ)平城京 257  
 埒(サキ)津乎能埒 441  
 野島之埒 432  
 野島我埒 353  
 三津埒 257  
 敏馬乃埒 441  
 敏馬能埒 441  
 清見之埒 249  
 神之埒 250  
 此埒乎 250  
 堅(カタ)久堅之 352  
 久堅乃 330  
 渥(渥打)ヒツチ)渥打 250  
 堤(ツ、ミ)堤 240  
 (堤有)ツ、メル)堤有海 240  
 319  
 378  
 475  
 239  
 240  
 420  
 475

塞(セキ)將留塞 283  
 墨(スミ)墨吉乃 463

士部

士(ジ)布士能嶺 321  
 布士能高嶺 317  
 (壯士)ヲトコ)壯士 369  
 (武士)モノノフ)武士登 443  
 壯(壯士)ヲトコ)壯士 369  
 壺(ツボ)酒壺 343  
 壽(イクチ)壽 461

夕部

夏(ナツ)夏草 250  
 夏實之河 275  
 一云

夕部

夕(ヨヒ)朝夕 443  
 (ユフベ)夕爾波 456  
 (ユフ)夕霧 458  
 夕浪千鳥 324  
 夕不離 266  
 356

夕去者

夕去者 554  
 (夕衢占)ユフケ)夕衢占 420  
 外(ト)外重爾 443  
 (ヨソ)外爾可聞 425  
 外爾毛見之加 474  
 外爾見之 482  
 外爾見而思香 393  
 多(タ)多藝通瀨 314  
 多頭 324  
 多奈引 372  
 多毛登保里 475  
 安多良 391  
 加麻幡夜能 434  
 夜(ヤ)夜 302  
 (ヨ)夜之盡 370  
 秋夜 324  
 此夜 338  
 左夜 274  
 其夜 320  
 長夜乎 462  
 夜路 289  
 夜隱爾 290

(ヨル)夜

射狹夜歷月 393  
 伊佐夜歷雲 428

大部

大(オホキ)大聖 339  
 (オホ)大日本 475  
 大王 297  
 吾大王 261  
 我大王 261  
 大皇 240  
 大宮 441  
 大宮人 460  
 志賀之大津 257  
 大殿 258  
 明大門 288  
 大伴 261  
 大汝 254  
 大御馬 261  
 大荒城 441



大舟 366  
 大船 368 425 一云  
 (大夫)(マストラチ)大夫 364 366 406 478  
 天(テ) 朝夕四天 458  
 君無二四天 456  
 時爾不在之天 445  
 (アメ)天 445  
 天地 475 476 478  
 天之芳來山 515 517 420 420 445  
 天見如久 257  
 天歸月 239  
 天有 240  
 (アマ)天之探女 420  
 天原 289 317 379  
 天川原 420  
 天雲 235 319 321 420 445  
 天離 255  
 天傳來 261  
 (天降)(アモリ)天降付 257  
 天降就 260 或云  
 (天木香樹)(ムロノキ) 446  
 天木香樹

太(ダ) 角太河原 298  
 伊奈太吉 412  
 夢乃和太 355  
 事太爾 445  
 夫(ブ) 佐夫之毛 260 或云  
 (大夫)(マストラチ)大夫 364 366 406 478  
 夷(ヒナ)夷之長道 255  
 奇(クスシク)奇母 245  
 奈(ナ) 奈麻余美乃 519  
 伊奈太吉 412  
 可比奈 420  
 物念毛奈信 296  
 心神毛奈思 457  
 情神毛奈思 471  
 奈思 466 475  
 己具人奈四二 257  
 人曾奈吉 446  
 人毛奈吉 451  
 都禮毛奈吉 460  
 爲便奈美 356  
 毛等奈 356 或云  
 之奈布 291

多奈引 372  
 雲居奈須 372 472  
 如此耳奈良之 248  
 駿河奈流 284  
 成奈武 478  
 祈奈牟 284  
 宜奈倍 286  
 草取可奈和 379  
 (奈何)(イカニ)奈何 348  
 (ナド)奈何 285  
 奉(マツリ)和細布奉 285  
 仕奉 295  
 仕奉而 286  
 奏(マテセ)奏 379  
 奚(ケ) 散去奚留鴨 348  
 所言奚米 445  
 奧(オキ)奧撈所見 445  
 吉野川奧 409  
 奧爾持行 285  
 奧邊 285  
 奧部莫避 285  
 奧津白浪 294 274 257 327 420 270 312 277 237 279 445 445 409 285 285 286 379 348 284 478 248 372 372 472

奧津浪 305  
 奧浪 247  
 奧島 357  
 (オク)奧爾念 376  
 奧山 299 379 397  
 奧津城 452  
 奧柳 451 474  
 (陸奧)(ミチノク)陸奧 596

眷奴 294  
 常有奴可 475  
 所知奴禮 475  
 春去奴禮婆 332  
 往過奴禮婆 475  
 好(ヨク)好應祀 481  
 庭好有之 406  
 好爲而 431  
 如(シカ)不如來 475  
 (コト)跡無如 352  
 如聞 550  
 消去之如久 331  
 天見如久 256  
 相見如之 406  
 散去如寸 481  
 (ゴトク)如千歲 475  
 薰如 475  
 (如是)(カク)如是 475  
 (如此)(カク)如此 475  
 如此谷裳 475  
 如此谷母 475  
 如此耳跡 472

女(メ) 女 419  
 泊瀨越女 424  
 天之探女 292  
 手弱女 379  
 (處女)(ヲトメ)處女乎 250  
 (未通女)(ヲトメ) 一云  
 海未通女 366  
 (海女)(アマ)海女 293  
 奴(ヌ) 奴島 249  
 之奴波受而 291  
 (複語尾)隱奴 303  
 近著奴 250

如(シカ)不如來 475  
 (コト)跡無如 352  
 如聞 550  
 消去之如久 331  
 天見如久 256  
 相見如之 406  
 散去如寸 481  
 (ゴトク)如千歲 475  
 薰如 475  
 (如是)(カク)如是 475  
 (如此)(カク)如此 475  
 如此谷裳 475  
 如此谷母 475  
 如此耳跡 472

如此毛欲得 472  
 (如何)(イカニ)如何爲鴨 403  
 如何獨 462  
 妙(タヘ)白妙之 481  
 妣(ビ)思努妣都流可聞 465  
 妹(イモ)妹 465  
 妹名 445  
 妹家 447 276  
 妹鴨有牟 449 300  
 妹者不喚 452 303  
 (吾妹)(ワギモ)吾妹 464 328  
 吾妹兒 466 360  
 吾妹兒 468 376  
 妻(ツマ)鴨妻喚 469 385  
 妻爾 470 415  
 妻問 473 437  
 妻屋 481 437  
 始(ハツ)始瀨乃山 481  
 婢(ヒ)牟佐佐婢波 481  
 婆(バ)君乎婆 481  
 春爾至婆 483



有世婆 460  
隱去可婆 466  
春去奴禮婆 475  
往過奴禮婆 481  
婦(ツマ)誰婦可 426

子部

子(コ)子 337  
子等 443  
出雲子等 430  
御子之命 475  
子水葱 407  
吾背子 268  
(皇子)(ミコ)皇子 420  
皇子之命 478  
日之皇子 261  
吾日乃皇子 239  
(網子)(アゴ)網子 238  
(若子)(ワクゴ) 455  
久米能若子 307  
(ミドリコ)若子 467  
(吾妹子)(ワキモコ) 458

宀部

吾妹子 402  
(芽子)(ハギ)芽子花 446  
孤(コ)孤悲爾不有國 455  
孰(タレ)孰不戀有米 474  
481  
481  
483  
宅(イヘ)宅 460  
宇(ウ)宇乃住石 359  
宇禮牟會 327  
宇倍 310  
守(モリ)山守 401  
安(ア)安多良 391  
安倍而 388  
安禮爾家留可毛 307  
安良牟 一云  
安良米也 一云  
安良七國 245  
安良我欲比 263  
安里家禮騰 308  
(ヤス)安見知之 329  
定(サダメ)事者將定 394  
我定義之 393

(サダム)宮登定流 417  
(ヨロシ)宜奈倍 286  
言乃宜左 339  
島山之宜國 322

客(タビ)客 366  
客爲而 415  
舟公宜 367

宣 270  
室(ムロ)室木 447  
(石室)(イハヤ)石室 448

志都乃石室 355  
石室戶 309

宮(ミヤ)宮 417  
宮敷座 309  
芳野乃宮 355  
行幸之宮 307  
大宮 447  
大宮人 448

家(ケ) 249  
干二家良進 270  
布里家利 260  
戀爾家利 260  
戀爾家里 260  
來二家里 260

287 236 310 320 271 257 260 238 315 315 235 417 309 355 307 447 249 270 366 322 339 286 415 460 325 或云 325

生繼爾家里 322  
生家里 378  
來家里 392  
辛苦有家里 451  
移爾家里 478  
開家流香聞 464  
安禮爾家留可毛 307  
伊座家留 一云  
落家留 317  
零家留 318  
有家留 401  
有家留物乎 470  
常無里家留 308  
成家留鴨 452  
住家類 308  
有家類物乎 455  
滿闕爲家流 442  
淺爾家留香裳 292  
安里家禮騰 308  
家牟 307  
指爾家牟 一云  
知家武 291

(イヘ)家

爲家武 431  
有家武人 431  
伊觸家武 455  
家待莫國 426  
思家登 381  
家妹 360  
空家者 451  
荒有家 440  
家裳不有國 265  
家當 254  
家道 302  
家裏 306  
(ヘ)古家乃里 268  
(ヤ)家門當 255  
容(カホ)容鳥 372  
山四見容之 324  
宿(ネ)宿者 440  
將宿 298  
宿名久二 462  
不勝宿者 463  
588 390 298 440 324 372 255 268 306 302 254 265 440 451 398 360 381 426 287 365 415 460 461 471 481

左宿之

(ヤドラ)將宿 275  
(ヤドリ)驛宿 275

寄(ヨセ)將寄 480  
富(ホ)於富吉美 426

寒(サムク)寒吹 239  
寒將吹鳥 462

(サムキ)寒朝開 361  
河風寒長谷 425

(サムミ)秋風寒 465  
寢(イ)寢乃不勝宿者 388

(ネシ)靡寢 481  
實(ミ)實之成名者 399

寧(ナ)寧樂 375  
寬(ユタケキ)寬見乍 300

寶(ホ)佐寶山 474  
(タカラ)寶 319

寸部

寸(キ)皮爲酢寸 307  
鈴寸 252



靈寸物 卷難寸 貴寸 手弱寸 乏寸 名細寸 遠久寸 欲寸 益目頰寸 散去如寸 阿倍寸管 居寸 雨爾零寸八 雲隱去寸 伊射利爲流 伊射里爲流 射都流 射狹庭乃崗 射左欲比 射狹夜歷月 不絶射妹跡 將無

射(サ) (イ) (ム)

403 481 393 372 322 364 256 252 461 460 370 566 477 239 285 431 305 290 419 317 409 338

一本云

將吉 將惜 將蒔 將枕 將纏 將去 將歸 將往 神左備將往 將隱乎 將示 將云爲便 將言爲便 將通 將罷 將蓋跡 將見 將見人 將見每 將明 將告 語將告可

448 452 333 447 364 298 374 337 324 342 491 279 269 322 317 280 246 415 439 384 299 289

或云 一云

立居而 居中 雲居 雲居奈須 居雲乃 美沙居 (ナリ)居寸 居而 神佐備居賀 (スエ)齋戶乎居 忌穿居 妻屋 慮屋 吾屋戶 屋前 展(展轉)(コイマロビ)展轉 履(フミ)履立

山(ヤマ)山 足栖山

三三

391 324 267 324 290 354 301 393 315 477 319 481 319 482 319 478 410 384 411 420 411 464 466 469 451 481 379 420 245 350 370 362 242 243 372 312 443 363 372 460 242 269 285 315 386 351 301 402 244 467 481 442 242 342 466 475 460 425 399 282 468 398 457 351 275 274 480 298 462 463

將有八方 枝將有八方 將有哉 將所忘八方 將成時爾 榜將別 將死還生 將成 將吹鳥 將歸人 將結標 將座 將通君 將爲 將哭 將經 將待會 將刈 將見 將超公

小部

561 252 293 337 355 337 323 423 365 402 423 462 351 327 254 393 447 438 400 410

小(スクナ)小彦名 象乃小河 象小河 獵路乃小野 小野 小舟 棚無小舟 年魚小 小松 (コ) 小浪(サザレナミ)小浪 少(ヲ)髮梳乃少櫛 尙(ナホ)尙不如來 (スラ)山道尙矣 鴨尙爾

尤部 戶部 居(キ)雙居 入居 居而

就(ツク)天降就

372 481 466 260 390 392 350 278 314 394 475 272 353 420 239 332 316 355

或云

展(展轉)(コイマロビ)展轉 履(フミ)履立 山(ヤマ)山 足栖山

三三

391 324 267 324 290 354 301 393 315 477 319 481 319 482 319 478 410 384 411 420 411 464 466 469 451 481 379 420 245 350 370 362 242 243 372 312 443 363 372 460 242 269 285 315 386 351 301 402 244 467 481 442 242 342 466 475 460 425 399 282 468 398 457 351 275 274 480 298 462 463



有間山 460  
 伊加土山 235 或本云  
 活道山 478  
 鏡山 311 417 418  
 天之芳來山 257  
 香具山 334  
 香山 259 260 或云  
 笠乃山 374  
 春日山 372  
 神名備山 324  
 相樂山 481  
 佐保山 473  
 佐寶山 474  
 四極山 272  
 鹽津山 365  
 勢能山 285 286 291  
 筑羽乃山 382  
 名次山 279  
 泊瀨山 282 428  
 始瀨乃山 420  
 振乃山 422  
 亦打山 298

御笠乃山 372  
 三笠乃山 373  
 三船乃山 242 245  
 御船乃山 244  
 矢釣山 262  
 吉野山 429  
 和豆香山 475  
 和豆香蘇麻山 476  
 荒山中 241  
 青山之 377  
 奥山 299 379 397  
 島山 322  
 貴山乃 382  
 高山 382 420 421  
 棚引山乎 287  
 見杲石山 382  
 其山 401  
 山代 481  
 山背 277  
 山跡 303  
 山跡國 319  
 山影 375

山下 270  
 山道 332  
 山邊 460  
 山際 428 460 466  
 山守 401  
 山主 402  
 山隱都禮 471  
 (山齋)(シマ)吾山齋 452  
 岸(キシ)河岸之 437  
 峯(ネ)高峰 452  
 島(シマ)島待不得而 463  
 粟島 319  
 阿倍乃島 437  
 淡路島 452  
 笠縫之島 471  
 可古能島 471  
 奧島 471  
 倭島 471  
 山跡島根 471  
 日本島根乎 471  
 高島乃 471  
 奴島爾 249

水島 245  
 野島之崎 246  
 野島之前 250  
 野島我崎 251  
 島山之 250 一云  
 島門 322  
 島傳 304  
 崗(ヲカ)射狹庭之崗 389  
 佐農能崗 304  
 嶺(ミネ)嶺 322  
 吉野山嶺 361  
 高嶺 377  
 布士能高嶺 429  
 不盡能高嶺 317 318 322  
 布士能嶺 319  
 不盡嶺 321  
 吉志美我高嶺 320  
 (タケ)吉志美我高嶺 385  
 川(カハ)明日香川 356 或云  
 吉野川 450  
 川津 356

工部

川余藤 325  
 川余村 375  
 朝川渡 460  
 (川原)(カハラ)天川原 420  
 左(サ) 左佐羅能小野 420  
 左枝 386  
 左夜 274  
 左和伎 257  
 鹽佐爲乃 388  
 左宿之 481  
 射左欲比 372  
 見毛左可受 450  
 神左備將往 322  
 神左備爾 420  
 神左備手 317  
 神佐備祁留鹿 259  
 還左爾 449  
 往左 281  
 去左 450  
 來去 281

己部

清左 314  
 言乃宜左 339  
 左波爾 389  
 左波爾雖在 322 460  
 左波爾雖有 382  
 (左右)(マゴ)木足左右 310  
 生左右二 259  
 至流左右二 420  
 年經左右二 443  
 (カモカクモ)左右將爲 399  
 差(ヤ)差間遠乎 302  
 己(コ) 己智其智乃 319  
 己其人 257  
 胸己所痛 466  
 鶉己曾 239  
 巾(領巾)(ヒレ)袴領巾 285  
 市(イチ)東市 310  
 市道 284



(チ) 年魚市方 271  
 布(フ) 布士能高嶺 317  
 布士能嶺 321  
 之奈布 291  
 布里家利 320  
 (シキ) 布細乃 460  
 (細布)(タヘ)和細布 448  
 (軍布)(メ)軍布 278  
 師(シ) 見知師 366  
 之頭氣師 388  
 泊師高津 292  
 聖跡負師 339  
 幕跡云師 407  
 見師屋前 469  
 見師輛浦之 446  
 思爲師 322  
 榜去師船 361  
 成而師鴨 343  
 纏而師 438  
 殖而師故二 411  
 清有師 315  
 貴有師 315

有良師 333  
 可有良師 340  
 社師留焉 405  
 君師不座者 457  
 日本師所念 359  
 醉哭爲師益有良之 341  
 愛八師 454  
 (京師)(ミヤコ)京師 324  
 舊京師 329  
 帶(タラ)帶乳根乃 443  
 (オビ)帶解替而 431  
 (オヒ)鞞帶而 480  
 常(ツネ)常 303  
 無常跡 472  
 常有之 465  
 常將有 473  
 常將在 244  
 常有奴可 242  
 奧柳常 474  
 話禮常 237  
 將仕物常 457  
 (常世)(トコヨ)常世 261  
 446

(常幣)(トキハ)常幣 308  
 幡(ハタ)倭文幡 451  
 幣(ヌサ)置幣者 300  
 干部  
 干(ヒ) 鹽干乃 293  
 令干 388  
 未干爾 469  
 干去者 360  
 干二家良進 271  
 (ホサ)不干 443  
 衣袖不干 460  
 (カレ)干卷 435  
 (カレヌレ)雖干 384  
 (野干玉)(ヌバタマ) 502  
 野干玉 443  
 平(タヒラケク)平 443  
 (平城)(ナラ)平城京 330  
 年(トシ)年 323  
 年緒 160  
 (行年)(ソネ)莫零行年 295  
 (年魚)(アユ)年魚小 473

年魚市方 271  
 幸(サキク)眞幸有者 289  
 間幸座與 443  
 (行幸)(イデマシ) 315  
 行幸之宮 322  
 行幸處 295  
 (幸行)(イデマシ)幸行處 295  
 女部  
 幾(イク)幾代 355  
 广部  
 度(ワタル)度日 317  
 座(クラ)高座 372  
 (キ)座待月 333  
 (イマシ)座之物乎 460  
 (イマス)宮敷座 255  
 敷座 或本  
 靈母座神 319  
 鎮十方座祇 319  
 (イマセ)念座可 443  
 (マサ)不座者 457

不來座 418  
 將座 355  
 (マシ)慕來座而 490  
 渡來座而 460  
 伊座家留 307  
 伊座勢波 454  
 伊座之君 459  
 伊座都流香物 420  
 (マス)雲隱座 441  
 茂座 261  
 敷座國 460  
 (マセ)座者 235  
 間幸座與 或本  
 (座在)(マセル)敷座在 329  
 庫(コ) 武庫浦 358  
 武庫乃海 256  
 庭(ニハ)庭好有之 256  
 射狹庭乃崗 256  
 (助詞)明日香庭 322  
 朝庭 268  
 (朝庭)(ミカド)遠乃朝庭 481  
 廬(イホリ)廬 235

(イホ)廬前乃 296  
 廬原乃 296  
 (フセ)廬屋 451  
 互部  
 延(ハフ)延葛乃 423  
 廻(ミ) 美保乃浦廻 454  
 (タメ)許藝廻者 389  
 (磯廻)(アサリ)磯廻爲鴨 363  
 七部  
 式(シキ)百式乃 260  
 (シ) 百式紀乃 323  
 弓部  
 弓(ユミ)梓弓 311  
 白眞弓 239  
 (弓上)(ユスエ)弓上 564  
 引(ヒカ)引者 414  
 (ヒキ)京引 312  
 引豐國之 311  
 多奈引 372







不念久爾 (オモヒ) 念座可 念憑而 念應過 念會吾爲流 物念 念而 念乍 念鷄目鴨 (オモフ) 將時登會念 因香跡叙念 與爾念乎 (オモへ) 念者 物念者 雖念 (モフ) 曾許念爾 (念有) (オモへリ) 念有之 (オモへル) 念有 (御念) (オモホス) 御念八君 (所念) (オモホユ) 所念 古所念

242 445 425 525 572 296 425 425 460 384 481 376 454 474 333 409 466 457 374 350 266 304 329 359 433 315

(オモホユル) 所念可聞 (オモホユラ) 所念國 所念久爾 怜(何怜)(アハレ) 何怜 (不怜)(サアシ) 不怜 思(シ) 情毛思努爾 思努妣都流可聞 思美彌爾 許其思美 心神毛奈思 情神毛奈思 奈思 食賜麻思 置末思乎 令見麻思物乎 見而思香 隱爾計良思 (助詞) 水可良思 (オモハ) 思爲師 思波牟 不思爾 思莫苦二

335 371 463 415 434 266 465 460 414 457 471 466 475 468 468 475 393 413 315 322 482 444 244

不思想 (オモヒ) 歌思 思出 思過倍吉 思之物乎 (オモフ) 無人思丹 (オモへ) 思者 雖思 (モフ) 思家登 (思有) (オモへリ) 思有之 (オモへル) 思有者 (シヌビ) 思權 (シヌベ) 見乍思跡 何(何怜)(アハレ) 何怜 恒(ツネニ) 恒見杼毛 恐(カシコ) 恐之 高見恐見 恐美 (カシコミ) 恐等 浪矣恐 命恐 御命恐

478 322 473 422 392 434 524 260 381 481 253 367 464 415 377 475 321 338 239 249 297 441 445 568

悔(クヤシキ) 悔言

悔事乃 (クユ) 雖悔 可悔心 悲(ヒ) 孤悲爾不有國 (カナシ) 悲霜 情悲裳 (カナシク) 悲喪有香 (カナシキ) 悲呂可聞 情(コ、ロ) 情 情哀 痛情者 (情神)(コ、ロト) 情神 惜(ナシ) 惜裳 (ナシキ) 惜此世 (ナシケ) 將惜 意 (隨意)(マニマ) 任乃隨意 (マニマニ) 君之隨意 (ウツクシキ) 愛人 (ハシキ) 愛八師 慕(シタヒ) 慕來座而

420 420 410 457 325 434 或 450 459 478 467 472 471 435 445 299 569 412 439 454 466 460 170

憑(タノミ) 憑之心

念憑而 憑有來 (憑有)(タノメリ) 憑有之人 憑有之皇子 憚(ハバカリ) 行憚而 憶(オク) 憶良 應(ベク) 應還 (ベキ) 念應過孤悲 好應祀 懲(コリ) 不懲而 懸(カケ) 懸者 懸卷欲寸 取懸 懸而 懸有 戀(コホシ) 戀久 心戀敷 物戀敷爾 戀敷牟鴨 戀石見

480 423 470 460 478 353 337 439 325 406 361 285 235 379 365 420 289 599 253 270 311 582 170

(コヒ) 不戀有米

不戀有米 不戀日 君爾戀 戀哭爲鴨 片戀 戀來者 戀乍居寸 戀爾家里 戀爾家利 (コフ) 戀良霜 (コフラ) 妹爾戀久 (コフレ) 雖戀 成(ナラ) 不成者 不成而 (ナリ) 成名者 成奈武 將成 將成時爾 成極

393 436 409 456 373 372 255 370 230 510 365 326 481 411 335 399 348 331 369 481 170



成而師鴨 439 343  
 時者成來 439  
 成爾來鴨 516  
 成來 350  
 成家留鴨 452  
 鳴成 268  
 (ナル)鴨會鳴成 375  
 (ナス)海成可聞 241  
 五月蠅成 478  
 常磬成 308  
 哭兒成 460  
 水鴨成 466  
 鶉成 259  
 入日成 466  
 (モリ)冬木成 382  
 (成有)(ナレル)成有山 319  
 我(ガ)安里我欲比 479  
 吉志美我高嶺 385  
 手結我浦 366  
 野島我埼 256  
 和我世故 247  
 妹我可悔 437

君我 439  
 久米能若子我 307  
 志斐能我強語 435  
 和我世故我 247  
 吾背子我 268  
 和我不念久 242  
 和我歸 263  
 泊瀨越女我手爾纏 424  
 在  
 (ワガ)我大王 408  
 花爾毛我 424  
 我王 295  
 我袖 240  
 我聞都流母 269  
 我擄行者 420  
 我思莫苦二 366  
 我定義之 420  
 我乘有 366  
 (アレ)我母 394  
 戸部 244  
 石戸 418  
 419

吾屋戸 384  
 石室戸 309  
 齊戸 379  
 齊忌戸 420  
 (ハ) 443  
 所(ソ)胸已所痛 466  
 (何所)(イツク)何所 480  
 (所聞)(キコユ)所聞 258  
 (キコシ)所聞而 460  
 (所泣)(ナカユ)所泣 324  
 (所云)(イハエ)所云人者 445  
 (所言)(イハエ)所言奚米 312  
 (所念)(オモホユ)所念 456  
 古所念 315  
 (オモホユル)所念可聞 266  
 (オモホユラ)所念國 304  
 (所見)(ミエ)所見十方 329  
 (ミユ)所見 359  
 亂出所見 270  
 浪上從所見 336  
 所見云物乎 296  
 (ミユル)所見 256

背向爾所見 357  
 (所忘)(ワスラエ) 447  
 將所忘八方 431  
 不所忘 447  
 (所知)(シラサ)所知卒登 476  
 (シラシ)所知奴禮 475  
 (所燒)(モエ)所燒乍 269

手部

手(テ)手 366  
 妹手乎取 409  
 妹之手 424  
 手取持而 420  
 從手 435  
 手兒名 435  
 (助詞)用手 269  
 神左備手 317  
 根深目手 397  
 有金手 333  
 見手益物乎 277  
 手力 419  
 手本 439  
 漢字索引 481

吾手枕 366  
 玉手次 420  
 木綿手次 366  
 手結 420  
 手結之浦 366  
 手向 427  
 手祭 367  
 手折而 427  
 手折而毛 367  
 手弱寸 366  
 手忘而 420  
 榜手回行者 420  
 (一手)(カタテ)一手者 366  
 (二手)(マデ) 443  
 大宮之内二手 443  
 (手弱女)(タワヤメ) 273  
 手弱女 392  
 打(ウタ)不打而 419  
 (ウチ)打靡 466  
 打緣流 280  
 打出而 300  
 打越 427

打越見者 272  
 (ウチテ)打莫行 265  
 (ウツ)梁打人 466  
 打蟬乃 387  
 打背見乃 466  
 (亦打)(マツチ)亦打山 482  
 (濕打)(ヒツチ)濕打 478  
 抑(オサ)抑駐 475  
 折(チラ)不折來家里 298  
 (チサ)折伏 482  
 手折而 466  
 手折而毛 280  
 (チリテ)折挿頭 379  
 抱(ウダキ)抱見 425  
 押(オシ)押光 466  
 (オス)押日 280  
 拜(チロガミ)伊波比拜 379  
 (チロガメ)伊波比拜目 443  
 持(モタ)不持 481  
 (モチ)久具都持 425  
 持行而 259  
 持而 259



取持而  
手取持而  
木綿取持  
指(サシ)指可倍氏  
柄者指爾家牟

指而

(サス)内日指  
振(フリ)振起  
振離見者  
振放見者

(フル)袖振妹

振乃山  
振麻比

挾(ハサム)腋挾兒

掛(カケ)掛卷母  
掛卷毛

探(サグ)天之探女

挿(挿頭)(カサス)挿頭跡

撈(コガ)不撈  
撈去師  
撈轉小舟

558 551 586 258 425 292 478 475 481 478 422 376 517 289 264 460 460 407 461 443 408 580 478 466

支部

擄出牟  
擄來舟  
(コグ)擄所見  
摩(マ)薩摩乃迫門

改(カハラ)不改  
放(ハナツ)雖放  
(サク)振放見者  
(サク)問放流

故(コ)和我世故  
(ユエ)如是故爾  
不相兒故荷  
殖而師故二

(フリ)故去之里  
(フリニシ)故鄉之

敏(ミス)敏馬  
整馬乃琦  
敏馬能琦

敏(ヘ)曾久敏能極  
將爲須敏

敢(アヘ)敢敢六鴨

敢(アヘ)敢敢六鴨

302 460 420 449 389 250 553 334 411 372 305 247 460 517 327 315 248 270 260 588 或云

四四

散(チリ)散去奚留鴨  
散去如寸  
敷(シキ)宮敷座  
敷座  
敷座在  
敷座國  
敷細之  
敷細乃  
千重浪敷爾  
時敷時跡  
凝敷山  
心戀敷可古能島  
物戀敷爾

敷(シバ)敷鳴

(シケ)戀敷牟鴨

文部

文(モ)祖名文  
(アヤ)文爾恐之

(倭文)(シツ)倭文幡

斐(ヒ)甲斐乃國  
志斐

256 319 451 478 445 372 511 270 255 301 382 409 461 458 460 329 322 255 477 277 357 或本

斤部

新(シ)新羅國

(アラタ)新世

方部

方(カタ)久方乃

久方

年魚市方

(ヘ)邊津方

(此方)(カニ)此方彼方毛

(彼方毛)(カクニ)此方彼方毛

(何方)(イカサマ)何方爾

(十方)(トモ)寶十方

鎮十方

寶跡言十方

不所見十方

言十方

見十方

(八方)(ヤモ)家八方何處

漢字索引

287 434 346 395 545 319 319 412 412 257 271 261 292 481 460

八方

立目八方

將解八方

將出八方

將變八方

將有八方

將所忘八方

不言八方

於富吉美

於保爾曾見谿流

於余頭禮可

於丹

於雲

旅(タビ)旅

益旅而

(旅人)(タビト)旅人

族(親族)(ウカラ)親族

日(ヒ)度日之陰

日部

517 460 415 440 252 451 444 390 261 420 476 259 424 447 400 351 301 402 247 546 410 一云

入日成

內日指

春日

日之皇子

吾日乃皇子

日本

歲月日香

入日哉

此日

立西日從

不泣日

絕日

不戀日

一日

日之盡

彌日異

稻日野

押日

足日木能

足日木能

(今日)(ケフ)今日

(明日)(アス)明日從

四五

425 248 414 267 379 255 475 572 409 403 245 473 443 275 254 443 319 259 261 324 319 468 356 416 454



明日香 268  
 從明日香 423  
 明日香河 325  
 明日香川 356  
 昨日毛 356  
 (昨日)(キノフ)昨日社 444  
 (比日)(コノゴロ)比日 436  
 (十五日)(モチ) 454  
 六月十五日 444  
 (日本)(ヤマト)日本 359  
 日本島根 367  
 大日本 389  
 (春日)(カスガ)春日 475  
 春日里 366  
 春日野 404  
 春日山 407  
 旦(アサ)旦雲二 404  
 且開 372  
 (アサナ)朝旦 406  
 早(ハヤク)倭部早 460  
 明(アカ)明石 280  
 (アカシ)明大門 254

明門 255  
 (アケ)將明 388  
 明去者 388  
 (アキラ)明米之 478  
 (明日)(アス)明日 425  
 明日香 425  
 從明日香 425  
 明日香河 325  
 明日香川 356  
 昔(ムカシ)昔 316  
 昔人 352  
 (昔者)(ムカシ)昔者 474  
 (イニシへ)昔者 356  
 (古昔)(イニシへ)古昔 325  
 古昔大聖 425  
 春(ハル)春 268  
 春日 324  
 春霞 372  
 春草之 257  
 春去來者 359  
 春去奴禮婆 431  
 (春日)(カスガ)春日 578  
 春去來者 475  
 或云 260

春日里 407  
 春日野 405  
 春日山 372  
 昨日毛 444  
 昨(昨日)(キノフ)昨日社 454  
 是(如是)(カク)如是 444  
 是(如是) 455  
 時(シ)四時自物 470  
 (トキ)時 469  
 分時從 475  
 時敷時跡 439  
 將成時爾 467  
 四具禮能時者 469  
 大荒城乃時 475  
 時爾不在 282  
 時自久會 598  
 (何時)(イツ)何時 588  
 何時間 467  
 何時然跡 445  
 何時毛將有乎 259  
 何時鴨 279  
 何時毛 517  
 何時毛 443  
 何時毛 441  
 何時毛 425  
 何時毛 398  
 何時毛 582  
 何時毛 517  
 何時毛 598  
 何時毛 439  
 何時毛 467  
 何時毛 469  
 何時毛 475

晚(ユフ)晚闇跡

晚(ユフ)晚闇跡 460  
 (木晚)(コノクレ)木晚 257  
 晝(ヒル)晝 297  
 智(チ)已知其智乃 319  
 暇(イトマ)無暇 278  
 暖(アタタケク)暖所見 336  
 暮(ユフ)暮越行而 298  
 暮去者 336  
 暮獵爾 478  
 (ユフベ)此暮 388  
 (クレ)暮去者 275

日部

曲(ツバラ)曲曲二 333  
 更(カハラ)不更 322  
 更經見者 478  
 (サラニ)更 483  
 會(ソ)會久徹能極 420  
 赤乃會保船 270  
 會許念爾 466  
 (ツ)(助詞)人會奈吉 446  
 人會言鶴 420

月部

神會 40  
 馬會爪突 365  
 海會 319  
 住家類人會 303  
 花會咲有 466  
 鴨會鳴成 375  
 念會吾爲流 372  
 哭耳會吾泣 458  
 標耳會結焉 414  
 宇禮牟會 327  
 保爾會出流 326  
 於保爾會見谿流 476  
 將時登會念 384  
 時自久會 317  
 將有登會 442  
 聞跡云物會 369  
 將待會 567  
 鶉已會 259  
 昔許會 474  
 詔許會 237  
 替(カへ)帶解替而 431

月(ツキ)月

天歸月 290  
 照月乃 302  
 此照月 595  
 座待月 445  
 (五月)(サツキ)五月 425  
 (五月蠅)(サバへ)五月蠅 388  
 (六月)(ミナツキ) 442  
 六月十五日 317  
 (九月)(ナガツキ)九月 240  
 有(アラ)有者 478  
 樂有者 283  
 有雲知之 288  
 樂有名 423  
 樂乎有名 320  
 將有 349  
 將有跡 348  
 將有登會 258  
 將有乎 348  
 將有哉 285  
 將有哉 315  
 將有哉 586